

# 男女共同参画に関する市民意識調査

## 報告書

令和3年1月

宇城市

# 目次

第1部 調査の概要.....	2
調査の概要.....	3
1. 調査の目的.....	3
2. 調査項目.....	3
3. 調査設計.....	3
4. 回答者のプロフィール.....	5
第2部 調査結果の要点.....	8
調査結果の要点.....	9
1. 男女平等について.....	9
2. 結婚観について.....	9
3. 家庭生活全般について.....	10
4. 子育て・教育について.....	10
5. 女性の社会参画について.....	11
6. 仕事・家庭・地域活動などの両立について.....	12
7. 配偶者などからの暴力について.....	13
8. 男女間のセクハラについて.....	14
9. 人権の尊重について.....	15
10. メディアにおける性・暴力表現に関する意識について.....	15
11. 男女共同参画に関するご意見やご要望.....	15
12. 熊本地震や復興関連について.....	17
まとめ.....	17
第3部 調査結果.....	19
調査結果.....	20
1. 男女平等について.....	20
2. 結婚観について.....	27
3. 家庭生活全般について.....	30
4. 子育て・教育について.....	40
5. 女性の社会参画について.....	45
6. 仕事、家庭、地域活動等の両立について.....	52
7. 配偶者などからの暴力について.....	68
8. 男女間のセクハラについて.....	79
9. 人権の尊重について.....	84
10. メディアにおける性・暴力表現に関する意識について.....	88
11. 男女共同参画に関するご意見やご要望.....	90
12. 熊本地震や復興関連について.....	101
資料編.....	116
資料編.....	117

# 第1部 調査の概要

# 調査の概要

## 1. 調査の目的

---

男女共同参画に関する市民の意識や実態の変化を分析し、現状とこれからの取り組む課題を把握する。また、男女共同参画計画を見直すための基礎資料として活用し、今後の男女共同参画を効果的に推進することを目的とする。

## 2. 調査項目

---

- (1) ご自身のことについて
- (2) 男女平等について
- (3) 結婚観について
- (4) 家庭生活全般について
- (5) 子育て・教育について
- (6) 女性の社会参画について
- (7) 仕事、家庭、地域活動等の両立について
- (8) 配偶者などからの暴力について
- (9) 男女間のセクハラについて
- (10) 人権の尊重について
- (11) メディアにおける性・暴力表現に関する意識について
- (12) 男女共同参画に関するご意見やご要望
- (13) 熊本地震や復興関連について

## 3. 調査設計

---

### (1) 調査対象地域

宇城市内全域

### (2) 調査対象

市内に在住する20歳以上の市民3,000人

### (3) 調査対象者の抽出方法

住民基本台帳から無作為抽出

### (4) 有効回収率

46.1% (回収数 1,382 票)

### (5) 調査方法

郵送による配布、回収

### (6) 調査期間

令和2年7月6日(月)から令和2年7月31日(金)

## (7)調査結果利用上の留意事項

- ・文章や表、グラフ中の回答割合(相対度数)は百分比のポイント以下2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にならないことがある。
- ・2つ以上の回答を求めた(複数回答)質問の場合、その回答割合の合計は原則として100%を超える。
- ・数表等に記載された「n」は、回答割合算出上の基数(回答数)を示している。
- ・全問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問の回答割合は、層化された回答者を基数として算出している。
- ・文中では選択肢(変数)を「 」で示しており、選択肢の文章が長い場合は、一部省略したところがある。また、2つ以上の選択肢を合計して表す場合には『 』で示している。
- ・帯グラフについて、回答割合が5%未満のものは数値表示を省略している。
- ・サンプル数nについて、性別でのクロス集計などにおいて、性別が無回答であるサンプルを含むため、男女の合計が全体数と合わない場合がある。

なお、本報告書では、国や熊本県の調査結果と比較可能な項目の一部についてその内容を掲載し、今回本市の実施した調査結果との比較を行っている。

比較に使用した調査は以下のとおり。

国:「男女共同参画社会に関する世論調査」(令和元年度:内閣府)

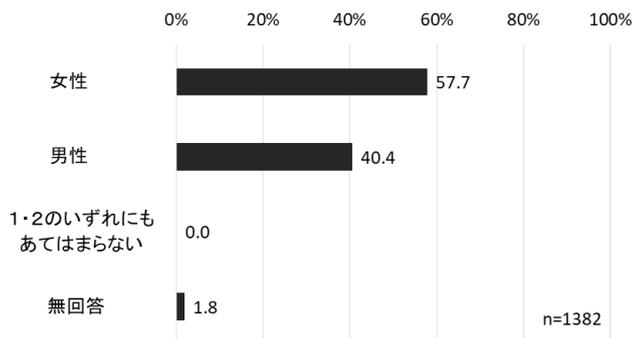
熊本県:「男女共同参画に関する県民意識調査」(令和元年度:熊本県)

また、平成22年及び平成27年に実施した「宇城市男女共同参画市民意識調査」についても、必要に応じて比較を行っている。

## 4. 回答者のプロフィール

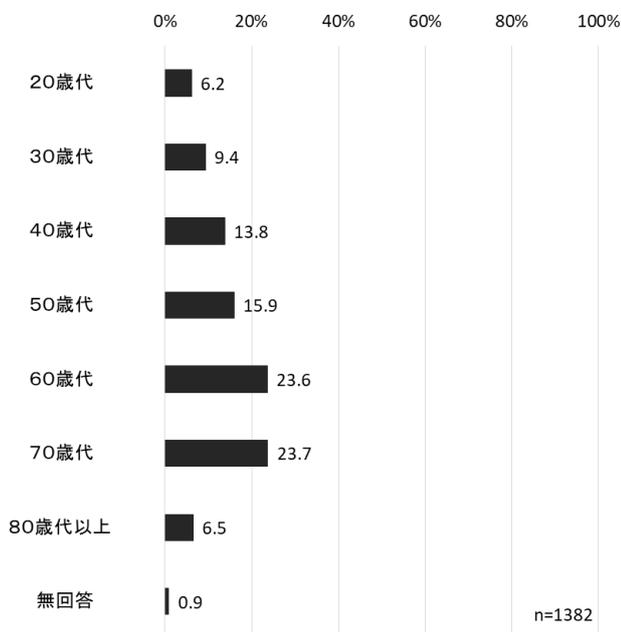
### (1)性別

「男性」40.4%、「女性」57.7%で、女性の割合が高い。



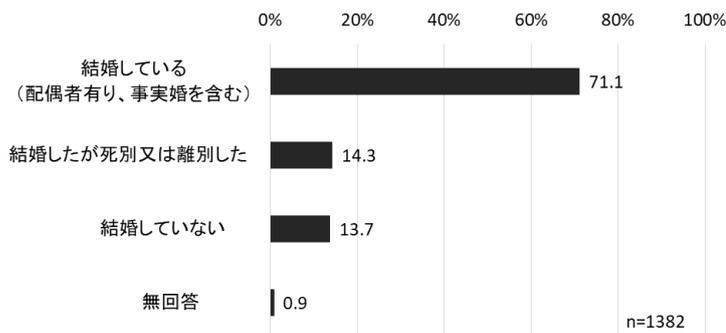
### (2)年齢

「70歳代」が23.7%と最も多く、これに「60歳代」の23.6%が続く。『60歳代以上』の高年齢層が全体の53.8%を占めている。



### (3)婚姻状況

「結婚している(配偶者有り、事実婚を含む)」が71.1%を占めている。また、「結婚していない」は13.7%、「結婚したが死別又は離別した」は14.3%となっている。

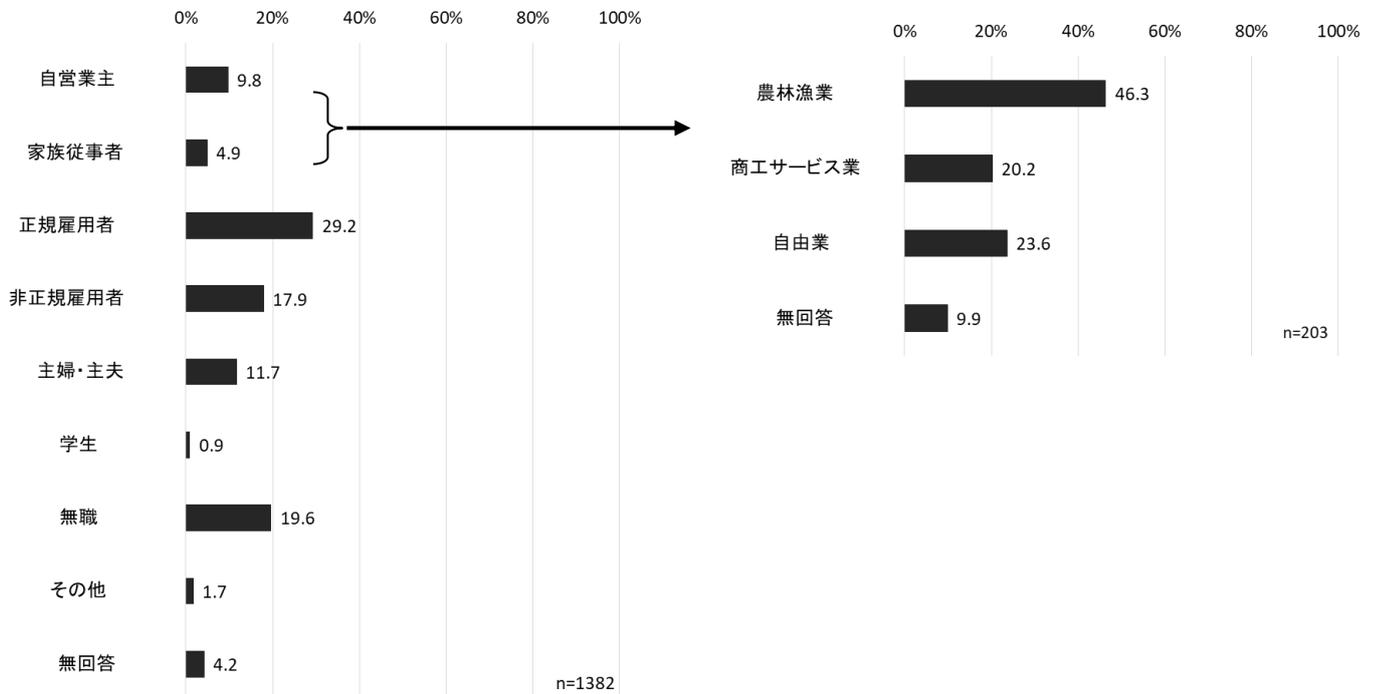


## (4)職業

### ①本人

「正規雇用者」の 29.2%が最も多く、次いで「無職」の 19.6%が続く。以下、回答割合の高い方から「非正規雇用者」(17.9%)、「主婦・主夫」(11.7%)、「自営業主」(9.8%)の順となっている。

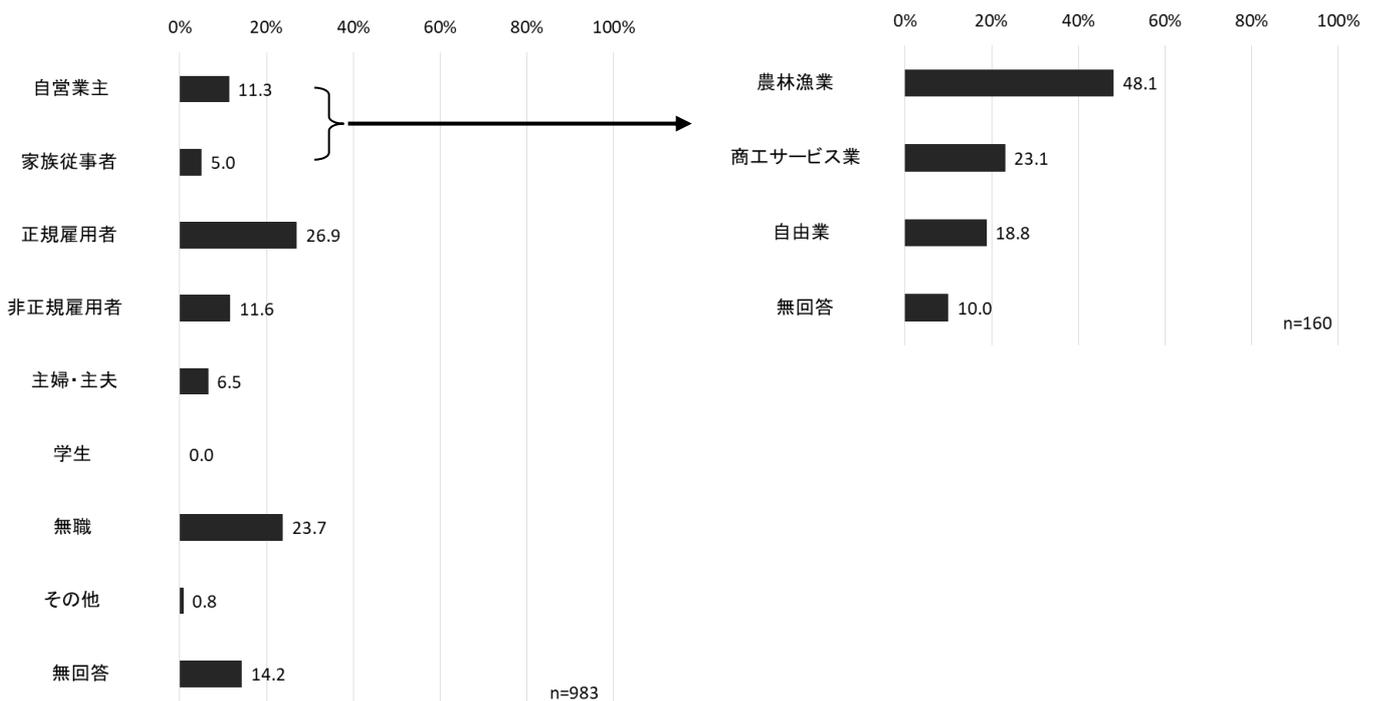
「自営業主」と「家族従事者」203 人の職業分類をみると、「農林漁業」46.3%、「自由業」23.6%、「商工サービス業」20.2%となっている。



### ②配偶者の職業

「正規雇用者」の 26.9%が最も多く、これとほぼ同率で「無職」の 23.7%が続く。以下、回答割合の高い方から「非正規雇用者」(11.6%)、「自営業主」(11.3%)、「主婦・主夫」(6.5%)の順となっている。

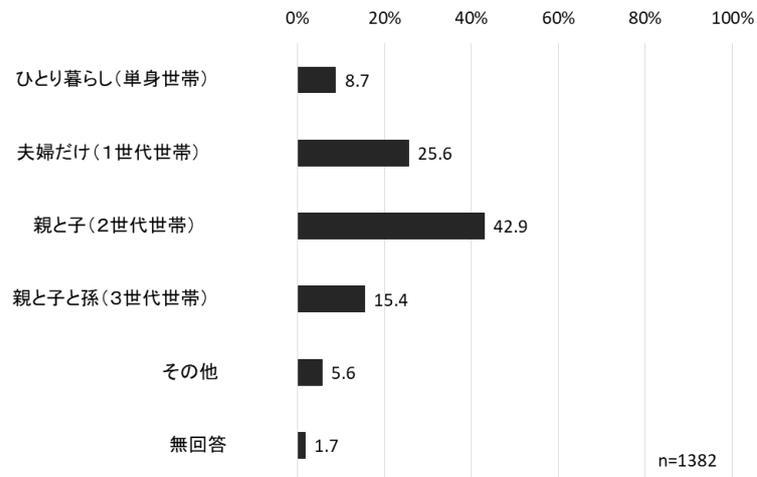
「自営業主」と「家族従事者」160 人の職業分類をみると、「農林漁業」48.1%、「商工サービス業」23.1%、「自由業」18.8%の順となっている。



## (5) 家族構成

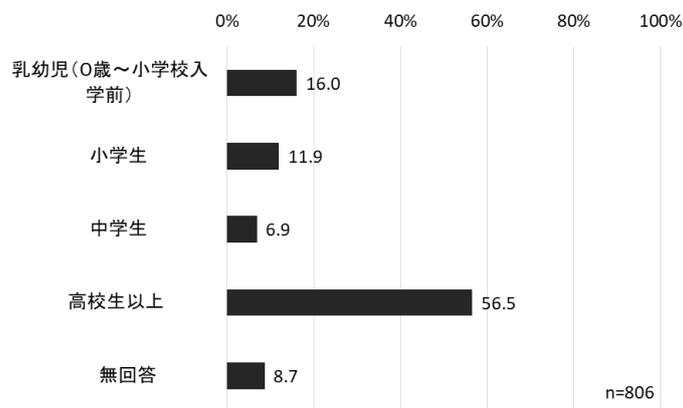
### ① 家族形態

「親と子(2世代世帯)」が 42.9%を占め、次いで「夫婦だけ(1世代世帯)」の 25.6%、「親と子と孫(3 世代世帯)」の 15.4%が続いている。



### ② 「親と子」、「親と子と孫」、「その他」世帯で最年少の方の年齢

「親と子(2 世代世帯)」、「親と子と孫(3 世代世帯)」を合わせた 806 世帯の最年少の方のライフステージをみると、「高校生以上」の 455 人(構成比 56.5%)が最も多く、これに「乳幼児」の 129 人(同 16.0%)が続いている。



## 第2部 調査結果の要点

# 調査結果の要点

## 1. 男女平等について

9つの分野について、男女平等に関する意識を聞いた結果は、以下の通り。

### ▼平等と感じられる割合が高い分野

「学校教育の場」(61.1%)、「法律や制度の上」(42.1%)

また、すべての分野で『男性優遇感』(「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」)が高い割合となっており、特に「社会通念・慣習・しきたりなど」(68.4%)、「政治・政策決定の場」(64.2%)、「社会全体」(62.4%)の分野では『男性優遇感』が6割を超えている。

加えて、男女間で「平等である」の項目を比較すると、すべての分野で男性の方が「平等である」の割合が高くなっており、「家庭生活」(女性 32.2%、男性 47.9%)、「法律・制度の上」(女性 33.5%、男性 54.6%)の分野で、特に男女間の差が大きい。

前回・前々回の結果との比較では、「社会全体」において「平等である」とする割合は高くなっているが、「家庭生活」「学校教育の場」では、「平等である」とする人の割合がやや減少している。

## 2. 結婚観について

結婚に対する考え方についての結果は、以下の通り。

### ▼『そう思う』(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)の割合の方が『そう思わない』(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)よりも多い項目

「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」(71.2%)

「精神的にも経済的にも安定するから、結婚したほうがよい」(52.4%)

### ▼『そう思わない』(「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)の割合の方が『そう思う』(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)よりも多い項目

「結婚したら、離婚すべきでない」(57.1%)

「夫婦が別々の姓(別姓)を名乗ってよい」(44.2%)

「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」に対して『そう思う』(71.2%)との回答が、前回結果と比較して1割程度増加(前回 62.7%)している。一方で「精神的にも経済的にも安定するから、結婚したほうがよい」については、『そう思う』(52.4%)が1割程度減少(前回 63.2%)している。

「夫婦が別々の姓(別姓)を名乗ってよい」についても、『そう思う』(42.1%)で前回・前々回に比べ大きく増加しており、「結婚したら、離婚すべきでない」については、『そう思う』が前回・前々回では過半数を占めていたのに対し、今回調査では 33.5%となっており、大きく考え方が変化している。

### 3. 家庭生活全般について

---

家庭生活での役割分担に関する 11 の項目について現状を聞いた。

▼主に女性が担っている割合が高い項目

「家計の管理」「掃除」「洗濯」「食事の準備」「食事のあとかたづけ」「育児、子どものしつけ」「親の世話（介護）」

▼主に男性が担っている割合が高い項目

「家計を支えるための収入を得る」「家庭の問題における最終的な決定」

▼夫婦で同様に担っている割合が高い項目

「子どもの教育方針の決定」「地区の行事などの地域活動」

前回調査においても同様の傾向がみられており、大きな差はみられない。前々回調査と比較しても割合は大きく変化していないが、「家庭の問題における最終的な決定」では男性で「主に自分」とする割合が 1 割程度減少（前々回 49.0%、前回 38.1%）している。このことから家庭での役割分担については、10 年間で大きく変化していないことがうかがえる。

一方、性別による固定的役割分担の考え方（男性は仕事、女性は家事・育児・介護という考え方）については、女性では 7 割以上、男性では半数程度が『反対』（「反対である」＋「どちらかといえば反対である」）と回答している。80 歳代以上の男性のみ『賛成』（「賛成である」＋「どちらかといえば賛成である」）が過半数を超えていた。前回調査と比較すると、『賛成』が減少、『反対』が増加傾向にある。

また、平日、休日それぞれの家事に費やす時間については、全体的な傾向に変化は見られず、依然として女性のほうが家事に費やす時間が長い傾向にあるが、前回調査と比較すると平日・休日ともに男性の家事に費やす時間が全体的にみてわずかに増加傾向にある。

### 4. 子育て・教育について

---

最近、子どもの数が減少傾向にある理由を聞いた。

▼子どもの数が減少傾向にある理由（回答が多かった項目）

「生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから」（49.3%）

「子育てにお金がかかるから」（45.9%）

「女性が働きながら子どもを育てる条件が整っていないから」（40.6%）

「結婚年齢が上がっているから」（36.7%）

「結婚を望んでいても、相手が見つからずに結婚できない人が増えているから」（32.9%）

「雇用の不安など、将来の暮らしに希望が持てないから」（23.2%）

「子育てにお金がかかるから」「女性が働きながら子どもを育てる条件が整っていないから」「雇用の不安など、将来の暮らしに希望が持てないから」など、働き方や就業・金銭面に関する項目が多く上がっているほか、「生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから」「結婚年齢が上がっているから」「結婚を望んでいても、相手が見つからずに結婚できない人が増えているから」など、社会状況の変化等に関する項目も多く挙がっている。

子どもの教育やしつけについての考え方については、以下のような結果となった。

▼『そう思う』割合が高い項目

「男の子も女の子も、生まれ持った個性・才能を可能な限りいかして育てた方がよい」(90.2%)

「女の子も男の子も、炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術が必要だ」(90.1%)

「女の子も男の子も、経済的・精神的な自立を目指した教育が必要だ」(88.9%)

▼『そう思わない』割合が高い項目

「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるほうがよい」(48.6%)

「男の子も女の子も、生まれ持った個性・才能を可能な限りいかして育てた方がよい」「女の子も男の子も、炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術が必要だ」「女の子も男の子も、経済的・精神的な自立を目指した教育が必要だ」については、9割前後の回答者が『そう思う』と回答しており、女の子も男の子も、自立した社会生活が営めるよう教育する必要があるという考え方がうかがえる。

また、「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるほうがよい」については、前回調査では『そう思う』が過半数であった(54.4%)が、今回調査では41.0%と1割以上減少しており、この考え方を、性別による固定的な観念として否定的に捉える人が増加していることがうかがえる。

## 5. 女性の社会参画について

---

女性が仕事を持つことについての考え方を聞いた。

「経済的自立のために、ずっと職業をもっている方がよい」という考え方が6割以上で最も多く、「子どもができたなら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」も2割程度回答があった。

性別にみても同様の傾向であり、年代別にみると、年代が上がるほど「子どもができたなら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」という考え方の割合が高くなっていった。

職業をもち続けることについては、令和元年度の国の調査と比較して同程度であり、令和元年度の県の調査と比較すると、県の結果よりも割合が高くなっている。

女性が仕事をもち続けるうえでの問題点は、以下のとおりである。

▼女性が仕事をもち続けるうえでの問題（割合の高い項目）

「育児休業や介護休業などを取りにくい雰囲気がある」(45.7%)

「育児休業や介護休業制度などが十分整備されていない」(40.0%)

「男女の待遇（賃金・昇進・仕事内容）に格差がある」(32.3%)

「仕事を続けることへの家族の理解・協力が不十分である」(22.5%)

「労働時間が長い」(19.4%)

「男性の側に、男女平等な立場で就労していこうとする意識が欠けている」(19.0%)

上記のように、育児・介護支援制度に関する問題が上位を占めており、就労条件や周りの支援・理解に関する項目が続いている。また、「仕事を続けることへの家族の理解・協力が不十分である」「男性の側に、男女平等な立場で就労していこうとする意識が欠けている」など理解・協力に関する項目については、女性の方が男性よりも回答の割合が高くなっている。

地域の団体の代表や政治・行政・職場等の企画立案、決定の場に女性が少ない原因としては、「社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため」(63.7%)という回答が最も多く、「1. 男女平等について」で「社会通念・慣習・しきたりなど」における『男性優遇感』が高い割合であったことと比較しても、同様の傾向となっている。

## 6. 仕事・家庭・地域活動などの両立について

---

育児休業や介護休業の取得経験について聞いた。

全体では「ない」が70.7%を占め、「ある」が10.1%となっている。性別にみると、取得経験がある割合は女性が16.3%に対し男性が1.3%と男女差がみられた。

育児休業や介護休業をとる男性が少ない理由について聞いた。結果は以下の通り。

### ▼育児休業や介護休業をとる男性が少ない理由（割合の高い項目）

- 「職場の理解が得られないと思う」(52.8%)
- 「男性は仕事を優先するべきだと考えているから」(37.3%)
- 「休業補償が少なく、家計に影響する」(35.5%)
- 「昇進や昇給に影響する恐れがある」(34.2%)
- 「仕事の量や責任が大きい」(31.5%)
- 「女性の方が育児・介護に向いている」(22.3%)

全体では「職場の理解が得られないと思う」は半数以上の回答を得ており、前回調査と比べても同様の結果となっている。また、「休業補償が少なく、家計に影響する」「昇進や昇給に影響する恐れがある」「仕事の量や責任が大きい」など、就労環境や経済面を理由とする考え方も多く挙げられた。その他にも、「男性は仕事を優先するべきだと考えているから」「女性の方が育児・介護に向いている」など、固定的役割分担意識についても回答がみられた。

地域活動への参加状況・参加意向、参加する際に支障となることについて聞いた。結果は以下の通り。

### ▼現在の参加状況（割合の高い項目）

- 「参加していない」(43.1%)
- 「町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動」(26.6%)
- 「趣味・スポーツ・学習などの活動」(19.8%)

### ▼今後の参加意向（割合の高い項目）

- 「参加したくない」(34.9%)
- 「趣味・スポーツ・学習などの活動」(23.9%)
- 「福祉ボランティアなどの活動」(13.0%)

現在の活動状況、今後の参加意向ともに「参加していない・参加したくない」と回答する割合が最も多くなっている。今後の参加意向としては、「趣味・スポーツ・学習などの活動」「福祉ボランティアなどの活動」が多いが、特に50歳代、60歳代において「福祉ボランティアなどの活動」の回答割合が高くなっている。

▼参加する際に支障となること（割合が高い項目）

「仕事が忙しい」（33.1%）

「人間関係がわずらわしい」（26.4%）

「健康・体力に不安がある」（22.4%）

「参加するきっかけがない」（20.2%）

「活動団体や活動内容を知らない」（16.5%）

20歳代から50歳代では「仕事が忙しい」という回答が多く、50歳代から80歳代以上では「健康・体力に不安がある」という回答が多い。また、若い年代ほど「参加するきっかけがない」「活動団体や活動内容を知らない」という回答が多くなっている。また、性別では、「家事や育児、介護で忙しい」（女性16.8%、男性5.2%）、「活動団体や活動内容を知らない」（女性19.2%、男性13.4%）で男女差がみられた。

仕事、家庭生活、地域・個人生活の両立に関する希望と実態について聞いた。結果は以下の通り。

▼希望について

全体としては、「仕事と家庭生活をともに優先したい」「家庭生活を優先したい」との回答が多く、女性では「家庭生活を優先したい」割合が、男性では「仕事と家庭生活をともに優先したい」割合が全体よりも多い。性年代別にみると、男女とも40歳代から50歳代では「仕事と家庭生活をともに優先したい」との回答が他の年代層よりも多い。女性の60歳代と80歳代は「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」、男性の60歳代と80歳以上は「家庭生活を優先したい」が他の年代と比べ高くなっている。

▼現実について

全体としては、希望と同様に「仕事と家庭生活をともに優先している」「家庭生活を優先している」との回答が多いが、それに「仕事を優先している」が続いている。性別にみると男性では「仕事を優先している」（25.9%）の割合が最も高く、女性では「仕事と家庭生活をともに優先している」（29.1%）「家庭生活を優先している」（28.7%）が同程度の割合となっている。また、「仕事を優先している」（女性16.2%、男性25.9%）と「家庭生活を優先している」（女性28.7%、男性18.8%）で男女間の差がみられ、ここでも固定的役割分担の意識がうかがえる。

性年代別にみると、女性の30歳代から50歳代までは「仕事と家庭生活をともに優先している」との回答が他の年代層よりも多い。60歳代から80歳以上では「家庭生活を優先している」が多くなっている。一方、男性の20歳代から50歳代では「仕事を優先している」、30歳代から60歳代では「仕事と家庭生活をともに優先している」が他の年代と比べ高くなっている。

国や県の調査結果においても、本市と同様の傾向となっている。

## 7. 配偶者などからの暴力について

---

DV防止法の認知度について聞いた結果は、以下の通り。

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(DV防止法)については、「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」との回答が6割以上を占めているが、「法律の内容まで知っている」割合は2割程度であった。また、性年代別では、女性、男性ともに20歳代で「知らない」の割合が多くなっている。

DVに関する被害・加害経験と、被害を受けた時の対応などについて聞いた。

全体では被害、加害経験の「どちらもない」の割合が高くなっているが、「手でたたく・突き飛ばす、足でける」(被害 9.0%、加害 5.6%)、「大声でどなって威嚇する」(被害 12.3%、加害 9.9%)では被害経験で1割程度の回答となっている。また、すべての項目で、男性は加害、女性では被害経験の割合が高くなっている。

被害を受けた際の対応としては、「我慢した」(44.7%)が最も多く、次いで「家族・親族・友人に相談した」(22.8%)、「どこ(だれ)にも相談しなかった」(19.7%)が続いている。性別にみると、いずれも「我慢した」との回答が最も多く、これに「どこ(誰)にも相談しなかった」が続いている。「家族・親族・友人に相談した」では女性の割合が男性の割合を大きく上回っている(女性 27.1%、男性 7.8%)。

我慢した、相談しなかった人に対してその理由を聞いたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」(37.7%)との回答が最も多く、次いで「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」(34.9%)、「自分にも悪いところがあると思ったから」(32.6%)、「相談しても無駄だと思ったから」(27.4%)などが高い割合を占める結果となった。性別にみると、「どこに相談してよいかわからなかった」(女性 2.3%、男性 16.3%)、「相談するほどのことではないと思った」(女性 34.9%、男性 46.5%)、「自分にも悪いところがあると思った」(女性 29.5%、男性 41.9%)で男性の割合が特に高くなっており、「他人を巻き込みたくなかった」(女性 18.6%、男性 4.7%)では、女性の割合が高くなっており、男性では、自身が受けた被害を過少に評価してしまうケース、女性では周辺への影響を懸念するケースが多いことがうかがえる。また、「どこに相談してよいかわからなかった」という回答も一定数あるため、相談体制などについて適切に周知する必要があると考えられる。

## 8. 男女間のセクハラについて

セクハラに対する被害・加害経験や伝聞の状況を聞いた。

全体では「まったくない」との回答が最も多くなっているが、「見たり聞いたりしたことがある」ものについては、「男のくせに…女のくせに…など差別的な言葉を使う」「結婚はまだ、子どもはまだ、としつこく言う」「性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を言う」について2割程度回答があった。また、女性の被害経験が1割程度あったものについて「男のくせに、女のくせになど差別的な言葉を使う」「結婚はまだ、子どもはまだ、としつこく言う」「性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を言う」「接待や宴会で、酌やデュエット、ダンスを強要する」「触る、抱きつく、しつこく付きまとう」が挙げられている。

1回でも被害経験のある人についてその対応について聞いた結果は、「だれ(どこ)にも相談しなかった」(48.8%)との回答が最も多く、次いで「家族、友人、知人に相談した」(29.5%)、「上司、同僚に相談した」(8.5%)が続いている。性別にみると、「だれ(どこ)にも相談しなかった」とする対応は男性の割合が高く(女性 44.3%、男性 66.7%)、「家族、友人、知人に相談した」(女性 34.0%、男性 11.7%)、「上司、同僚に相談した」(女性 10.2%、男性 1.7%)とする身近な人への相談については、女性の割合が高くなっている。性・年代別にみると、女性の20歳代から40歳代にかけては「家族、友人、知人に相談した」との回答が多くなっており、比較的若い年代で人に相談した割合が高くなっている。一方、男性では、いずれの年代でも「だれ(どこ)にも相談しなかった」が多くなっている。

## 9. 人権の尊重について

---

DV やセクハラなどの人権侵害をなくすために必要なことについて聞いた結果は、以下の通り。

▼DV やセクハラなどの人権侵害をあらゆる分野からなくすために必要なこと（割合が高い項目）

「不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり」(50.3%)

「苦情や悩みに的確に対応できる組織体制の充実」(46.2%)

「DV やセクハラに対する罰則を強化した法律や規則などの整備」(43.0%)

「相手を対等なパートナーとしてみるような意識の啓発」(42.5%)

「学校での男女平等教育の推進」(36.8%)

上記結果については、前回調査でも同様の傾向がみられたが、「DV やセクハラに対する罰則を強化した法律や規則などの整備」については前回調査から8ポイント増加しており、法整備などを求める意見が高まっていることが考えられる。また、性別にみると、「相手を対等なパートナーとしてみるような意識の啓発」では男性の割合が高く、「不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり」では、女性の割合が高くなっている。

人権が尊重されていないと感じることについては、「痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪」(41.0%) との回答が最も多く、次いで「配偶者、パートナーからの暴力」(39.4%)、「セクシュアル・ハラスメント」(38.6%)、「就職の機会や賃金、昇進など男性との格差」(32.7%)、「職場や仲間による言葉の暴力」(31.5%)、「売春、買春」(28.4%) が続いている。

## 10. メディアにおける性・暴力表現に関する意識について

---

メディアにおける性・暴力表現に対する考え方を聞いた結果は、以下の通り。

▼メディアにおける性・暴力表現に対する意識（割合が高い項目）

「子どもの目に触れないような配慮が足りない」(32.7%)

「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」(31.4%)

「性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」(31.2%)

「社会的弱者や女性に対する犯罪を助長する恐れがある」(29.5%)

性年代別にみると、女性の50歳代から80歳代までは「性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」が多くなっている。一方、男性の50歳代から80歳以上では「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」「社会的弱者や女性に対する犯罪を助長するおそれがある」が他の年代と比べ高くなっているほか、20歳代では、「子どもの目に触れないような配慮が足りない」「女性や男性のイメージに偏った表現であらわしている」が多くなっている。

## 11. 男女共同参画に関するご意見やご要望

---

男女共同参画をテーマにする話題への関心を聞いた結果、「まあまあ関心がある」が45.1%で最も多く、次いで「あまり関心がない」(33.9%)、「ほとんど関心がない」(9.3%)、「非常に関心がある」(5.5%)、「まったく関心がない」(2.4%) となっている。『関心がある』（「非常に関心がある」+「まあまあ関心がある」）の割合は、全体の50.6%を占めている。性年代別にみると、女性では30歳代から80歳代以上で「まあまあ関心がある」との回答が多いが、20歳代では「あまり関心がない」との回答が他の年代よりも高くなっている。一方、男性では、20歳代、40歳代、50歳代で「あまり関心がない」との回答が最も多くなっている。このほかの年代では、いずれも「まあまあ関心がある」との回答が多い。

農林漁業の分野で男女共同参画を進めていくために必要なことについて聞いた結果は、以下の通り。

▼農林漁業の分野で男女共同参画を進めていくために必要なこと（割合が高い項目）

「就業環境の改善により、男女とも家庭生活以外の活動に参加しやすくすること」（58.8%）

「農林漁業にたずさわる人々の男女共同参画社会づくりの意識を高めること」（43.6%）

「加工品製造、直売所の運営など、新たな分野で女性の活躍の場をつくる」（41.2%）

「委員や役員など、政策・意思決定の場へ女性の登用をすすめること」（30.0%）

性別にみると、「委員や役員など、政策・意思決定の場へ女性の登用をすすめること」では男性の割合が高く、一方、「加工品製造、直売所の運営、食や地域文化の継承活動など、新たな分野で女性の活躍の場をつくる」では女性の割合がやや高くなっている。

男女共同参画に関する用語について12項目の認知度をたずねた。

『認知度』（「よく知っている」＋「内容（意味）を多少は知っている」＋「名称（言葉）は知っている」）をみると、「育児・介護休業法」が81.3%で最も高く、これに次ぐ「男女雇用機会均等法」（76.1%）、「マタハラ・パタハラ」（60.0%）、「LGBT」（54.2%）「ジェンダー」（52.7%）「宇城市男女共同参画推進条例」（50.2%）では、いずれも過半数の回答を得ている。一方、認知度が低いもの（「全く知らない」）では、「アンペイド・ワーク」（82.0%）、「ダイバーシティ」（60.1%）、「家族経営協定」（58.6%）、「ワーク・ライフ・バランス」（52.5%）となっている。

男女共同参画社会を実現していくために、宇城市の施策に望むものは、以下の通り。

▼男女共同参画社会を実現していくために宇城市の施策に望むもの（割合の高い項目）

「子育て支援サービスの充実」（33.4%）

「学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習の充実」（31.3%）

「市の各種審議会の委員・管理職等、政策・方針を決定する場へ、女性を積極的に登用する」（26.8%）

「育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める」（26.6%）

「職場における賃金・女性の管理職登用など、男女均等な扱いについての周知徹底」（23.2%）

「性別による役割分担の意識を是正するための啓発・広報」（19.9%）

性別にみると、女性では「育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める」の割合が高く、男性では「市の各種審議会の委員・管理職等、政策・方針を決定する場へ、女性を積極的に登用する」「リーダー養成など女性の人員育成の推進」での割合が高くなっている。性年代別にみると、女性の20歳代から50歳代と80歳代以上では「育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める」との回答が他の年代層よりも多い。20歳代から30歳代までは「子育て支援サービスの充実」が多くなっている。一方、男性の20歳代から40歳代までは「子育て支援サービスの充実」が他の年代と比べ高くなっている。このほか、60歳代から80歳代では「市の各種審議会の委員・管理職等、政策・方針を決定する場へ、女性を積極的に登用する」が他の年代と比べ高くなっている。

## 12. 熊本地震や復興関連について

---

災害時や被災前の準備として必要なことについて聞いた結果は、以下の通り。

### ▼災害時や被災前の準備として必要なこと

(『必要なこと』(「とても必要だと思う」+「どちらかといえば必要だと思う」)の割合が高い項目)

「男女の違いに配慮した救援医療や健康支援を行う」(87.0%)

「避難所の運営マニュアルに男女双方の視点を反映させる」(86.3%)

「防災計画の策定の場に男女がともに参画する」(85.3%)

「男女のニーズの違いに応じた相談や情報提供を行う」(85.2%)

性別にみると、ほとんどの項目で全体と同じような傾向がみられたが、「自治会や地域の自主防災組織の女性リーダーを増やす」については『必要なこと』の割合が男性のほうがやや高くなっている。全体の傾向としては、救援医療や健康支援、避難所運営など、災害発生時の支援について、男女のニーズの違いなどを反映させる必要があることがうかがえる。

## まとめ

---

### (1)家庭・地域・就労における課題

今回の調査の結果から、以下の点が現状・課題として挙げられる。

#### ▼男性が優遇されているという意識

・すべての分野で『男性優遇感』が強く、社会通念・しきたりなどにおける男性優遇については、これによって地域の団体の代表や政治・行政・職場等の企画立案、決定の場に女性が少なくなっていることが現状として挙げられる。

#### ▼家庭生活は依然として女性が担う傾向

・前回、前々回調査と比較しても同様の傾向がみられ、家事・育児・介護などの役割は依然として女性が担う傾向にある。

#### ▼男女の固定的役割分担意識については反対意見が増加傾向

・前回、前々回調査に引き続き反対意見が増加傾向であり、「男性は仕事、女性は家事・育児・介護」という意識は全体として低くなってきている。

#### ▼結婚・出産・就労に関する考え方の変化

結婚してもしなくてもどちらでもよいという考え方の増加や、結婚したら離婚すべきでないとする考え方の減少など、結婚・離婚に対して個々の自由が尊重されるべきというように考え方が変化してきていることがうかがえる。子どもの数の減少についても、生き方の多様化を理由として挙げる回答が多くみられた。

しかし一方で、子どもの減少に対して雇用条件や金銭面の問題を挙げる回答も多く、女性の社会参画のために育児休業や介護休業の制度整備や取得しやすい雰囲気づくりが必要との声もある。

上記のことから、社会全体の意識として男性優遇感はまだに高い状況ながらも、男女共同参画の意識が広がってきていることがうかがえる。しかし、家庭生活などの実態をみると、男性の家事時間の増加など部分的に解消されてはいるものの、現実としてはあまり変化していないと言える。

## (2)DV・セクハラ・メディアを通じた男女の人権における課題

DVについては前回調査結果と全体の傾向は変わらず、女性は被害経験、男性は加害経験の割合が高くなっている。被害を受けた際の対応としては、被害をどこ（だれ）にも相談しなかった、また我慢した人の割合が高く、特に男性ではどこ（だれ）にも相談しない人の割合が高い。

相談しなかった、我慢した理由については、男性では被害を過小に評価してしまうケースや、女性では周辺への影響を懸念するケースがみられ、男性が気軽に相談できる体制の確保や、女性に対しても家族・親族・友人以外に相談できるような環境作りが必要だと考えられる。

セクハラについても前回結果と同様の傾向であり、被害経験者の対応としても相談しなかった割合が高いが、家族・親族・友人に相談した割合はDVよりもわずかに多い。

また、メディアにおける表現の問題点としては前回調査と比較して全体的に減少傾向ではあるものの、未だに偏った表現・過度な表現を問題視する回答も多い。近年、マスメディア以外にもインターネットなどによって様々なメディアに接触する機会が増加していることや、SNSなどの発達によって個人がそういった発信をする機会も増加しているため、その危険性や人権問題における男女平等の視点について、人権教育や情報提供を行っていく必要があると考えられる。

## 第3部 調査結果

# 調査結果

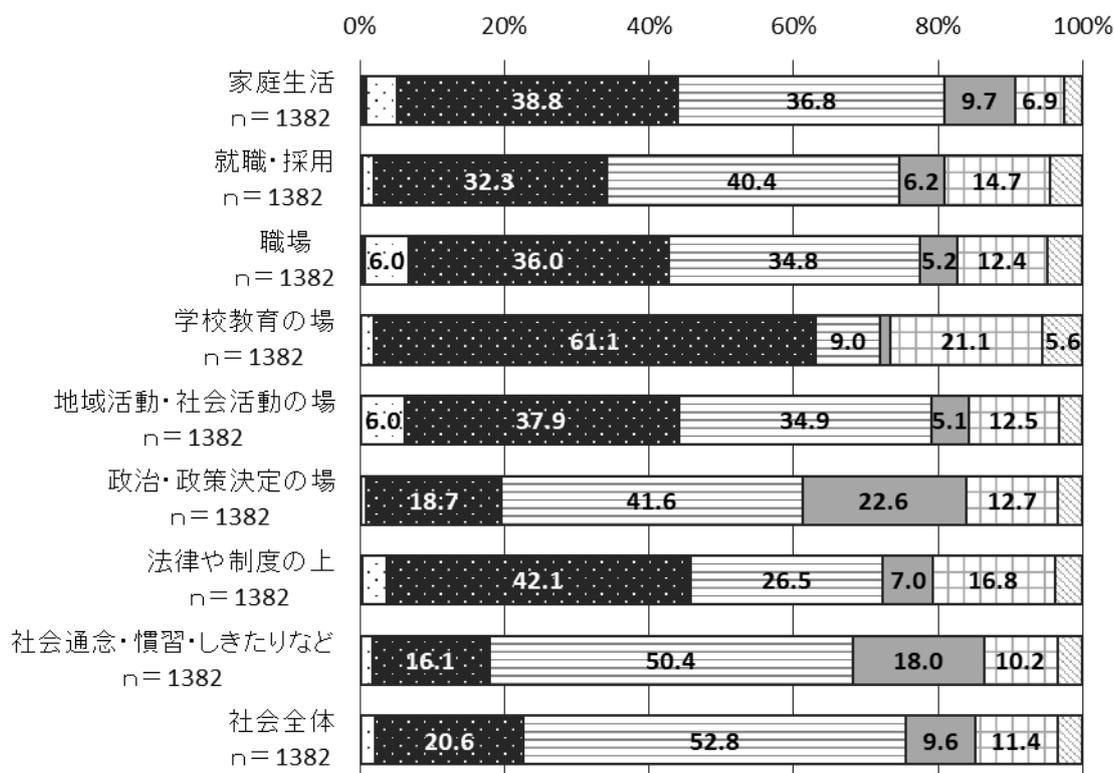
## 1. 男女平等について

問2 あなたは、男性と女性は平等であると思いますか。(1)～(9)について、あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

「家庭生活」「就職・採用」「職場」「学校教育の場」「地域活動・社会活動の場」「政治・施策決定の場」「法律や制度の上」「社会通念・慣習・しきたりなど」「社会全体」の9つの分野について、男女平等に関する意識を聞いた。

「平等である」との回答が最も多い項目は「学校教育の場」の61.1%となっており、これに「法律や制度」の42.1%が続いている。また、すべての項目で『男性優遇感』(「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計)が高い割合となっており、特に「社会通念・慣習・しきたり」(68.4%)、「政治・施策決定の場」(64.2%)、「社会全体」(62.4%)で高くなっている。

- 女性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば女性が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば男性が優遇されている
- 男性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

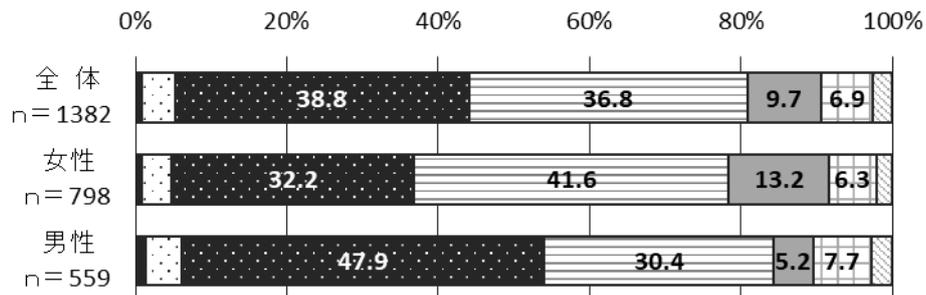


## 【性別】

性別にみると、男性はいずれの分野でも「平等である」と考える人の割合が女性に比べて高い。特に男女差の大きい分野は、「法律や制度」(女性 33.5%、男性 54.6%)、「家庭生活」(女性 32.2%、男性 47.9%)、「政治・施策決定の場」(女性 13.8%、男性 25.2%)、「地域活動・社会活動の場」(女性 33.1%、男性 44.9%)、「社会全体」(女性 15.4%、男性 27.7%)と大きくなっている。

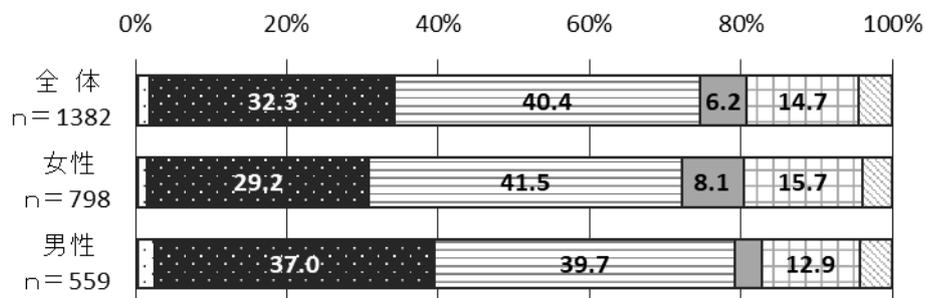
### ○家庭生活

- 女性の方が非常に優遇されている
- 平等である
- 男性の方が非常に優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば女性が優遇されている
- どちらかといえば男性が優遇されている
- わからない



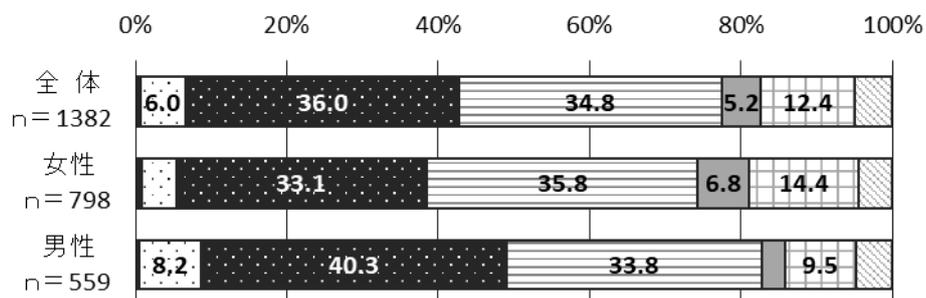
### ○就職・採用

- 女性の方が非常に優遇されている
- 平等である
- 男性の方が非常に優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば女性が優遇されている
- どちらかといえば男性が優遇されている
- わからない



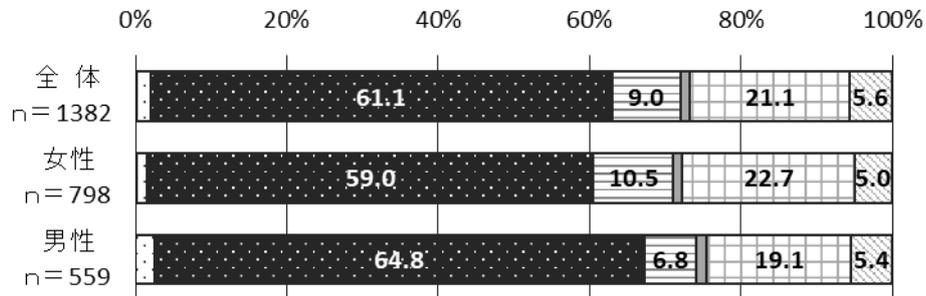
### ○職場

- 女性の方が非常に優遇されている
- 平等である
- 男性の方が非常に優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば女性が優遇されている
- どちらかといえば男性が優遇されている
- わからない



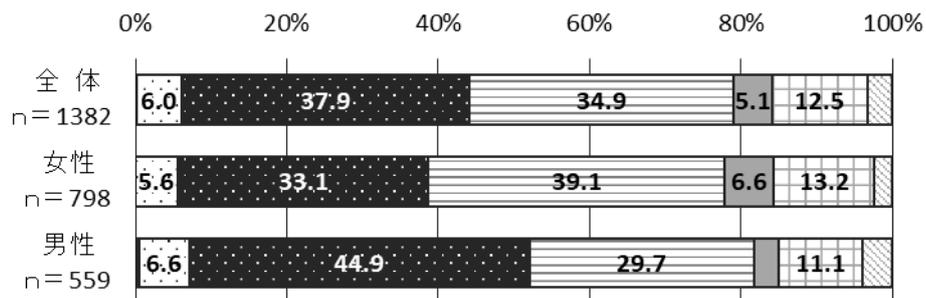
## ○学校教育

- 女性の方が非常に優遇されている
- 平等である
- 男性の方が非常に優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば女性が優遇されている
- どちらかといえば男性が優遇されている
- わからない



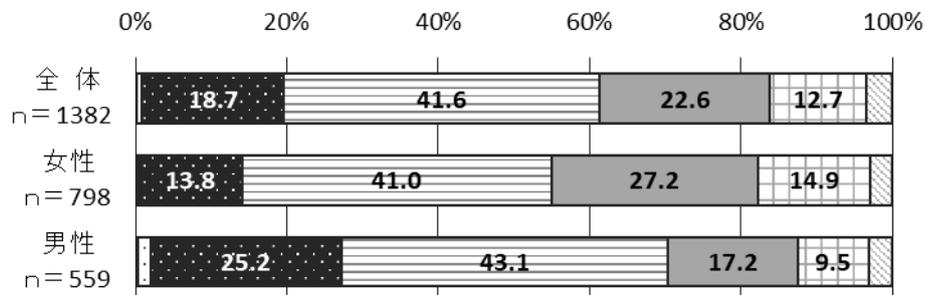
## ○地域・社会活動

- 女性の方が非常に優遇されている
- 平等である
- 男性の方が非常に優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば女性が優遇されている
- どちらかといえば男性が優遇されている
- わからない



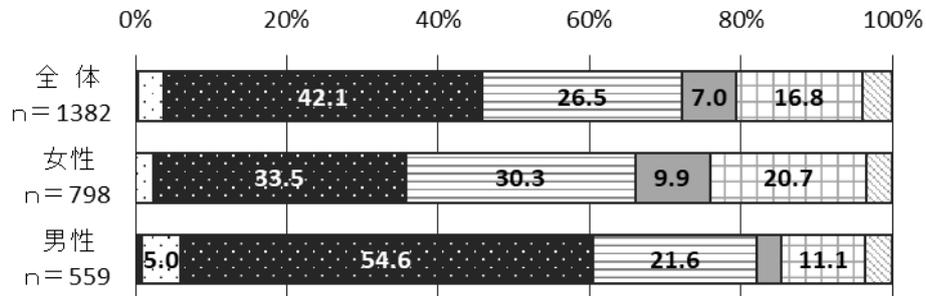
## ○政治・政策決定

- 女性の方が非常に優遇されている
- 平等である
- 男性の方が非常に優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば女性が優遇されている
- どちらかといえば男性が優遇されている
- わからない



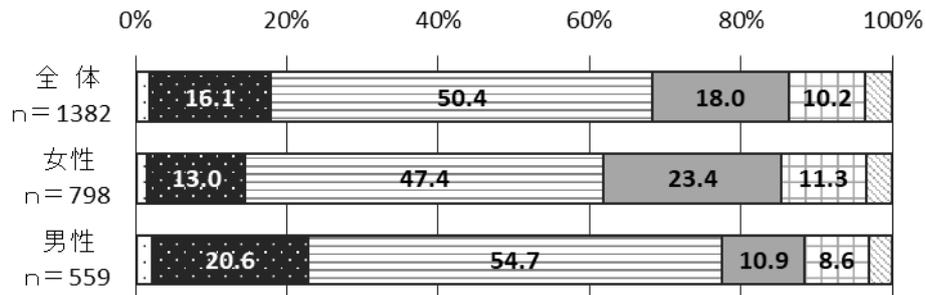
## ○法律・制度の上

- 女性の方が非常に優遇されている
- 平等である
- 男性の方が非常に優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば女性が優遇されている
- どちらかといえば男性が優遇されている
- わからない



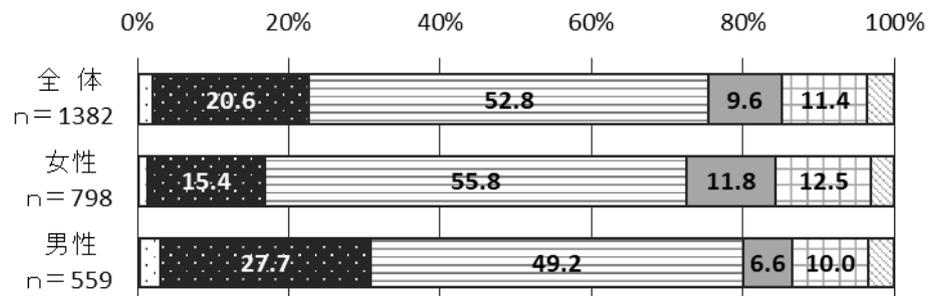
## ○社会通念・慣習・しきたり

- 女性の方が非常に優遇されている
- 平等である
- 男性の方が非常に優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば女性が優遇されている
- どちらかといえば男性が優遇されている
- わからない



## ○社会全体

- 女性の方が非常に優遇されている
- 平等である
- 男性の方が非常に優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば女性が優遇されている
- どちらかといえば男性が優遇されている
- わからない

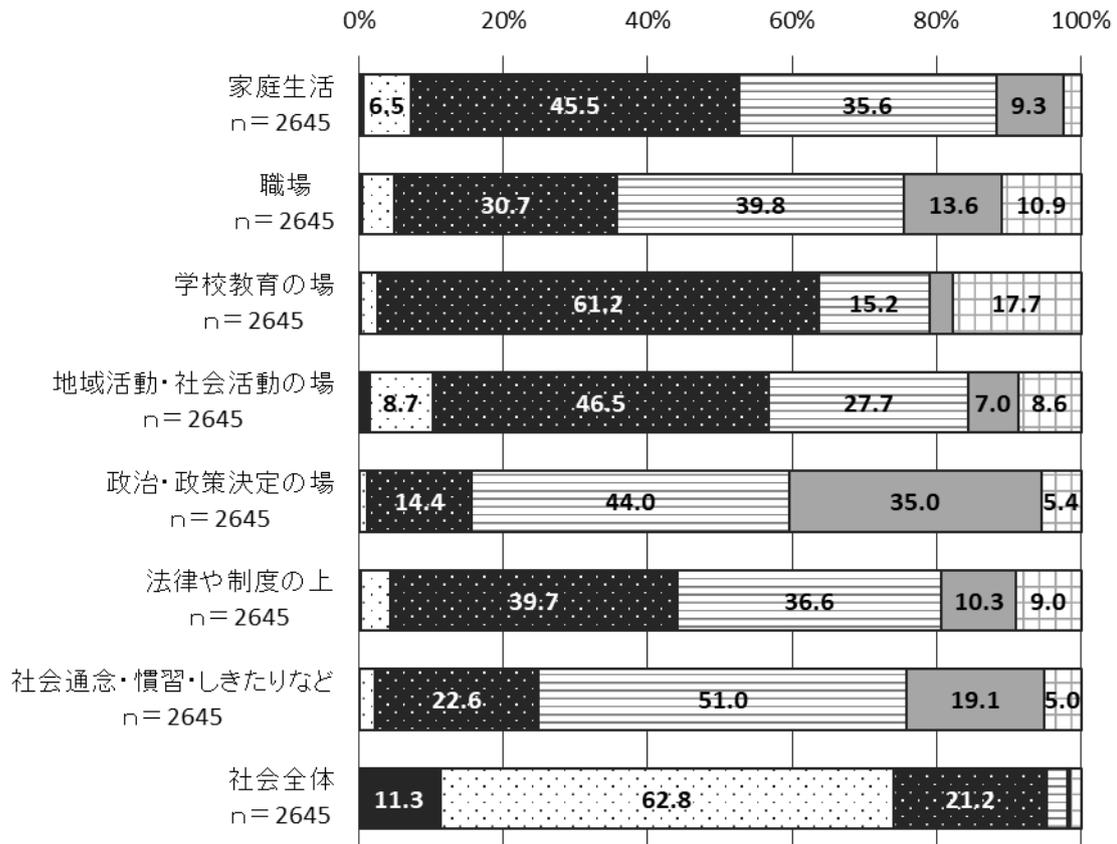


**【国・県調査との比較】**

○内閣府男女共同参画に関する世論調査(令和元年度)

本市と同様に「学校教育の場」、「地域活動・社会活動の場」「家庭生活」「法律・制度の上」での平等の割合が高くなっている。このほかではいずれも男性の優遇感が強くなっている傾向は本市と同じであるが、職場、法律・制度の上で、政治の場、社会全体では、国の方で男性優遇感が強くなっている。

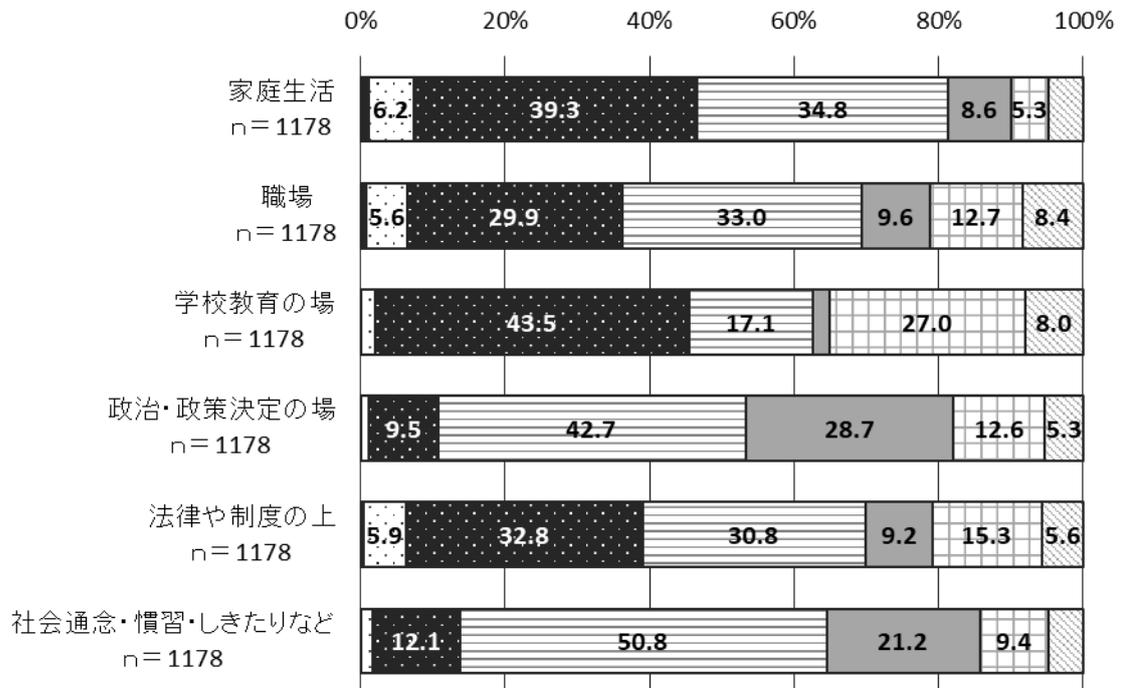
- 女性の方が非常に優遇されている
- 平等である
- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば女性が優遇されている
- どちらかといえば男性が優遇されている
- わからない



○令和元年度 男女共同参画に関する県民意識調査(熊本県)

県の結果との比較では、ほとんどの項目で本市の方が「平等である」の割合が高いが、「家庭生活」においてのみ熊本県のほうがわずかに割合が高い(本市 38.8%、熊本県 39.3%)。

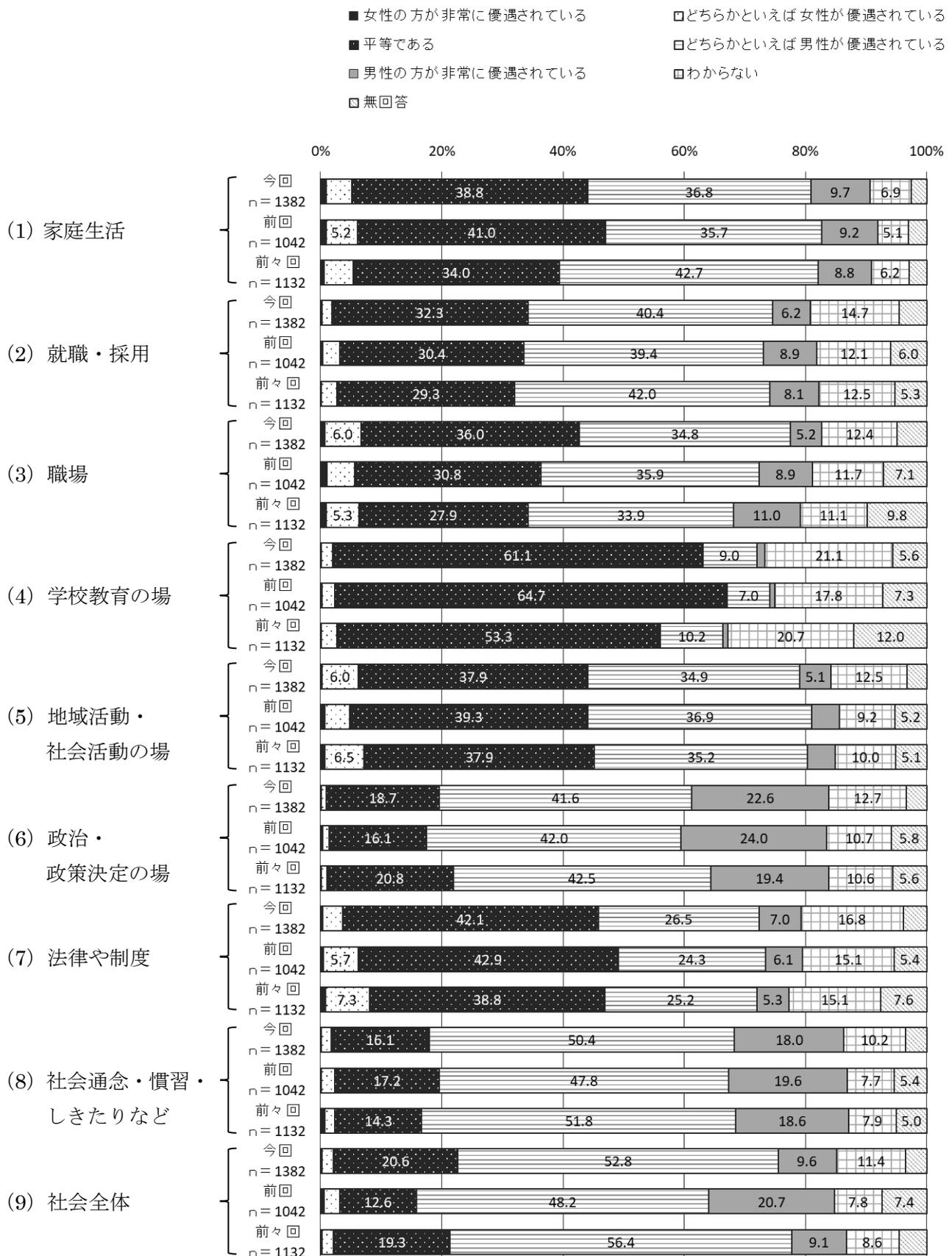
- 女性の方が非常に優遇されている
- 平等である
- 男性の方が非常に優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば女性が優遇されている
- どちらかといえば男性が優遇されている
- わからない



【前回調査との比較】

○平成 22 年度及び平成 27 年度 宇城市男女共同参画市民意識調査

前回、前々回と比較して、職場、社会全体で「平等である」とする人の割合が増加しているが、家庭生活、学校教育の場では「平等である」とする人の割合がやや減少している。



## 2. 結婚観について

問3 次に掲げる(1)～(4)について、あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

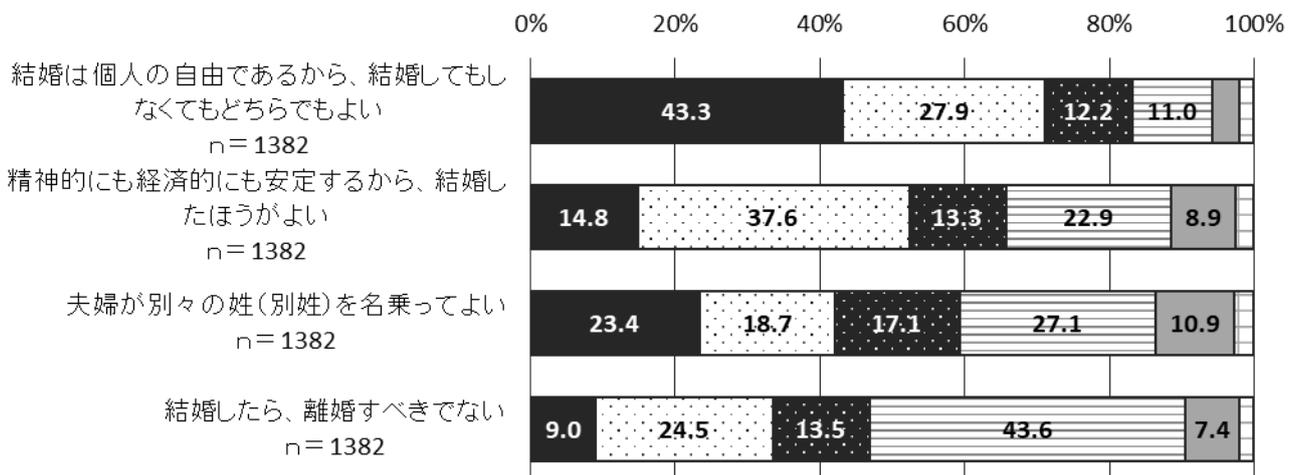
結婚に関する4つの考え方についての意識を聞いた。

「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもよい」については、「そう思う」(43.3%)との回答が最も多く、『そう思う』(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)が71.2%を占めている。

「精神的にも経済的にも安定するから、結婚した方がよい」については、『そう思う』が52.4%と過半数を占めている。

一方、「結婚したら離婚すべきでない」という考え方については、『そう思わない』(「どちらかといえばそう思わない」+「そう思わない」)が57.1%と過半数を占めている。「夫婦が別々の姓(別姓)を名乗ってよい」についても、「そう思わない」(27.1%)との回答が最も多く、『そう思わない』が44.2%を占める。

- そう思う
- どちらかといえばそう思わない
- わからない
- どちらかといえばそう思う
- そう思わない
- 無回答



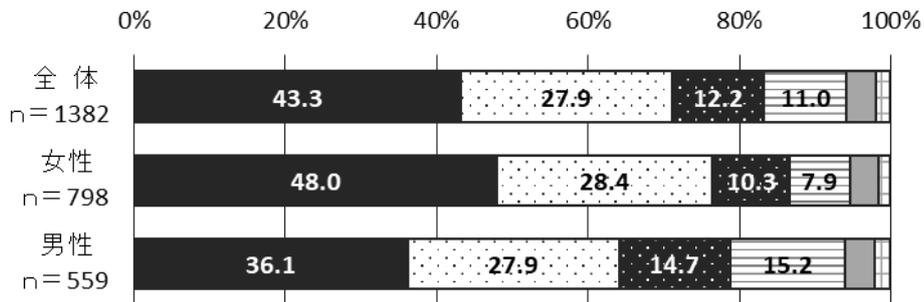
### 【性別】

性別にみても全体と同じような傾向にあるが、「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもよい」「結婚したら離婚すべきでない」では女性は男性に比べ『そう思う』の割合が高く、「精神的にも経済的にも安定するから、結婚した方がよい」については、男性の割合が高くなっている。

また、「夫婦が別々の姓(別姓)を名乗ってよい」という考えについては、女性よりも男性の『そう思わない』の割合が高くなっている。

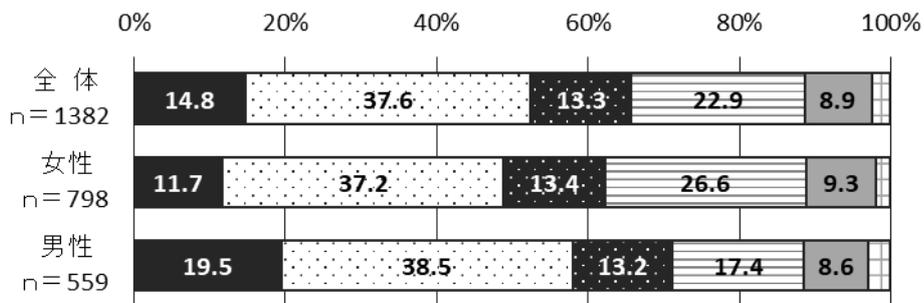
○結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

- そう思う
- どちらかといえばそう思わない
- わからない
- どちらかといえばそう思う
- そう思わない
- 無回答



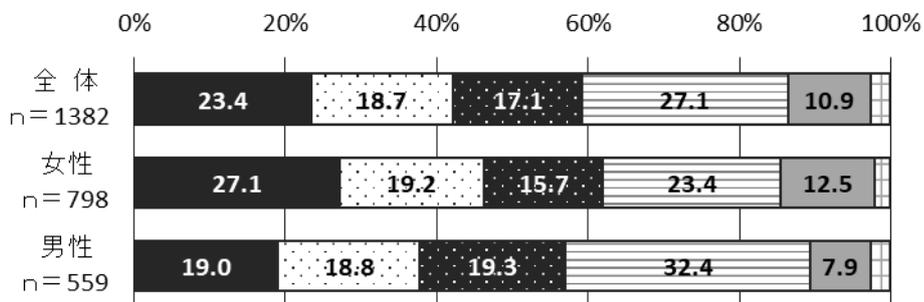
○精神的にも経済的にも安定するから、結婚したほうがよい

- そう思う
- どちらかといえばそう思わない
- わからない
- どちらかといえばそう思う
- そう思わない
- 無回答

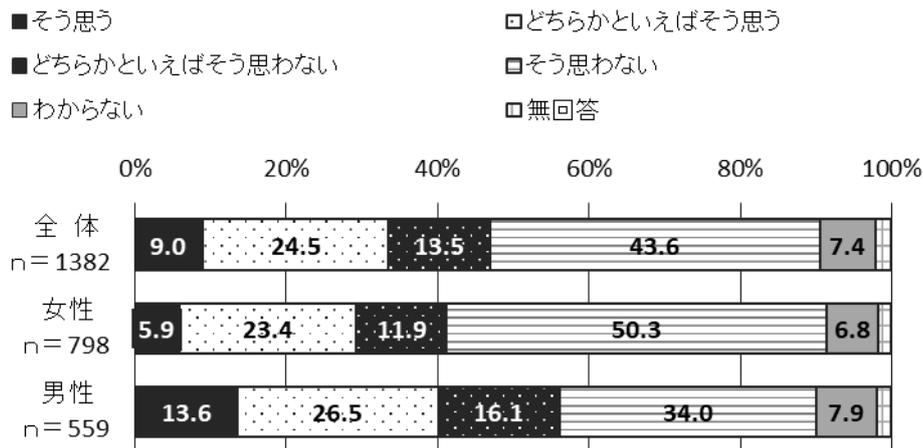


○夫婦が別々の姓(別姓)を名乗ってよい

- そう思う
- どちらかといえばそう思わない
- わからない
- どちらかといえばそう思う
- そう思わない
- 無回答



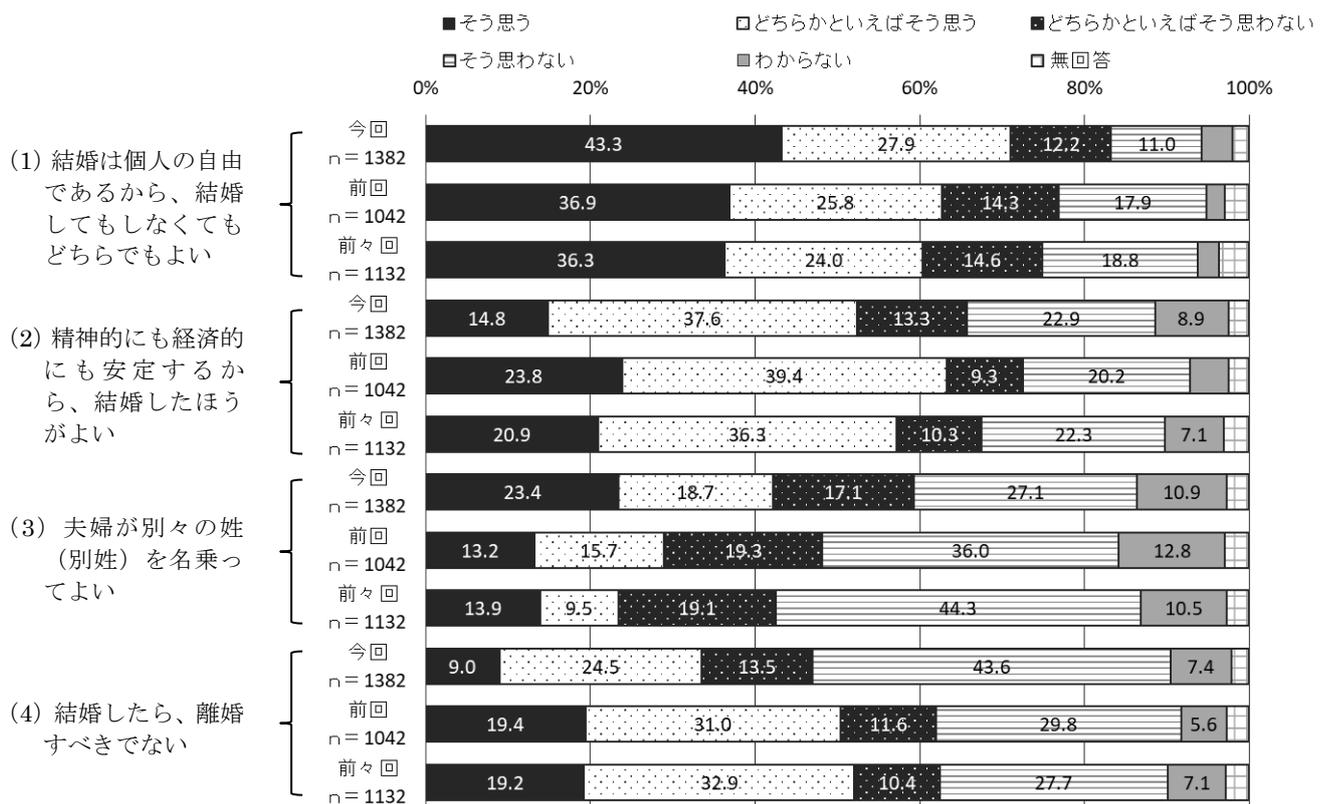
## ○結婚したら、離婚すべきでない



### 【前回調査との比較】

#### ○平成 22 年度及び平成 27 年度 宇城市男女共同参画市民意識調査

前回、前々回と比較して、「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」において『そう思う』（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）とする人の割合が1割程度増加しているが、一方で、「精神的にも経済的にも安定するから、結婚したほうがよい」において『そう思う』とする人の割合も1割程度減少している。



### 3. 家庭生活全般について

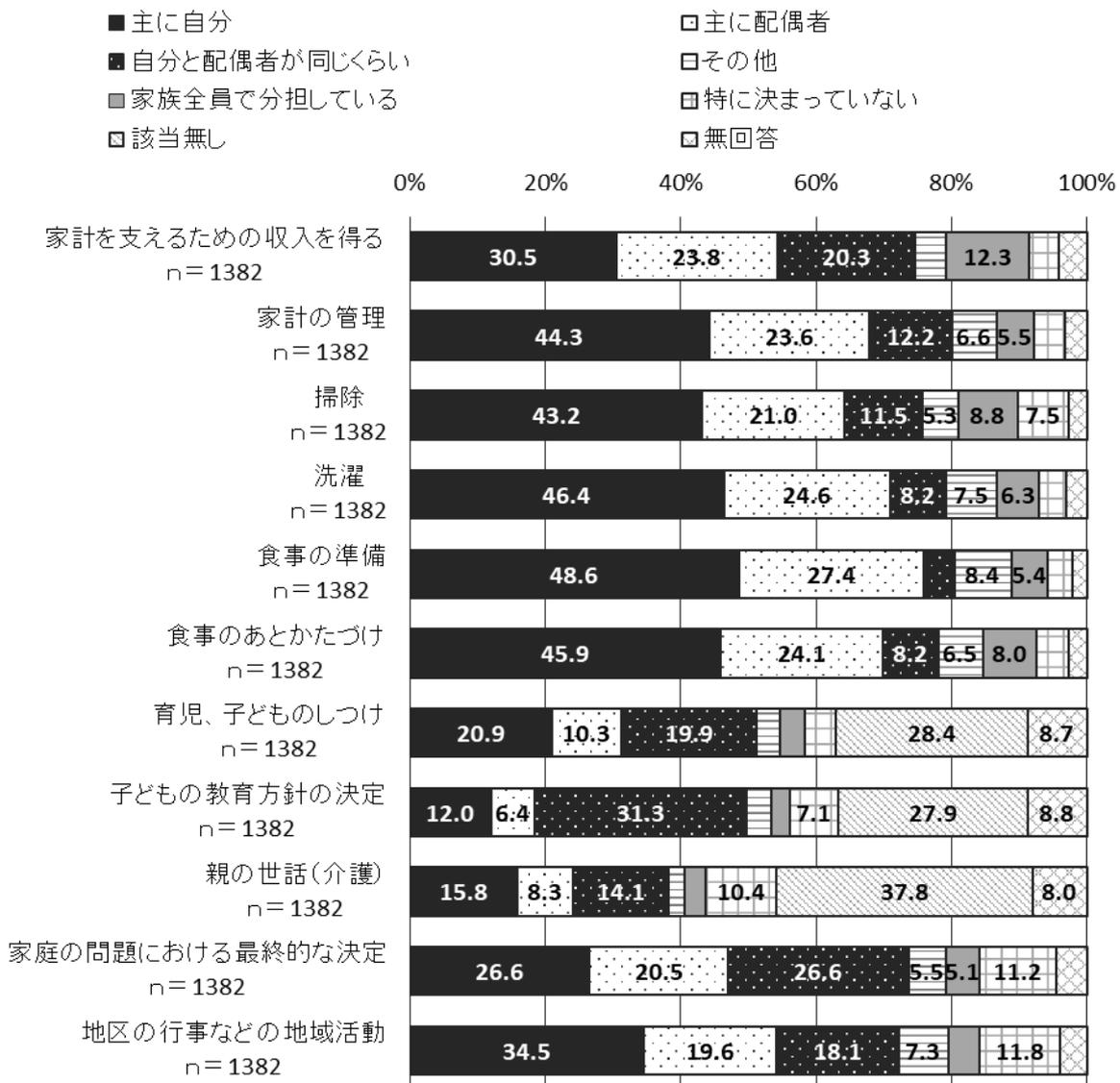
#### (1) 家庭での役割分担

問4 あなたのご家庭では、次に掲げることは、主にどなたの役割ですか。(1)～(11)について、あてはまる番号を選び、○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

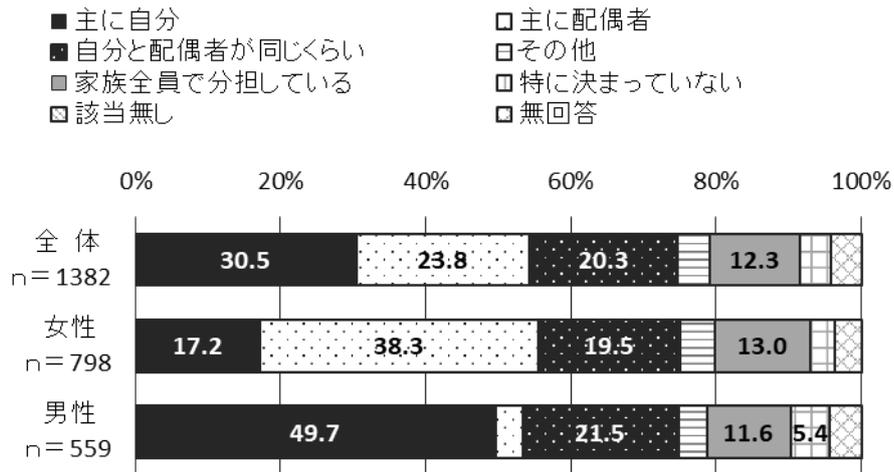
家庭生活での役割分担について 11 の項目についての現状を聞いた。

この結果を性別にみると、「家計を支えるための収入を得る」では、男性の場合「主に自分」(49.7%)、女性では「主に配偶者」(38.3%)の割合が高いが、「家計の管理」「掃除」「洗濯」「食事の準備」「食事のあとかたづけ」といった家事に関しては、男性の場合「主に配偶者」、女性の場合は「主に自分」との回答が最も多く、これらの役割は、女性を中心となって担っていることがうかがえる。また、同様に「育児、子どものしつけ」「親の世話(介護)」についても、女性への依存が高い傾向がみられる。

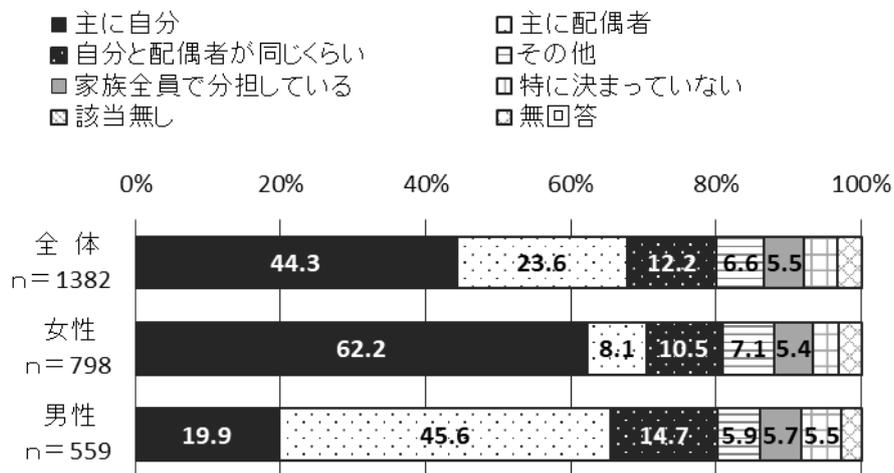
一方、「子どもの教育方針の決定」については、男女ともに「自分と配偶者が同じくらい」との回答が多くなっており、「家庭の問題における最終的な決定」については、女性では「主に配偶者」、男性では「主に自分」の割合が高く、男性が中心となっていることがうかがえる。「地区の行事などの地域活動」については、男女とも「主に自分」が最も高い。



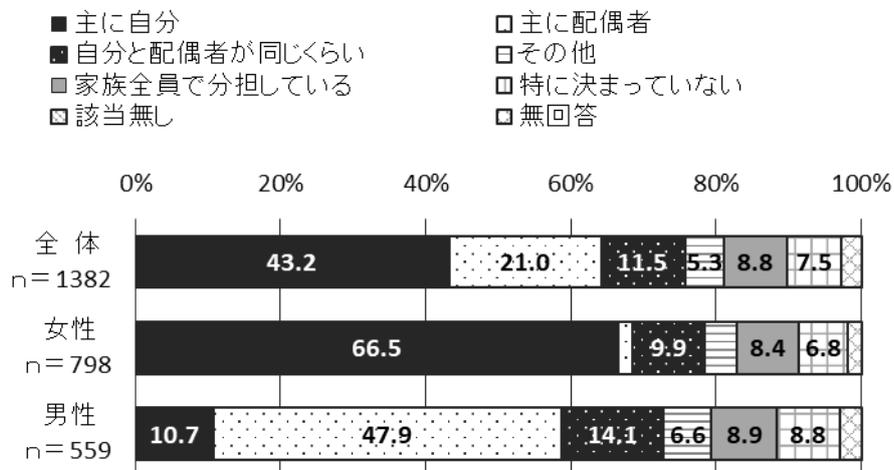
### ○家計を支えるための収入を得る



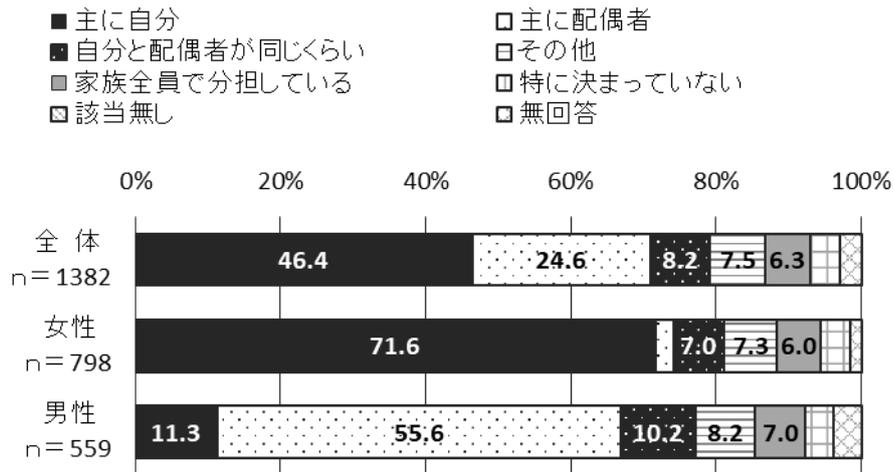
### ○家計の管理



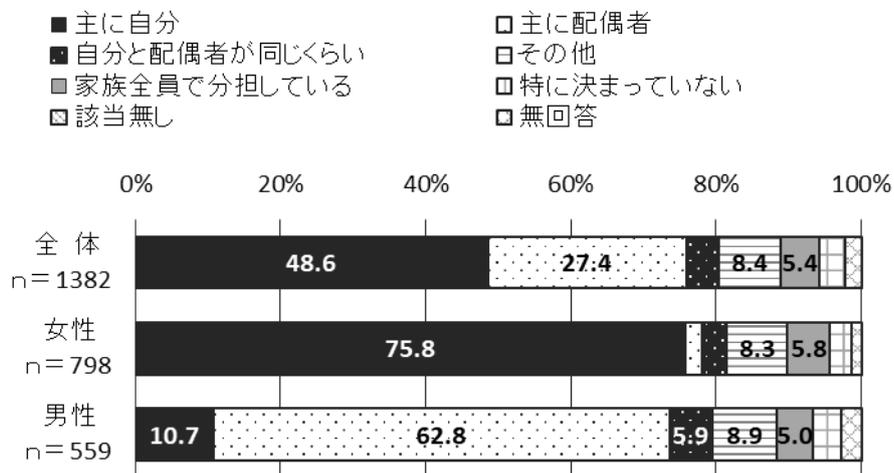
### ○掃除



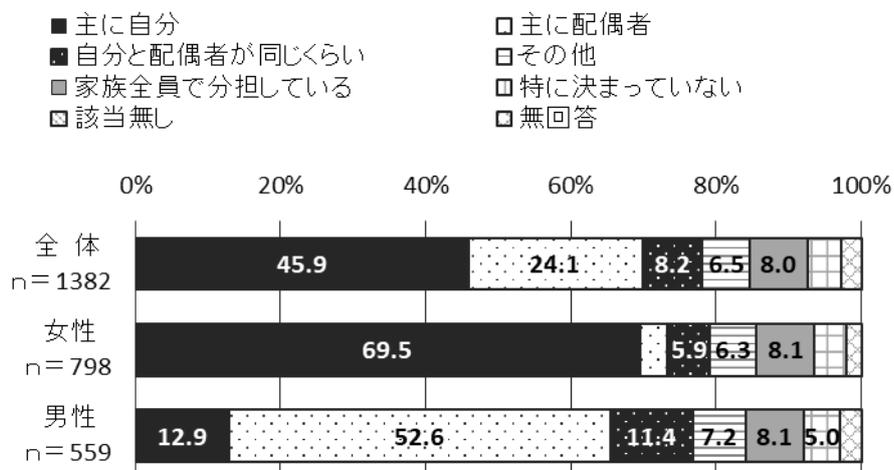
## ○洗濯



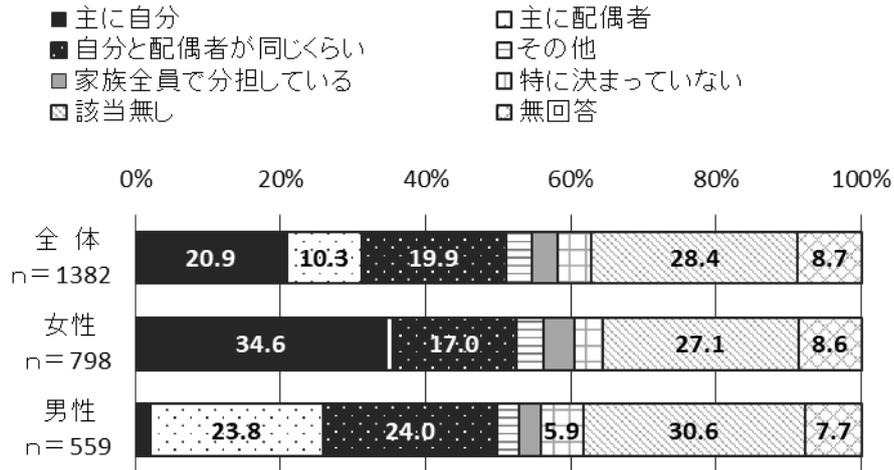
## ○食事の準備



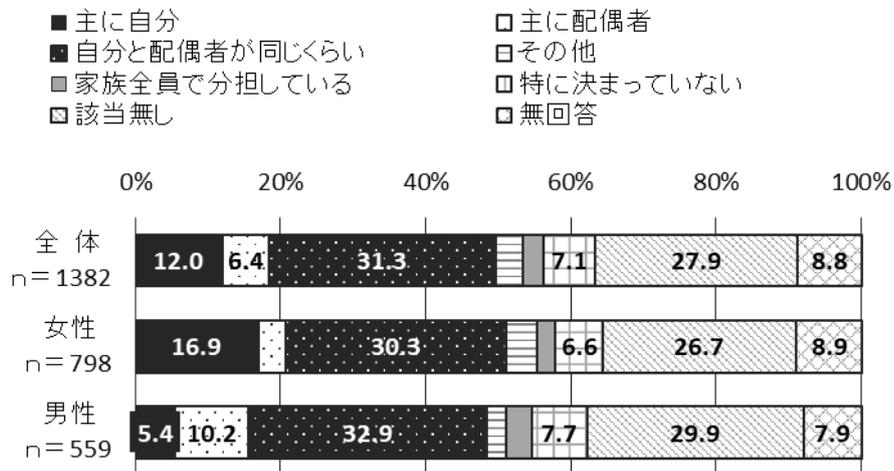
## ○食事のあとかたづけ



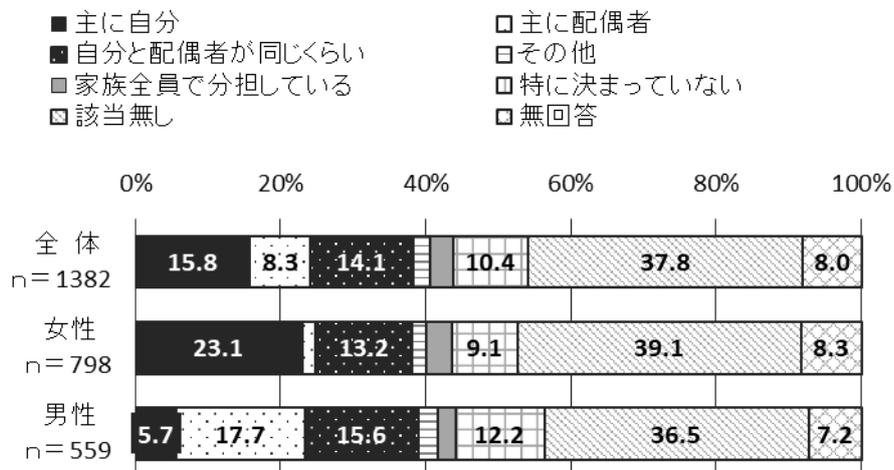
### ○育児、子どものしつけ



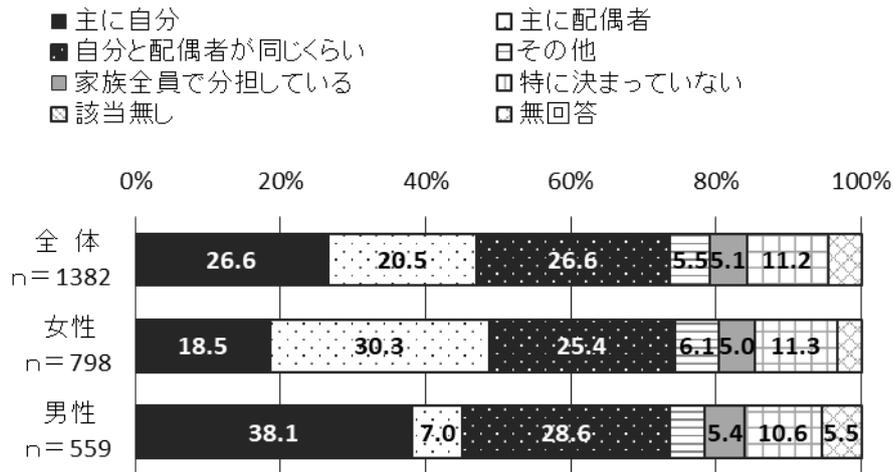
### ○子どもの教育方針の決定



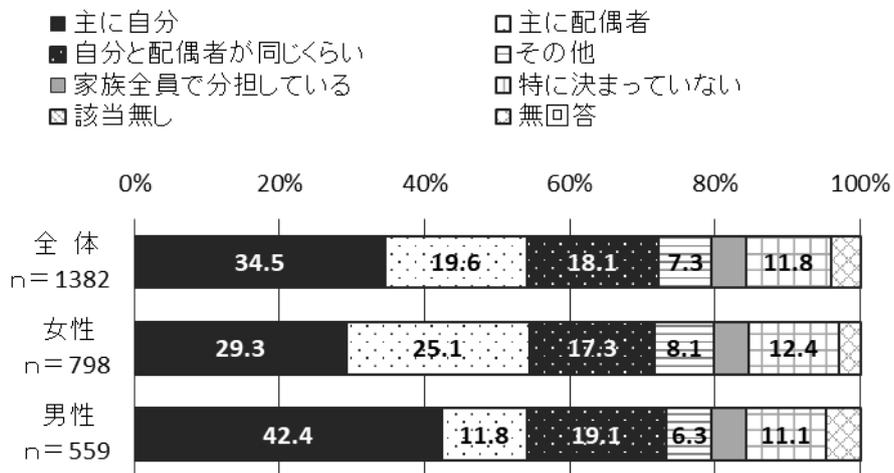
### ○親の世話(介護)



### ○家庭の問題における最終的な決定



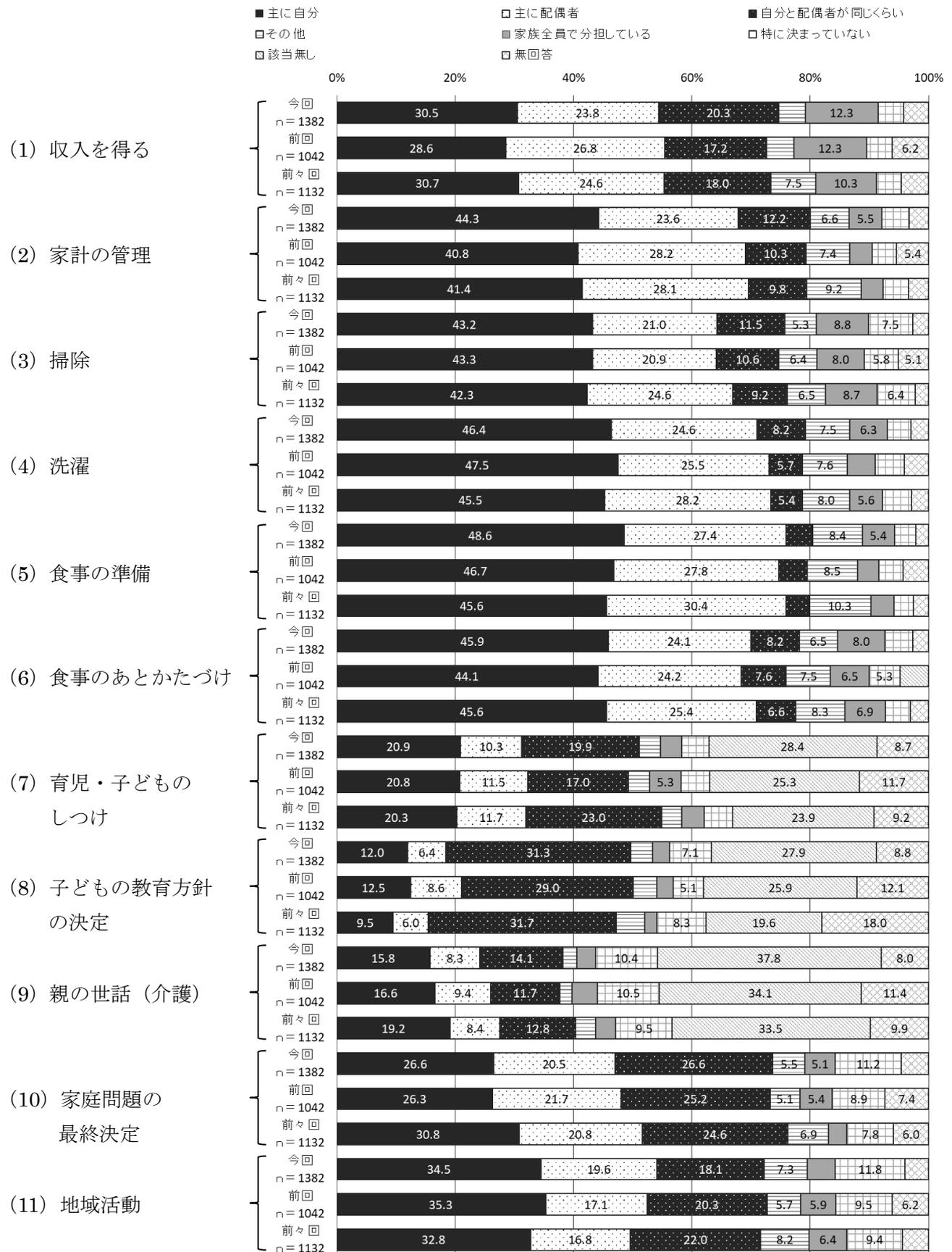
### ○地区の行事などの地域活動



【前回調査との比較】

○平成 22 年度及び平成 27 年度 宇城市男女共同参画市民意識調査

全体の傾向は前回、前々回とほぼ同じであるが、家計の管理については「主に自分」とする回答がわずかに増加している。

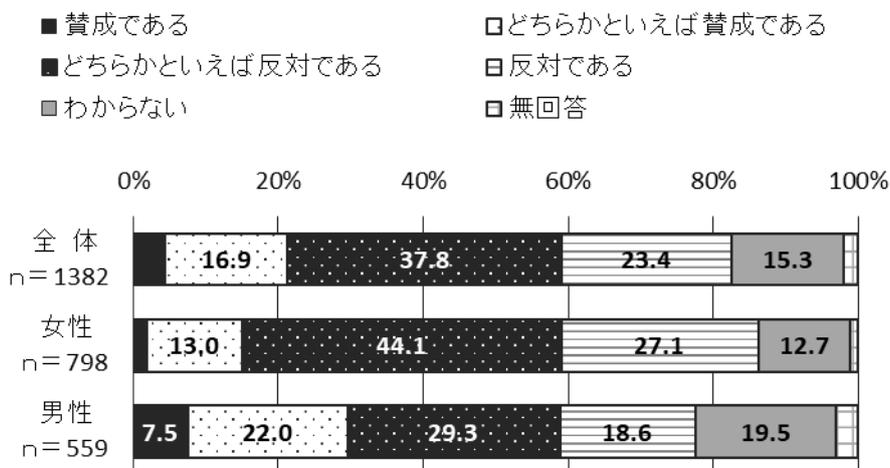


## (2)性別による固定的役割分担の考え方について

問5 あなたは、「男性は仕事、女性は家事・育児・介護」という性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。(○は1つ)

全体での結果をみると、「どちらかといえば反対である」の 37.8%が最も多く、これに「反対である」の 23.4%、「どちらかといえば賛成である」の 16.9%が続いている。「反対である」と「どちらかといえば反対である」を合わせた『反対』は 61.2%と 6 割を超えており、「賛成である」と「どちらかといえば賛成である」を合わせた『賛成』は 21.3%となっている。

性別にみると、男女いずれも『反対』(女性 71.2%、男性 47.9%)が多くなっているが、男性に比べ女性でその割合が高くなっている。



### 【性年代別】

性年代別にみると、80 歳代以上の男性を除き男女いずれの年代でも『反対』が多い。

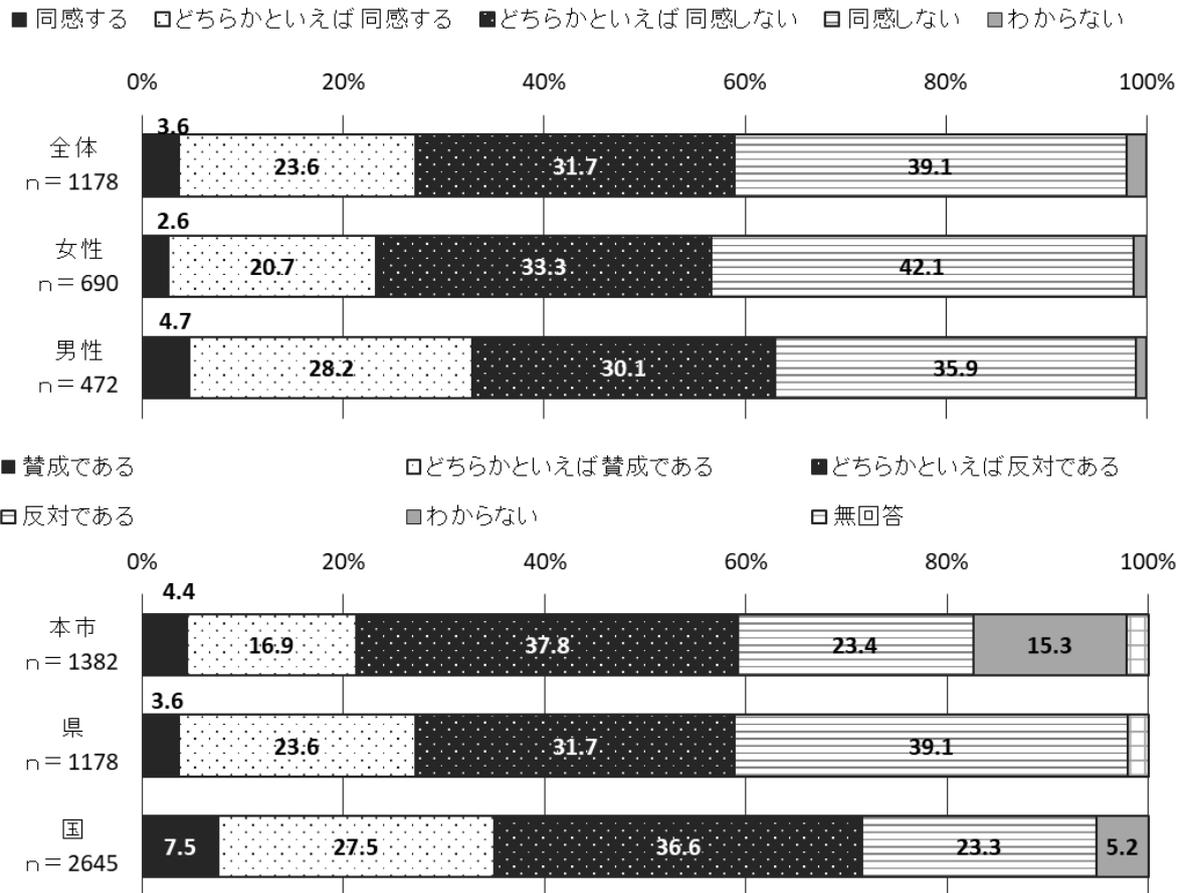
		全体	賛成である	どちらかといえば賛成である	どちらかといえば反対である	反対である	わからない	無回答
全体		1382	4.4%	16.9%	37.8%	23.4%	15.3%	2.1%
<b>■性年代別</b>								
女性	20 歳代	49	0.0%	2.0%	46.9%	44.9%	6.1%	0.0%
	30 歳代	82	0.0%	4.9%	43.9%	36.6%	13.4%	1.2%
	40 歳代	112	0.9%	5.4%	42.0%	35.7%	14.3%	1.8%
	50 歳代	143	1.4%	10.5%	40.6%	35.0%	12.6%	0.0%
	60 歳代	191	2.1%	14.1%	48.2%	22.5%	12.6%	0.5%
	70 歳代	171	2.3%	24.6%	45.6%	12.9%	12.3%	2.3%
	80 歳代以上	46	10.9%	17.4%	32.6%	19.6%	17.4%	2.2%
男性	20 歳代	36	5.6%	11.1%	13.9%	44.4%	25.0%	0.0%
	30 歳代	47	4.3%	8.5%	27.7%	31.9%	21.3%	6.4%
	40 歳代	79	2.5%	15.2%	34.2%	20.3%	26.6%	1.3%
	50 歳代	74	9.5%	9.5%	36.5%	27.0%	14.9%	2.7%
	60 歳代	134	7.5%	21.6%	29.9%	19.4%	18.7%	3.0%
	70 歳代	150	6.7%	36.7%	27.3%	4.7%	20.7%	4.0%
80 歳代以上	38	21.1%	31.6%	28.9%	10.5%	5.3%	2.6%	

**【国・県調査との比較】**

○令和元年度 男女共同参画に関する県民意識調査(熊本県)

男女いずれも『反対』の割合が多いのは共通であるが、本市では男女ともに「どちらかといえば同感しない(反対である)」というやや消極的な反対意見が多かったのに対し、県の結果では、女性で積極的な反対意見が多く、男性では消極的ながら賛成する意見の割合が高くなっている。また、本市の場合は「わからない」の割合が県や国と比べて高い。

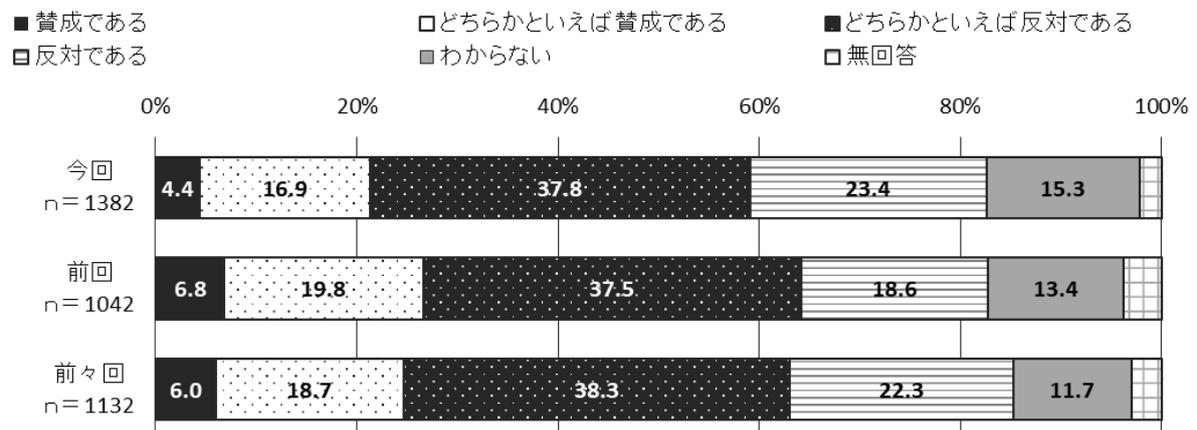
国の結果は本市や県と比べて『賛成』の割合が高くなっている。



**【前回調査との比較】**

○平成 22 年度及び平成 27 年度 宇城市男女共同参画市民意識調査

今回の調査では、『賛成』は 21.3%、『反対』は 61.2%と 6 割以上を占めている。前回、前々回と比べ反対意見が多くなっており、『反対』も増加している。

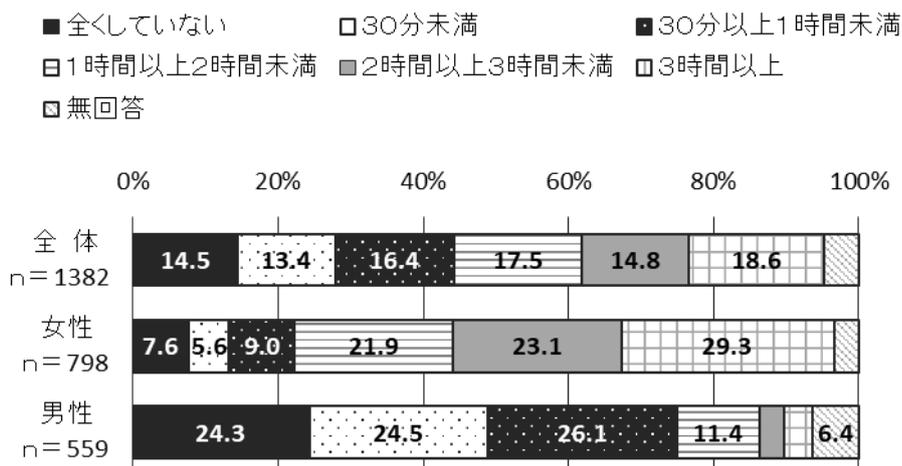


### (3)家事に費やす時間

問6 あなたが家事(育児・介護を含む)に費やす時間は1日どれくらいですか。次のA・Bについて、あてはまる番号を選び、○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

#### ①「A 平日」

平日の家事(育児・介護を含む)に費やす時間をみると、全体では「3時間以上」(18.6%)が最も多く、これに「1時間以上2時間未満」の17.5%、「30分以上1時間未満」の16.4%が続いている。



#### 【性別】

性別にみると、女性は「3時間以上」(29.3%)が最も多いのに対し、男性では「30分以上1時間未満」が26.1%で最も多くなっている。

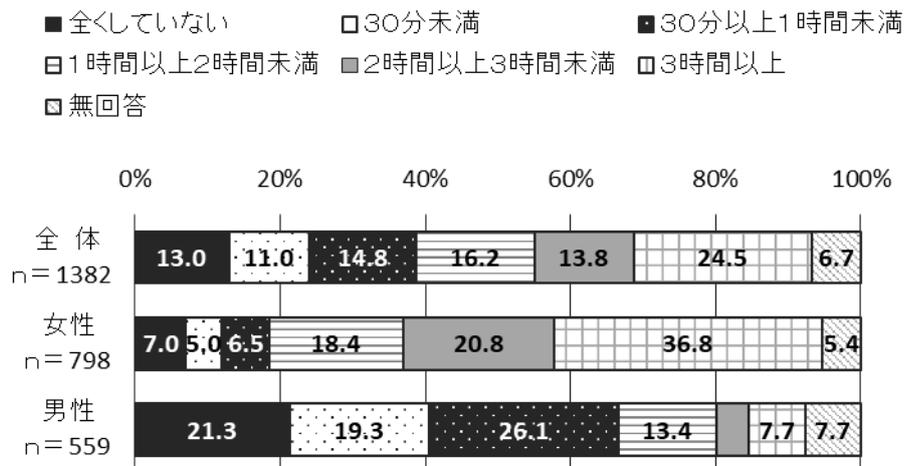
#### 【性年代別】

性年代別にみると、女性は30歳代、40歳代、60歳代で「3時間以上」との回答が多い。男性では、すべての年代で1時間未満の回答が最も多く、70歳代、80歳代では「全くしていない」との回答が最も多かった。

	全体	全くしていない	30分未満	30分以上1時間未満	1時間以上2時間未満	2時間以上3時間未満	3時間以上	無回答	
全体	1382	14.5%	13.4%	16.4%	17.5%	14.8%	18.6%	4.8%	
<b>■性年代別</b>									
女性	20歳代	49	14.3%	32.7%	8.2%	10.2%	10.2%	20.4%	4.1%
	30歳代	82	3.7%	6.1%	9.8%	14.6%	18.3%	47.6%	0.0%
	40歳代	112	0.9%	5.4%	9.8%	19.6%	29.5%	34.8%	0.0%
	50歳代	143	4.9%	3.5%	10.5%	30.1%	26.6%	24.5%	0.0%
	60歳代	191	9.4%	2.1%	8.9%	23.6%	21.5%	31.9%	2.6%
	70歳代	171	11.1%	1.8%	8.8%	22.8%	26.9%	22.2%	6.4%
	80歳代以上	46	10.9%	13.0%	4.3%	17.4%	10.9%	23.9%	19.6%
男性	20歳代	36	22.2%	27.8%	30.6%	8.3%	5.6%	2.8%	2.8%
	30歳代	47	14.9%	31.9%	17.0%	27.7%	4.3%	2.1%	2.1%
	40歳代	79	22.8%	21.5%	31.6%	10.1%	5.1%	3.8%	5.1%
	50歳代	74	20.3%	37.8%	31.1%	5.4%	1.4%	2.7%	1.4%
	60歳代	134	23.1%	22.4%	29.1%	14.2%	2.2%	1.5%	7.5%
	70歳代	150	28.7%	23.3%	19.3%	9.3%	3.3%	5.3%	10.7%
	80歳代以上	38	34.2%	5.3%	28.9%	7.9%	5.3%	10.5%	7.9%

## ②「B 休日」

休日については、全体で「3時間以上」(24.5%)が最も多く、これに「1 時間以上 2 時間未満」の 16.2%、「30 分以上 1 時間未満」の 14.8%が続いている。「全くしていない」は 13.0%。



### 【性別】

性別にみると、女性は「3時間以上」(36.8%)が最も多いのに対し、男性では「30分以上1時間未満」(26.1%)が最も多いほか、これに「全くしていない」(21.3%)、「30分未満」(19.3%)が続いており、女性に比べ短い時間となっている。

### 【性年代別】

性年代別にみると、女性は20歳代と70歳代、80歳以上を除くいずれの年代でも「3時間以上」との回答が最も多い。男性では、30歳代で「3時間以上」が最も多くなっている。他の年代では「30分以上1時間未満」「30分未満」「全くしていない」のいずれかが最も多くなっており、平日に比べるとやや多いものの、女性に比べ家事・育児に携わる時間が短くなっている。

	全体	全くしていない	30分未満	30分以上1時間未満	1時間以上2時間未満	2時間以上3時間未満	3時間以上	無回答	
全体	1382	13.0%	11.0%	14.8%	16.2%	13.8%	24.5%	6.7%	
<b>■性年代別</b>									
女性	20歳代	49	10.2%	30.6%	8.2%	8.2%	14.3%	22.4%	6.1%
	30歳代	82	2.4%	6.1%	7.3%	12.2%	12.2%	58.5%	1.2%
	40歳代	112	0.9%	2.7%	4.5%	17.0%	19.6%	51.8%	3.6%
	50歳代	143	4.9%	0.7%	7.0%	18.9%	25.2%	43.4%	0.0%
	60歳代	191	8.9%	1.6%	7.9%	21.5%	21.5%	35.1%	3.7%
	70歳代	171	11.1%	4.7%	5.8%	21.6%	25.1%	22.8%	8.8%
	80歳代以上	46	8.7%	10.9%	4.3%	19.6%	13.0%	15.2%	28.3%
男性	20歳代	36	19.4%	27.8%	25.0%	8.3%	5.6%	11.1%	2.8%
	30歳代	47	8.5%	21.3%	21.3%	17.0%	6.4%	23.4%	2.1%
	40歳代	79	20.3%	13.9%	24.1%	17.7%	7.6%	12.7%	3.8%
	50歳代	74	17.6%	20.3%	40.5%	12.2%	4.1%	2.7%	2.7%
	60歳代	134	17.9%	20.9%	29.9%	16.4%	5.2%	2.2%	7.5%
	70歳代	150	27.3%	21.3%	20.0%	10.0%	2.0%	5.3%	14.0%
	80歳代以上	38	34.2%	5.3%	21.1%	10.5%	2.6%	13.2%	13.2%

## 4. 子育て・教育について

### (1)子どもの数が減少傾向にある理由

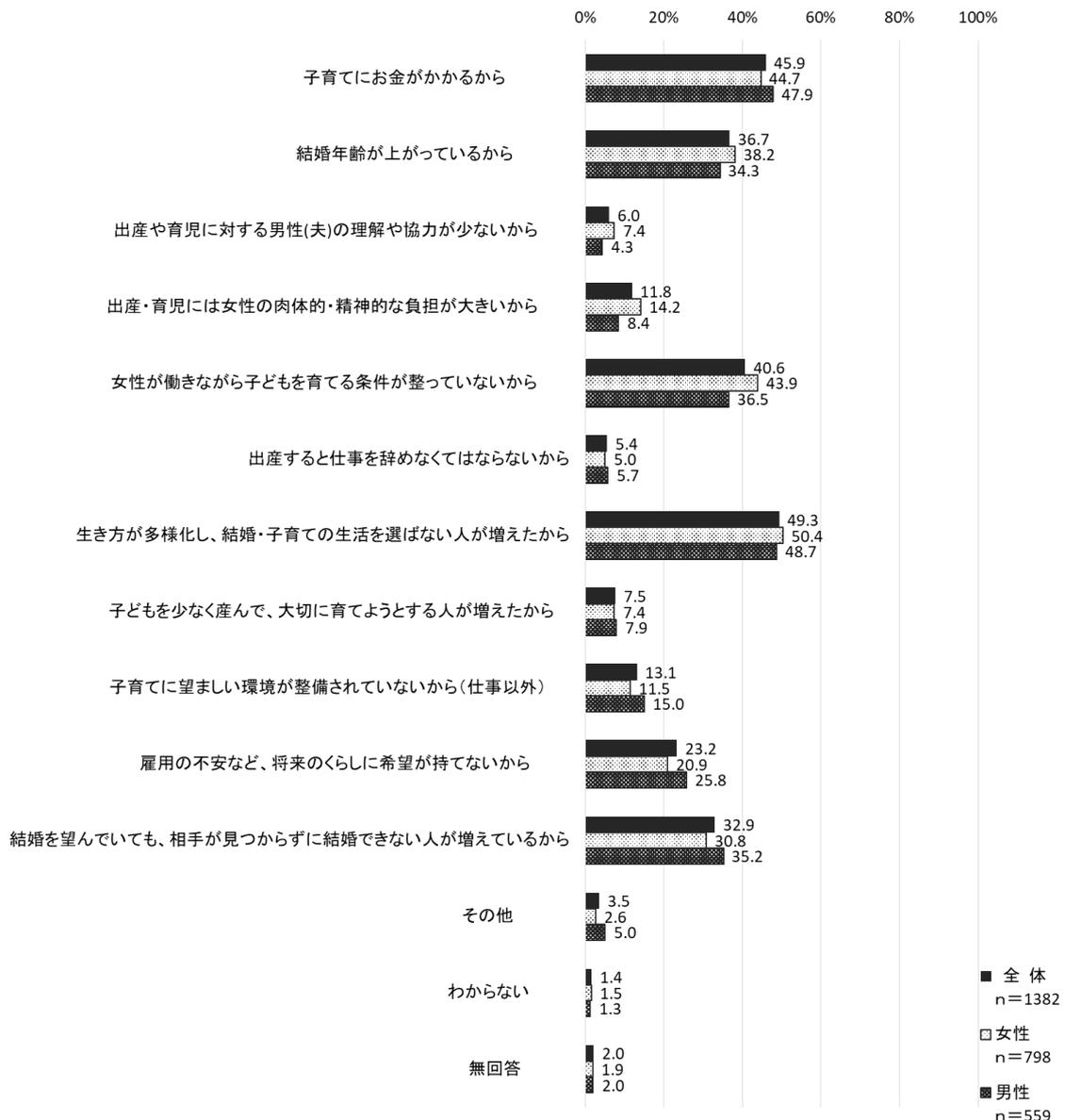
問7 最近、子どもの数が減少傾向にあります。その理由は何だと思いますか。あなたの考えに近い番号を3つ選び、○で囲んでください。(○は3つまで)

子どもの数が減少傾向にある理由をあげてもらった。

全体の結果は「生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから」(49.3%)が最も多く、次いで「子育てにお金がかかるから」(45.9%)、「女性が働きながら子どもを育てる条件が整っていないから」(40.6%)、「結婚年齢が上がっているから」(36.7%)、「結婚を望んでも、相手が見つからずに結婚できない人が増えているから」(32.9%)、「雇用の不安など、将来の暮らしに希望が持てないから」(23.2%)が続いている。

#### 【性別】

性別にみると、「女性が働きながら子どもを育てる条件が整っていないから」では男性に比べ女性の割合が高く、男性では「雇用の不安など、将来の暮らしに希望が持てないから」の割合が高くなっている。



## 【性年代別】

性年代別にみると、女性で 70 歳代以外のすべての年代で「女性が働きながら子どもを育てる条件が整っていないから」との回答が 40%以上となっており、30 歳代と 40 歳以上では「結婚年齢が上がっているから」との回答が多くなっている。男性では、20 歳代で「子育てにお金がかかるから」、50 歳代で「生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから」との回答が 60%を超えている。60 歳代と 70 歳代では「女性が働きながら子どもを育てる条件が整っていないから」との回答が多くなっている。

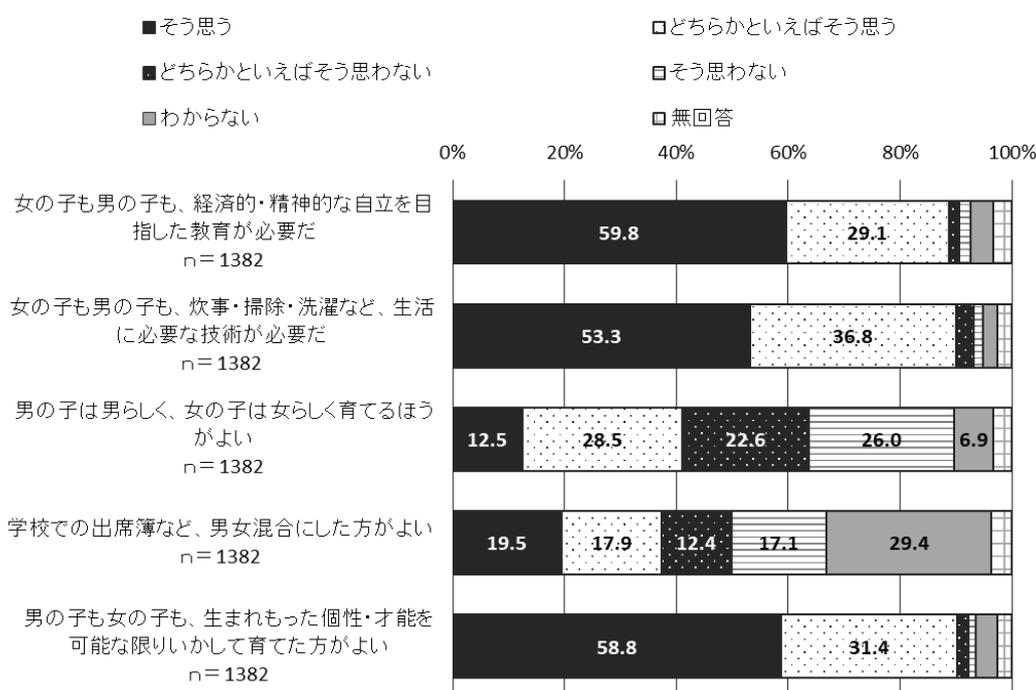
	全体	子育てにお金がかかるから	結婚年齢が上がっているから	理解や協力が少ないから	出産や育児に対する男性（夫）の	精神的負担が大きいから	肉体的・精神的負担が大きいから	女性が働きながら子どもを育てる条件が整っていないから	出産すると仕事を辞めなくてはならないから	生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから	子どもを少なく産んで、大切に育てようとする人が増えたから	子育てに望ましい環境が整備されていないから（仕事以外）	雇用の不安など、将来のくらしに希望が持てないから	結婚を望んでいても、相手が見つかからないから結婚できない人が増えているから	その他	わからない	無回答
全体	1382	45.9%	36.7%	6.0%	11.8%	40.6%	5.4%	49.3%	7.5%	13.1%	23.2%	32.9%	3.5%	1.4%	2.0%		
■性年代別																	
女性	20歳代	49	40.8%	32.7%	6.1%	16.3%	53.1%	4.1%	51.0%	4.1%	24.5%	24.5%	22.4%	2.0%	4.1%	0.0%	
	30歳代	82	47.6%	40.2%	11.0%	19.5%	50.0%	8.5%	50.0%	1.2%	17.1%	17.1%	18.3%	1.2%	0.0%	2.4%	
	40歳代	112	49.1%	44.6%	13.4%	11.6%	42.0%	4.5%	51.8%	4.5%	7.1%	25.0%	25.0%	6.3%	1.8%	0.0%	
	50歳代	143	45.5%	37.8%	4.9%	14.7%	53.1%	3.5%	50.3%	6.3%	11.2%	21.7%	27.3%	2.8%	0.7%	1.4%	
	60歳代	191	44.5%	35.1%	5.8%	15.7%	43.5%	5.2%	51.8%	6.8%	13.6%	24.6%	35.1%	2.1%	0.5%	1.6%	
	70歳代	171	42.1%	36.3%	6.4%	12.3%	32.7%	4.1%	49.7%	14.0%	7.0%	19.3%	39.8%	1.8%	2.3%	3.5%	
	80歳代以上	46	41.3%	41.3%	6.5%	8.7%	43.5%	8.7%	39.1%	10.9%	8.7%	4.3%	37.0%	2.2%	4.3%	4.3%	
男性	20歳代	36	66.7%	41.7%	8.3%	2.8%	22.2%	11.1%	36.1%	8.3%	19.4%	30.6%	25.0%	11.1%	0.0%	0.0%	
	30歳代	47	53.2%	34.0%	4.3%	12.8%	21.3%	2.1%	51.1%	2.1%	12.8%	38.3%	19.1%	12.8%	2.1%	4.3%	
	40歳代	79	54.4%	50.6%	5.1%	7.6%	29.1%	5.1%	46.8%	5.1%	10.1%	22.8%	31.6%	3.8%	2.5%	2.5%	
	50歳代	74	47.3%	39.2%	2.7%	8.1%	33.8%	4.1%	60.8%	4.1%	8.1%	29.7%	41.9%	4.1%	0.0%	0.0%	
	60歳代	134	42.5%	32.1%	3.0%	7.5%	44.0%	6.7%	50.0%	8.2%	20.1%	27.6%	38.1%	2.2%	1.5%	1.5%	
	70歳代	150	42.7%	27.3%	4.0%	10.7%	44.0%	6.7%	46.0%	10.7%	17.3%	20.7%	36.0%	4.7%	1.3%	2.0%	
	80歳代以上	38	52.6%	18.4%	7.9%	5.3%	34.2%	2.6%	42.1%	15.8%	10.5%	18.4%	44.7%	5.3%	0.0%	5.3%	

## (2)子どものしつけや教育について

問8 あなたは、子どもの育て方について、どのように思いますか。(1)～(5)について、あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)。

子どものしつけや教育に関する5項目の意識をみると、「女の子も男の子も、経済的・精神的な自立を目指した教育が必要だ」「女の子も男の子も、炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術が必要だ」「男の子も女の子も、生まれ持った個性・才能を可能な限りいかして育てた方がよい」に関しては8割以上が『そう思う』(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)となっている。「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」については『そう思う』が41.0%を占めているが、『そう思わない』も48.6%となっている。

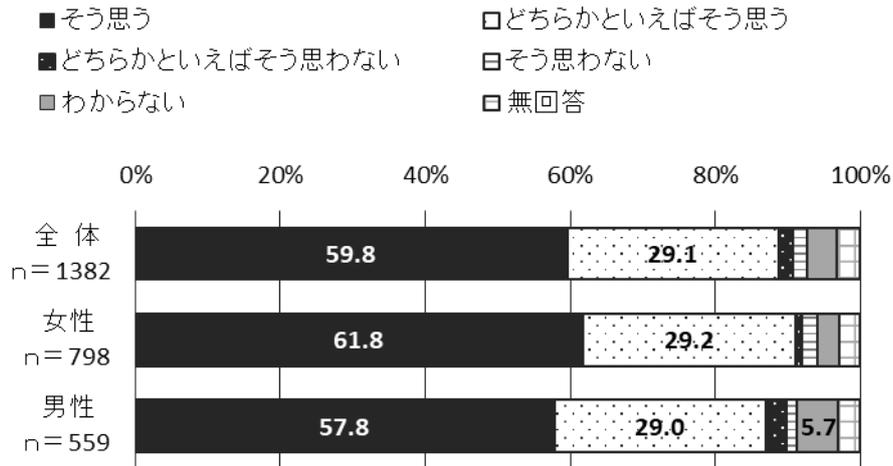
一方、「学校での出席簿など、男女混合にした方がよい」は、『そう思う』が37.4%、『そう思わない』が29.5%となっている。



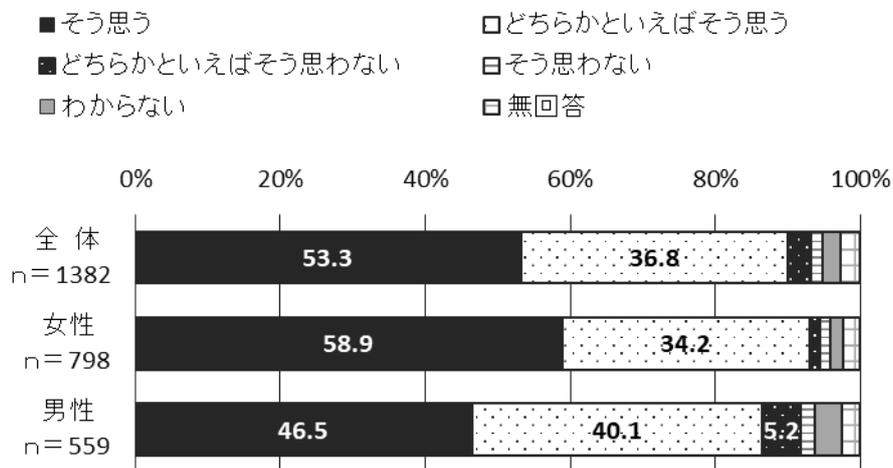
### 【性別】

性別にみると、ほぼ全体と同様の傾向にあるが、「女の子も男の子も、炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術が必要」では、男性に比べ、女性の「そう思う」との回答割合が高くなっている(女性 58.9%、男性 46.5%)、一方、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」に関しては、男性の「そう思う」が17.4%であり、「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(肯定的な意識)』が51.0%と過半数を占めるが、女性は34.3%と低くなっている。

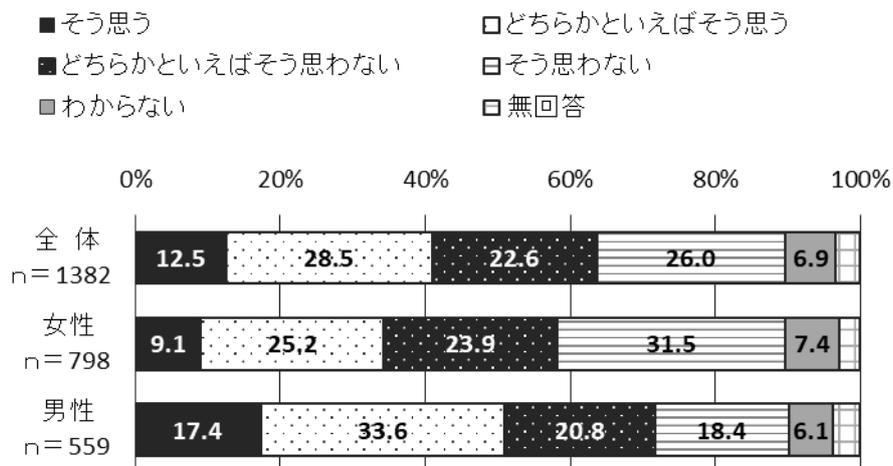
○女の子も男の子も、経済的・精神的な自立を目指した教育が必要だ



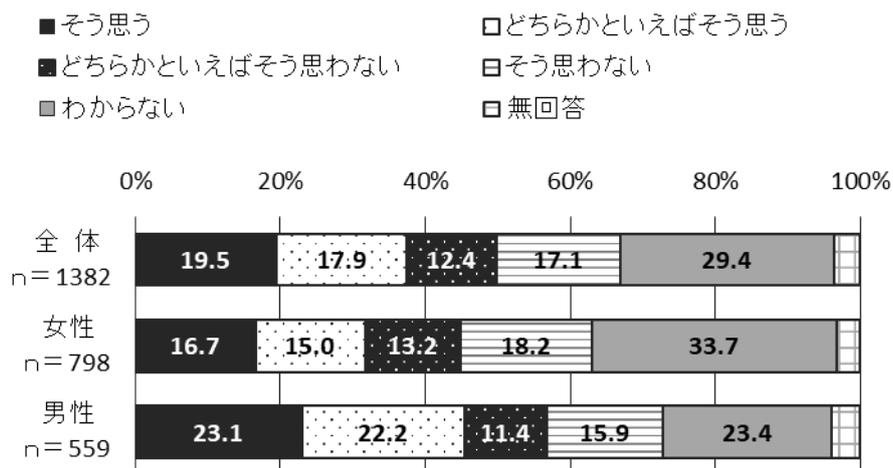
○女の子も男の子も、炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術が必要だ



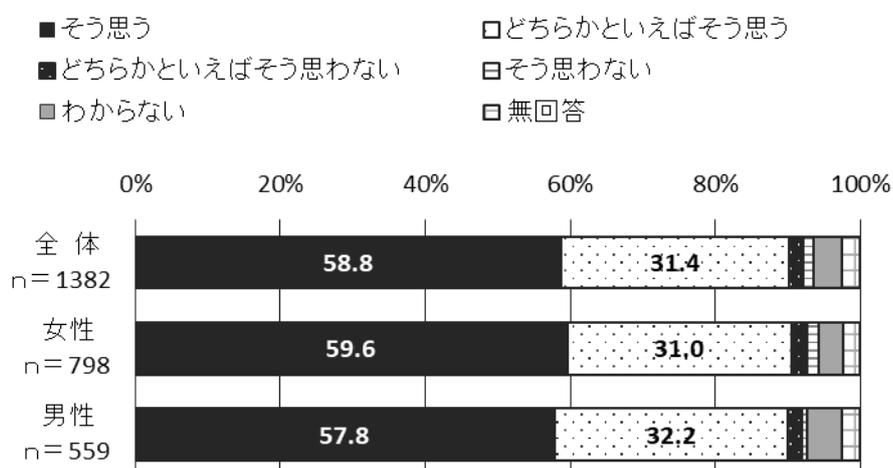
○男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい



○学校での出席簿など、男女混合にした方がよい



○男の子も女の子も、生まれもった個性・才能を可能な限りいかして育てた方がよい



## 5. 女性の社会参画について

### (1)女性が仕事を持つことについて

問9 あなたは、女性が職業を持つことについて、どう思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。(○は1つ)

全体では、「経済的自立のため、ずっと職業をもっている方がよい」(66.4%)との回答が最も多く、次いで「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」(23.9%)がこれに続いている。

- 経済的自立のために、職業をもっている方がよい
- 結婚するまでは職業をもち、あとはもたない方がよい
- 子どもができるまで職業をもち、あとはもたない方がよい
- 子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい
- 女性は職業をもたない方がよい
- その他
- わからない
- 無回答



#### 【性別】

性別にみても、ほぼ同様の傾向がみられる。

#### 【性年代別】

性年代別にみると、女性の40歳代から60歳代で「経済的自立のため、ずっと職業をもっている方がよい」との回答が70%を超えており、70歳代、80歳代では、「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」との回答が多くなっている。男性では50歳代で「経済的自立のため、ずっと職業をもっている方がよい」との回答が70%を超えており、70歳代で「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」との回答がやや多くなっている。

#### 【本人の職業別】

本人の職業別にみると、家族従事者では「子どもができたら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」との回答が他の職業層よりも多くなっている。正規雇用者では、「経済的自立のため、ずっと職業をもっている方がよい」との回答が他の職業層と比べて多くなっている。

	全体	経済的自立のために、職業をもつ	結婚するまでは職業をもち、あとはもたない方がよい	子どもがでるまで職業をもち、あとはもたない方がよい	子どもがよいかから職業を中断し、再び子どもがよいかから職業を再開する方がよい	女性は職業をもたない方がよい	その他	わからない	無回答	
全体	1382	66.4%	0.7%	1.2%	23.9%	0.1%	3.3%	3.2%	1.2%	
<b>■性年代別</b>										
女性	20歳代	49	67.3%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	10.2%	8.2%	0.0%
	30歳代	82	69.5%	1.2%	0.0%	18.3%	0.0%	4.9%	3.7%	2.4%
	40歳代	112	75.0%	0.0%	0.0%	16.1%	0.0%	6.3%	2.7%	0.0%
	50歳代	143	74.1%	0.7%	0.7%	20.3%	0.7%	1.4%	2.1%	0.0%
	60歳代	191	72.8%	1.0%	0.0%	24.1%	0.0%	1.6%	0.5%	0.0%
	70歳代	171	61.4%	0.6%	1.2%	31.6%	0.0%	0.6%	1.8%	2.9%
	80歳代以上	46	50.0%	2.2%	2.2%	37.0%	0.0%	0.0%	4.3%	4.3%
男性	20歳代	36	52.8%	0.0%	2.8%	19.4%	0.0%	16.7%	8.3%	0.0%
	30歳代	47	57.4%	2.1%	0.0%	17.0%	0.0%	12.8%	8.5%	2.1%
	40歳代	79	69.6%	0.0%	1.3%	20.3%	0.0%	1.3%	5.1%	2.5%
	50歳代	74	74.3%	0.0%	2.7%	17.6%	0.0%	4.1%	1.4%	0.0%
	60歳代	134	66.4%	0.0%	0.7%	26.1%	0.7%	3.0%	2.2%	0.7%
	70歳代	150	55.3%	0.7%	2.7%	32.0%	0.0%	1.3%	6.7%	1.3%
	80歳代以上	38	65.8%	2.6%	7.9%	21.1%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%
<b>■本人の職業別</b>										
自営業主	135	67.4%	1.5%	0.0%	25.9%	0.0%	3.0%	2.2%	0.0%	
家族従事者	68	51.5%	0.0%	1.5%	35.3%	1.5%	2.9%	7.4%	0.0%	
正規雇用者	403	76.4%	0.2%	0.7%	15.1%	0.0%	4.5%	2.7%	0.2%	
非正規雇用者	248	68.1%	0.0%	0.4%	24.6%	0.4%	4.4%	1.6%	0.4%	
主婦・主夫	162	63.0%	1.9%	0.0%	28.4%	0.0%	1.9%	3.1%	1.9%	
学生	13	53.8%	0.0%	7.7%	15.4%	0.0%	15.4%	7.7%	0.0%	
無職	271	60.1%	1.1%	3.0%	28.0%	0.0%	1.5%	4.1%	2.2%	
その他	24	54.2%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	8.3%	12.5%	

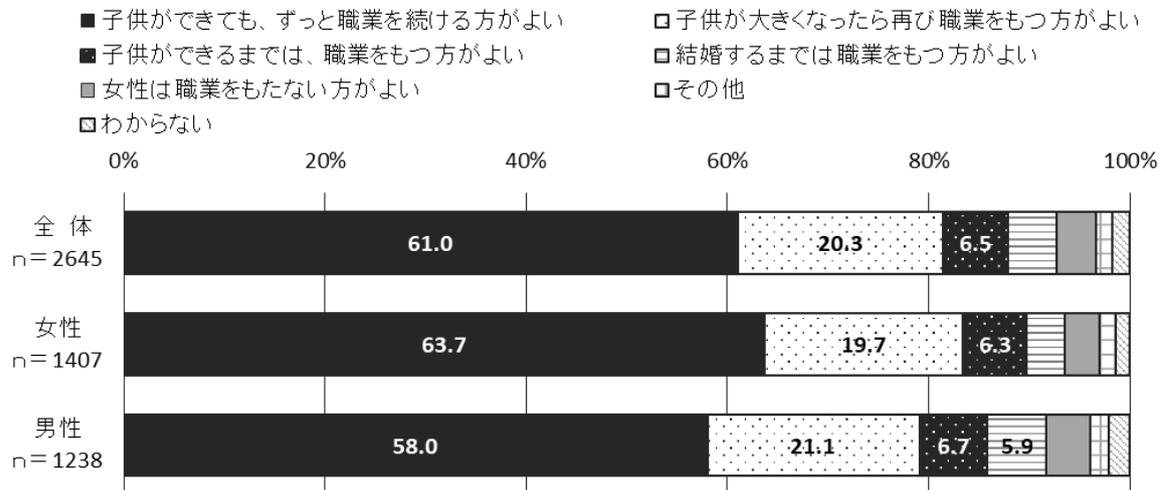
**【国・県調査との比較】**

**○内閣府男女共同参画に関する世論調査(令和元年度)**

本市の結果では、「経済的自立のため、ずっと職業をもっている方がよい」が 60%台となっており、「子どもができたなら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい」が 20%台となっている。

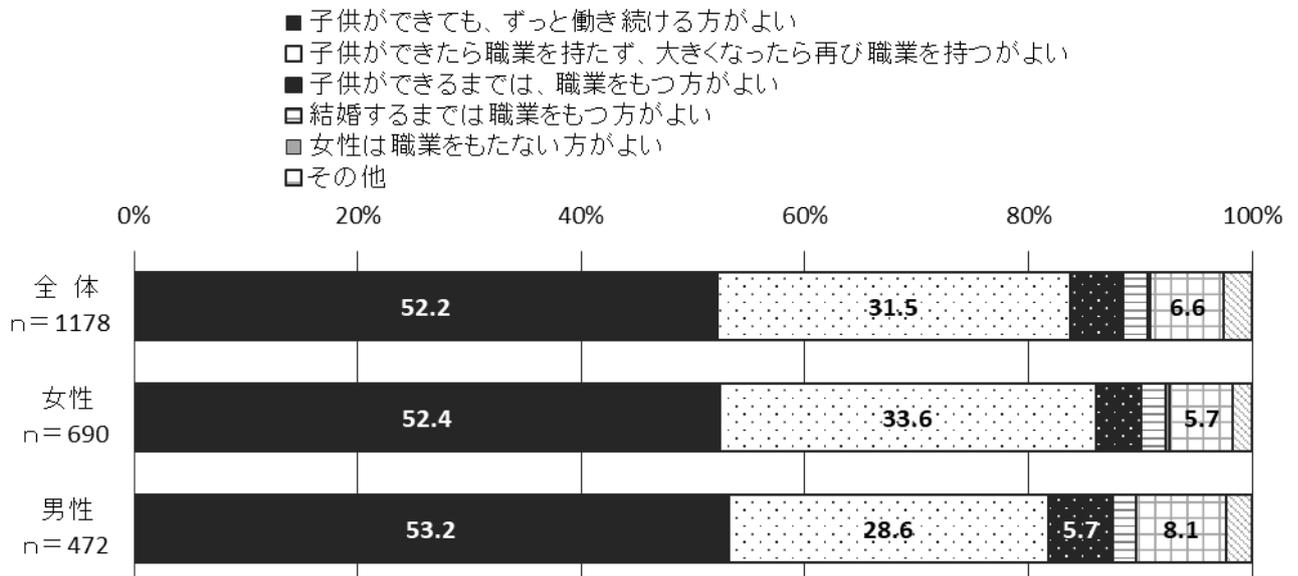
国の結果では「子どもができて、ずっと働き続ける方がよい」「子どもができたなら働くことをやめ、大きくなったら再び働く方がよい」は市と同様の結果となった。

つまり、市の子どもができて継続して就労することを支持する人の割合は、国の平均程度となっている。



**○令和元年度 男女共同参画に関する県民意識調査(熊本県)**

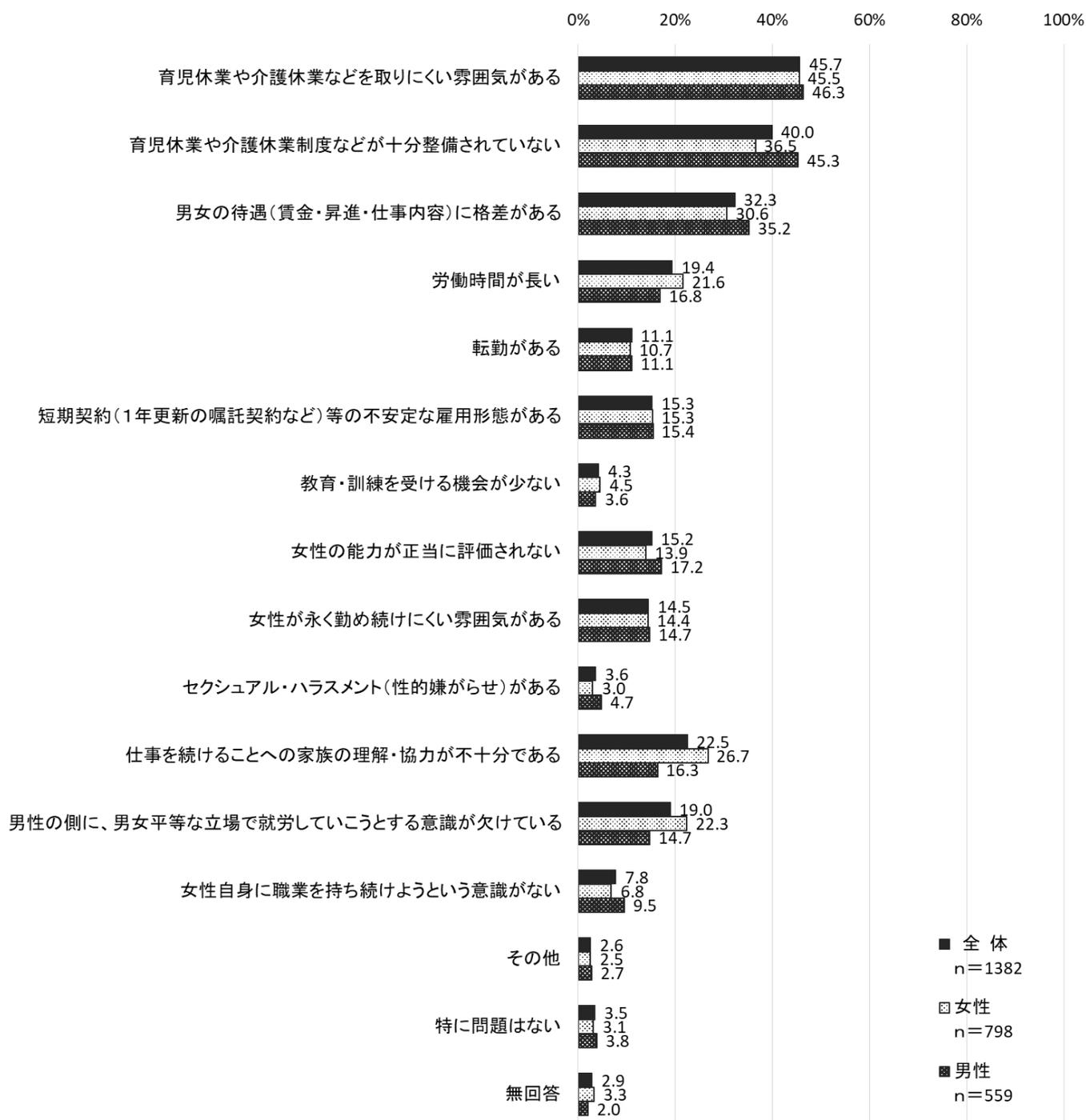
県の結果は、「子どもができて、ずっと働き続ける方がよい」とする割合は本市よりもやや低く、その分、「子どもができたなら働くことをやめ、大きくなったら再び働く方がよい」とする割合が高くなっている。



## (2)女性が仕事を続けるうえでの問題

問 10 女性が職業を持ち続けるうえでの問題はどのようなことだと思いますか。あなたの考えに近い番号を 3 つ選び、○で囲んでください。(○は3つまで)

全体では「育児休業や介護休業などを取りにくい雰囲気がある」(45.7%)が最も多く、これに「育児休業や介護休業制度などが十分整備されていない」(40.0%)が続いており、育児・介護支援制度に関する問題が上位を占めている。以下、「男女の待遇(賃金・昇進・仕事内容)に格差がある」(32.3%)、「仕事を続けることへの家族の理解・協力が不十分である」(22.5%)、「労働時間が長い」(19.4%)など、就労条件や家族の理解に関する回答が続いている。



## 【性別】

性別にみると、男女ともに育児・介護支援制度に関する問題が上位に挙げられているが、割合（選択率）は、男性が女性のそれを上回っている。このほか「労働時間が長い」と「仕事を続けることへの家族の理解・協力が不十分である」では男性よりも女性の割合が高くなっている。

## 【性年代別】

性年代別にみると、女性の20歳代から40歳代では「育児休業や介護休業を取りにくい雰囲気がある」との回答が50%を超えており、50歳代、60歳代の年齢層では「育児休業や介護休業制度などが十分整備されていない」での回答が他の年代層よりも多い。一方、男性の40歳代と80歳代では「育児休業や介護休業を取りにくい雰囲気がある」、50歳代から70歳代では「各種育児・介護支援制度などが十分整備されていない」が最も多くなっている。このほか60歳代、70歳代では「育児休業や介護休業制度などが十分整備されていない」、「男女の待遇（賃金・昇進・仕事内容）に格差がある」との回答が他の年代と比べ高くなっている。

## 【本人の職業別】

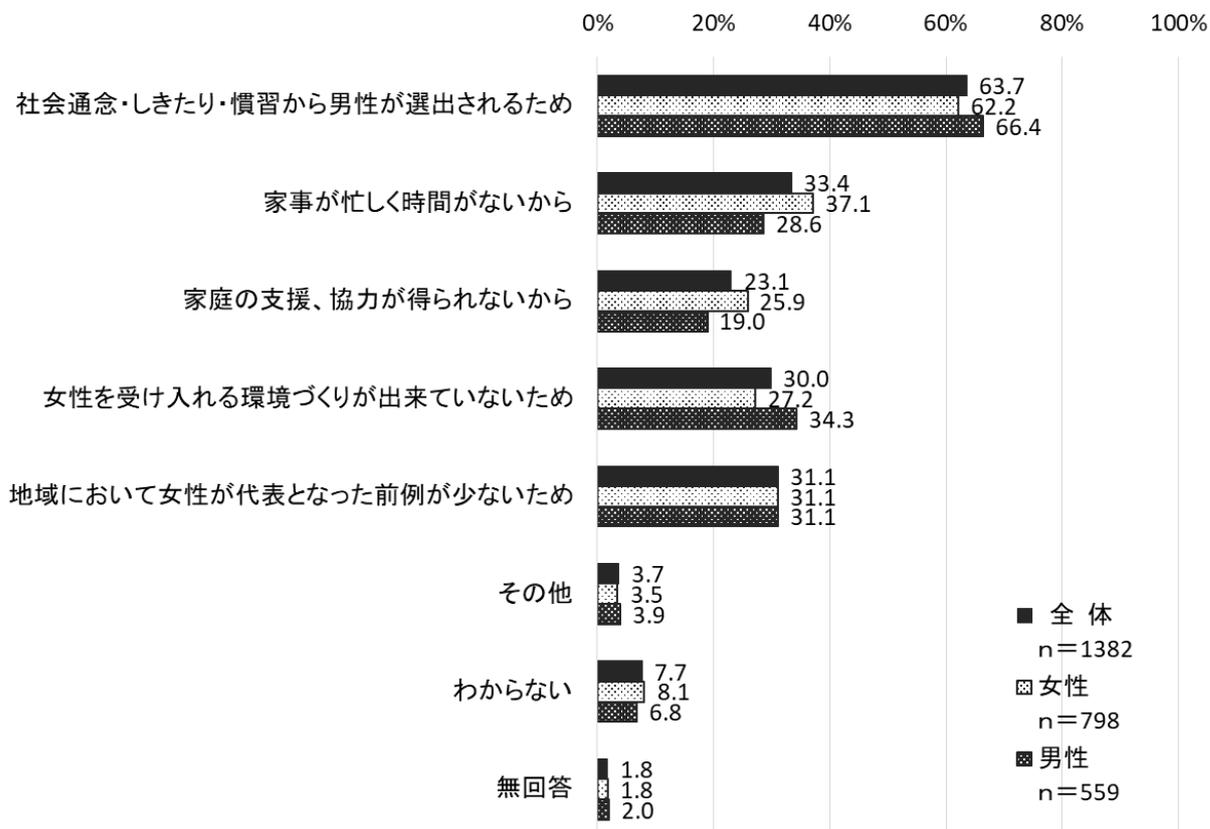
本人の職業別にみると、学生では「育児休業や介護休業を取りにくい雰囲気がある」と「男女の待遇（賃金・昇進・仕事内容）に格差がある」「女性の能力が正当に評価されない」との回答が他の職業よりも多くなっている。このほか家族従事者では、「育児休業や介護休業制度などが十分整備されていない」との回答が他の職業層と比べ多くなっている。

	全体	く育児休業や介護休業などを取りにくい雰囲気がある	分育児休業や介護休業制度などが十分整備されていない	容男女の待遇（賃金・昇進・仕事内容）に格差がある	労働時間が長い	転勤がある	短期契約（1年更新）の雇用形態がある	教育・訓練を受ける機会が少ない	女性の能力が正当に評価されない	女性が永く勤め続けにくい雰囲気がある	的嫌がら（セクシュアル・ハラスメント）性	解・仕事が続けられないことへの家族の理解	い男性の側に、男女平等な意識が欠けて	い女性自身に職業を持ち続けようとする意識がない	その他	
全体	1382	45.7%	40.0%	32.3%	19.4%	11.1%	15.3%	4.3%	15.2%	14.5%	3.6%	22.5%	19.0%	7.8%	2.6%	
<b>■性年代別</b>																
女性	20歳代	49	53.1%	34.7%	42.9%	26.5%	8.2%	6.1%	0.0%	10.2%	14.3%	16.3%	12.2%	10.2%	14.3%	2.0%
	30歳代	82	54.9%	30.5%	29.3%	34.1%	11.0%	9.8%	1.2%	15.9%	9.8%	3.7%	28.0%	25.6%	3.7%	2.4%
	40歳代	112	54.5%	28.6%	35.7%	23.2%	7.1%	17.0%	1.8%	10.7%	17.9%	1.8%	27.7%	23.2%	3.6%	4.5%
	50歳代	143	46.9%	41.3%	26.6%	23.8%	9.8%	17.5%	4.9%	11.2%	10.5%	2.1%	30.8%	21.0%	7.0%	4.2%
	60歳代	191	45.5%	42.4%	31.4%	18.3%	9.9%	18.3%	4.7%	14.1%	13.6%	1.0%	31.9%	27.2%	7.9%	0.0%
	70歳代	171	32.7%	39.2%	28.1%	16.4%	12.9%	15.8%	7.6%	14.6%	18.1%	2.3%	23.4%	20.5%	5.8%	3.5%
	80歳代以上	46	39.1%	19.6%	26.1%	15.2%	19.6%	10.9%	6.5%	23.9%	17.4%	4.3%	15.2%	17.4%	10.9%	0.0%
	男性	20歳代	36	38.9%	33.3%	19.4%	25.0%	16.7%	8.3%	0.0%	16.7%	11.1%	13.9%	16.7%	13.9%	16.7%
30歳代		47	42.6%	42.6%	34.0%	36.2%	6.4%	8.5%	0.0%	17.0%	17.0%	6.4%	10.6%	12.8%	6.4%	10.6%
40歳代		79	50.6%	31.6%	32.9%	22.8%	10.1%	12.7%	2.5%	13.9%	5.1%	2.5%	20.3%	19.0%	12.7%	3.8%
50歳代		74	47.3%	36.5%	21.6%	12.2%	5.4%	13.5%	2.7%	20.3%	23.0%	5.4%	18.9%	17.6%	9.5%	4.1%
60歳代		134	46.3%	52.2%	44.8%	15.7%	10.4%	20.9%	1.5%	21.6%	17.2%	3.7%	14.9%	14.9%	6.0%	1.5%
70歳代	150	44.7%	54.7%	40.0%	10.7%	12.0%	16.0%	7.3%	15.3%	14.7%	3.3%	18.7%	14.0%	10.0%	0.7%	
80歳代以上	38	52.6%	42.1%	31.6%	10.5%	23.7%	15.8%	7.9%	10.5%	10.5%	5.3%	5.3%	5.3%	10.5%	0.0%	
<b>■本人の職業別</b>																
自営業主	135	46.7%	45.9%	34.8%	14.1%	11.1%	13.3%	3.0%	18.5%	12.6%	3.7%	21.5%	23.7%	7.4%	4.4%	
家族従事者	68	42.6%	54.4%	30.9%	14.7%	10.3%	10.3%	5.9%	13.2%	17.6%	1.5%	25.0%	16.2%	7.4%	2.9%	
正規雇用者	403	49.1%	37.2%	32.3%	25.3%	8.4%	14.9%	2.5%	15.9%	11.9%	3.2%	20.6%	19.6%	10.2%	2.2%	
非正規雇用者	248	48.0%	37.5%	32.3%	19.8%	8.1%	17.3%	3.6%	11.7%	14.9%	5.6%	27.0%	24.2%	7.3%	2.8%	
主婦・主夫	162	39.5%	43.2%	27.2%	21.0%	14.2%	17.9%	8.0%	13.6%	17.3%	1.2%	27.2%	18.5%	4.3%	1.9%	
学生	13	53.8%	23.1%	46.2%	15.4%	23.1%	7.7%	0.0%	38.5%	15.4%	0.0%	15.4%	7.7%	0.0%	0.0%	
無職	271	43.9%	38.7%	34.7%	14.0%	13.7%	15.5%	5.5%	17.7%	16.6%	3.7%	18.8%	14.8%	8.1%	1.8%	
その他	24	29.2%	33.3%	37.5%	16.7%	12.5%	16.7%	8.3%	16.7%	12.5%	8.3%	20.8%	12.5%	0.0%	12.5%	

### (3) 企画立案、決定の場に女性が少ない原因

問 11 自治会・PTAの会長など、地域の団体の代表や政治・行政・職場等の企画立案、政策決定の場に女性が少ない原因は何だと思えますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。(○はいくつでも)

企画立案・政策決定の場に女性が少ない原因としては、「社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため」(63.7%)との回答が最も多く、次いで「家事が忙しく時間がないから」(33.4%)、「地域において女性が代表となった前例が少ないため」(31.1%)、「女性を受け入れる環境づくりが出来ていないため」(30.0%)、「家庭の支援、協力が得られないから」(23.1%)が続いている。



#### 【性別】

性別にみると、「家事が忙しく時間がないから」(女性 37.1%、男性 28.6%)、「女性を受け入れる環境づくりが出来ていないため」(女性 27.2%、男性 34.3%)で男女間の差がみられる。

## 【性年代別】

性年代別にみると、女性の30歳代では「家事が忙しく時間がないから」との回答が他の年代層よりも多い。40歳代から70歳代の年齢層では「社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため」が60%を超えている。一方、男性の50歳代から80歳代以上では「社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため」が70%を超えており、80歳代以上で「女性を受け入れる環境づくりが出来ていないため」が他の年代と比べ高くなっている。

	全体	性社会 が選通 出念・ さし れるきた ためり ・慣 習から 男	家事 が忙し く時間 がない から	ら家庭 の支援 、協力 が得ら れない か	来女性 を受け 入れた る環境 づくり が出	前地域 がにお ないた ため女 性が代 表とな った	その他	わから ない	無回 答	
全体	1382	63.7%	33.4%	23.1%	30.0%	31.1%	3.7%	7.7%	1.8%	
■性年代別										
女性	20歳代	49	44.9%	42.9%	16.3%	28.6%	32.7%	6.1%	16.3%	0.0%
	30歳代	82	59.8%	51.2%	23.2%	24.4%	20.7%	4.9%	6.1%	2.4%
	40歳代	112	61.6%	33.9%	15.2%	26.8%	30.4%	7.1%	10.7%	0.9%
	50歳代	143	67.1%	39.2%	26.6%	24.5%	34.3%	2.1%	6.3%	0.7%
	60歳代	191	68.6%	37.2%	32.5%	34.0%	30.4%	3.1%	3.7%	1.0%
	70歳代	171	62.0%	30.4%	31.0%	22.2%	33.9%	1.8%	9.4%	3.5%
	80歳代以上	46	47.8%	30.4%	19.6%	30.4%	30.4%	2.2%	15.2%	4.3%
男性	20歳代	36	47.2%	36.1%	11.1%	30.6%	33.3%	5.6%	13.9%	0.0%
	30歳代	47	53.2%	29.8%	14.9%	38.3%	31.9%	10.6%	8.5%	2.1%
	40歳代	79	60.8%	24.1%	22.8%	29.1%	32.9%	1.3%	13.9%	2.5%
	50歳代	74	70.3%	35.1%	17.6%	28.4%	29.7%	6.8%	4.1%	1.4%
	60歳代	134	70.1%	29.1%	17.9%	35.1%	34.3%	2.2%	3.7%	1.5%
	70歳代	150	71.3%	24.0%	20.7%	34.7%	30.7%	4.0%	6.0%	2.0%
	80歳代以上	38	71.1%	34.2%	23.7%	52.6%	18.4%	0.0%	2.6%	5.3%

## 6. 仕事、家庭、地域活動等の両立について

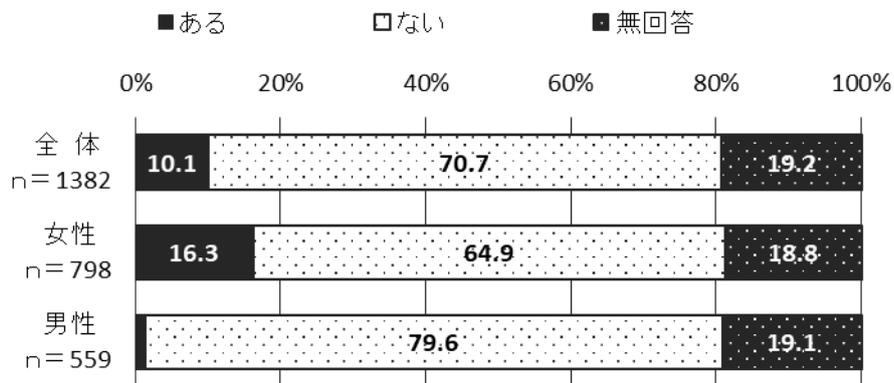
### (1) 育児休業・介護休業の取得経験

#### ① 取得経験の有無

※問 12 は、現在職業をもっている人、以前職業を持っていた人におたずねします。それ以外の方は、問 13 にお進みください。

問 12-① 男女が働きやすい職場をつくるため、「育児休業」や「介護休業」という制度があります。あなたは、育児休業や介護休業を取得したことがありますか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。

育児休業や介護休業の取得についてみると、全体では取得経験が「ない」が 70.7%を占め、「ある」は 10.1%にとどまっている。



#### 【性別】

性別にみると、いずれも「ない」の割合が高いが、女性では取得経験が「ある」が 16.3%であるのに対し男性では 1.3%と取得割合が低くなっている。

#### 【性年代別】

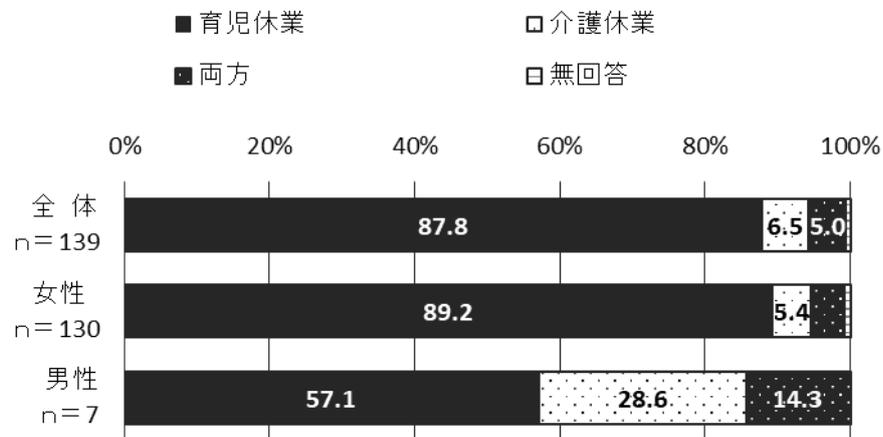
性年代別にみると、いずれも「ない」との回答が多いが、女性の 30 歳代、40 歳代では、他の年齢層に比べ「ある」の割合が高くなっている。

		全体	ある	ない	無回答
全体		1382	10.1%	70.7%	19.2%
■ 性年代別					
女性	20歳代	49	12.2%	79.6%	8.2%
	30歳代	82	37.8%	57.3%	4.9%
	40歳代	112	32.1%	64.3%	3.6%
	50歳代	143	17.5%	77.6%	4.9%
	60歳代	191	8.4%	71.2%	20.4%
	70歳代	171	8.2%	54.4%	37.4%
	80歳代以上	46	4.3%	37.0%	58.7%
男性	20歳代	36	0.0%	69.4%	30.6%
	30歳代	47	4.3%	87.2%	8.5%
	40歳代	79	2.5%	91.1%	6.3%
	50歳代	74	1.4%	94.6%	4.1%
	60歳代	134	0.7%	82.8%	16.4%
	70歳代	150	0.7%	66.0%	33.3%
	80歳代以上	38	0.0%	71.1%	28.9%

※問 12 で、「1. ある」と答えた方におたずねします。

問 12-② どの制度を取られましたか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

育児休業や介護休業を取得した 139 人の内訳をみると、全体の 87.8%を「育児休業」が占め、「介護休業」は 6.5%、「両方」は 5.0%となっている。



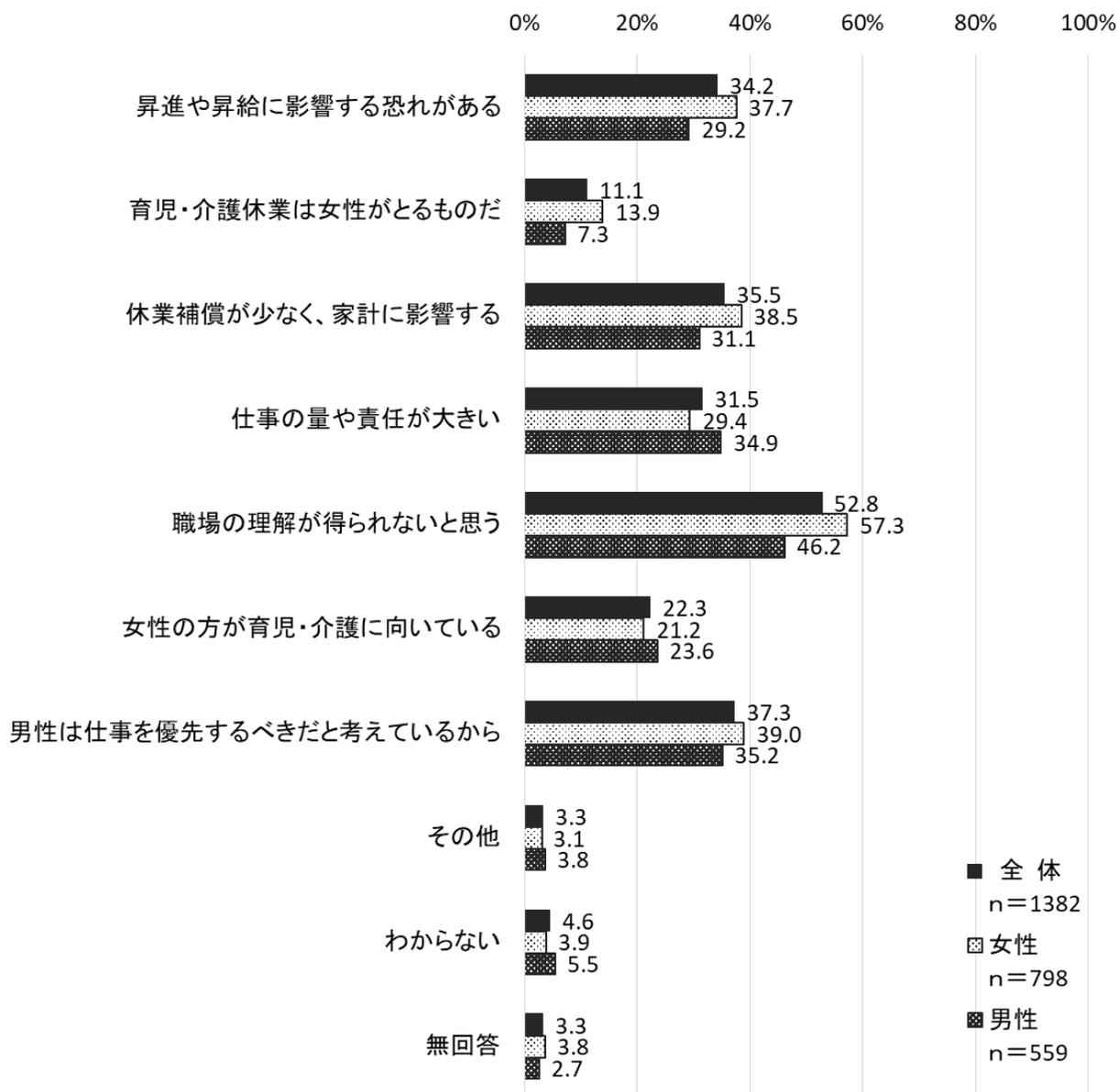
#### 【性別】

性別にみた場合、139 人の取得者のうち 130 人が女性であり、ほぼ全体の傾向に近くなっている。男性では、「育児休業」4 人、「介護休業」2 人、「両方」1 人の取得となっている。

## (2) 育児休業や介護休業をとる男性が少ない理由

問 13 育児休業や介護休業をとる男性が少ない理由は、何だと思えますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。(○はいくつでも)

育児休業や介護休業をとる男性が少ない理由としては、「職場の理解が得られないと思う」(52.8%)との回答が最も多く、次いで「男性は仕事を優先するべきだと考えているから」(37.3%)、「休業補償が少なく、家計に影響する」(35.5%)、「昇進や昇給に影響する恐れがある」(34.2%)、「仕事の量や責任が大きい」(31.5%)、「女性の方が育児・介護に向いている」(22.3%)が続いている。



### 【性別】

性別にみると、「仕事の量や責任が大きい」(女性 29.4%、男性 34.9%)、「女性の方が育児・介護に向いている」(女性 21.2%、男性 23.6%)を除き、いずれの回答でも女性の割合が男性を上回っている。

## 【性年代別】

性年代別にみると、女性の30歳代では「昇進や昇給に影響する恐れがある」との回答が他の年代層よりも多い。20歳代から60歳代では、「職場の理解が得られないと思う」も多い。70歳代から80歳以上の年齢層では「女性の方が育児・介護に向いている」も比較的多くなっている。一方、男性の20歳代から70歳代では「仕事の量や責任が大きい」、60歳代から80歳以上では「女性の方が育児・介護に向いている」が他の年代と比べ高くなっている。

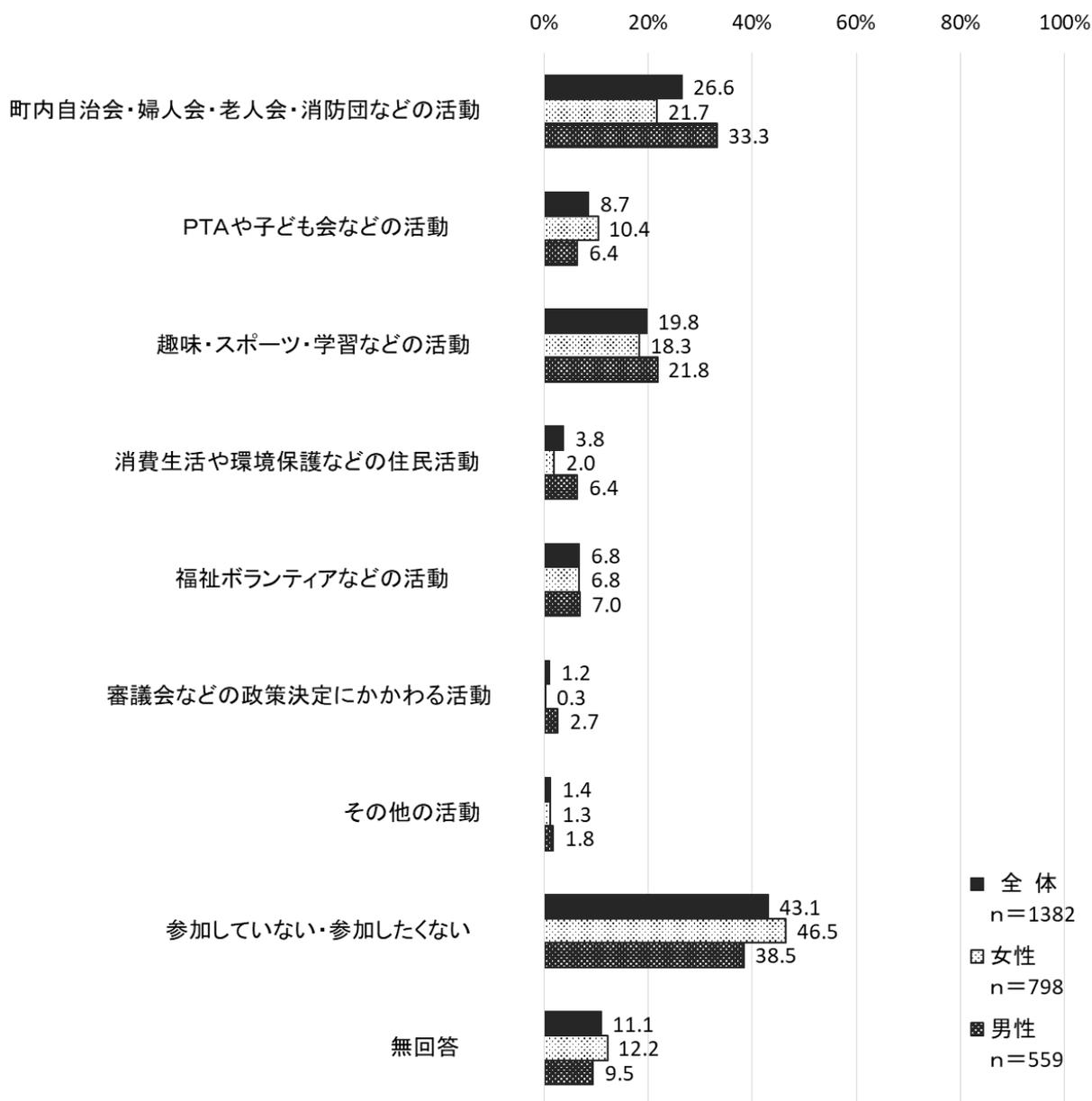
	全体	昇進や昇給に影響する恐れがある	育児・介護休業は女性にとるもの	休業補償が少なく、家計に影響する	仕事の量や責任が大きい	職場の理解が得られないと思う	女性の方が育児・介護に向いている	男性は仕事を優先するべきだと考えているから	その他	わからない	無回答	
全体	1382	34.2%	11.1%	35.5%	31.5%	52.8%	22.3%	37.3%	3.3%	4.6%	3.3%	
■性年代別												
女性	20歳代	49	49.0%	18.4%	36.7%	28.6%	67.3%	10.2%	32.7%	4.1%	6.1%	6.1%
	30歳代	82	51.2%	9.8%	45.1%	36.6%	72.0%	9.8%	40.2%	4.9%	1.2%	3.7%
	40歳代	112	43.8%	12.5%	39.3%	32.1%	62.5%	17.9%	35.7%	3.6%	5.4%	0.9%
	50歳代	143	36.4%	12.6%	38.5%	35.0%	56.6%	18.9%	37.1%	6.3%	2.8%	3.5%
	60歳代	191	35.6%	14.1%	46.1%	30.4%	61.8%	23.0%	40.3%	2.1%	1.6%	2.1%
	70歳代	171	29.2%	17.0%	32.2%	24.0%	43.9%	29.2%	43.3%	1.2%	5.3%	4.1%
	80歳代以上	46	30.4%	10.9%	19.6%	10.9%	37.0%	32.6%	34.8%	0.0%	10.9%	15.2%
男性	20歳代	36	38.9%	5.6%	36.1%	36.1%	41.7%	16.7%	25.0%	8.3%	11.1%	0.0%
	30歳代	47	40.4%	6.4%	36.2%	29.8%	53.2%	12.8%	23.4%	10.6%	4.3%	2.1%
	40歳代	79	30.4%	8.9%	40.5%	45.6%	54.4%	16.5%	29.1%	3.8%	7.6%	2.5%
	50歳代	74	27.0%	6.8%	33.8%	36.5%	44.6%	18.9%	37.8%	5.4%	1.4%	0.0%
	60歳代	134	27.6%	6.7%	29.1%	35.8%	52.2%	21.6%	35.1%	0.7%	4.5%	1.5%
	70歳代	150	28.0%	8.7%	27.3%	34.0%	41.3%	36.0%	42.0%	2.0%	4.7%	4.7%
	80歳代以上	38	18.4%	5.3%	18.4%	15.8%	23.7%	26.3%	42.1%	5.3%	13.2%	7.9%

### (3)地域活動への参加状況・参加意向

問 14 あなたは現在、地域でどのような活動に参加していますか。また、今後参加してみたい活動は何ですか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。(○はいくつでも)

#### ①現在の参加状況

現在参加している活動を見ると、「参加していない」(43.1%)を除いて「町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動」(26.6%)が最も多く、次いで「趣味・スポーツ・学習などの活動」(19.8%)、「PTAや子ども会などの活動」(8.7%)、「福祉ボランティアなどの活動」(6.8%)が続いている。



#### 【性別】

性別にみると、「町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動」(女性 21.7%、男性 33.3%)、「参加していない、参加したくない」(女性 46.5%、男性 38.5%)で男女間の差がみられる。

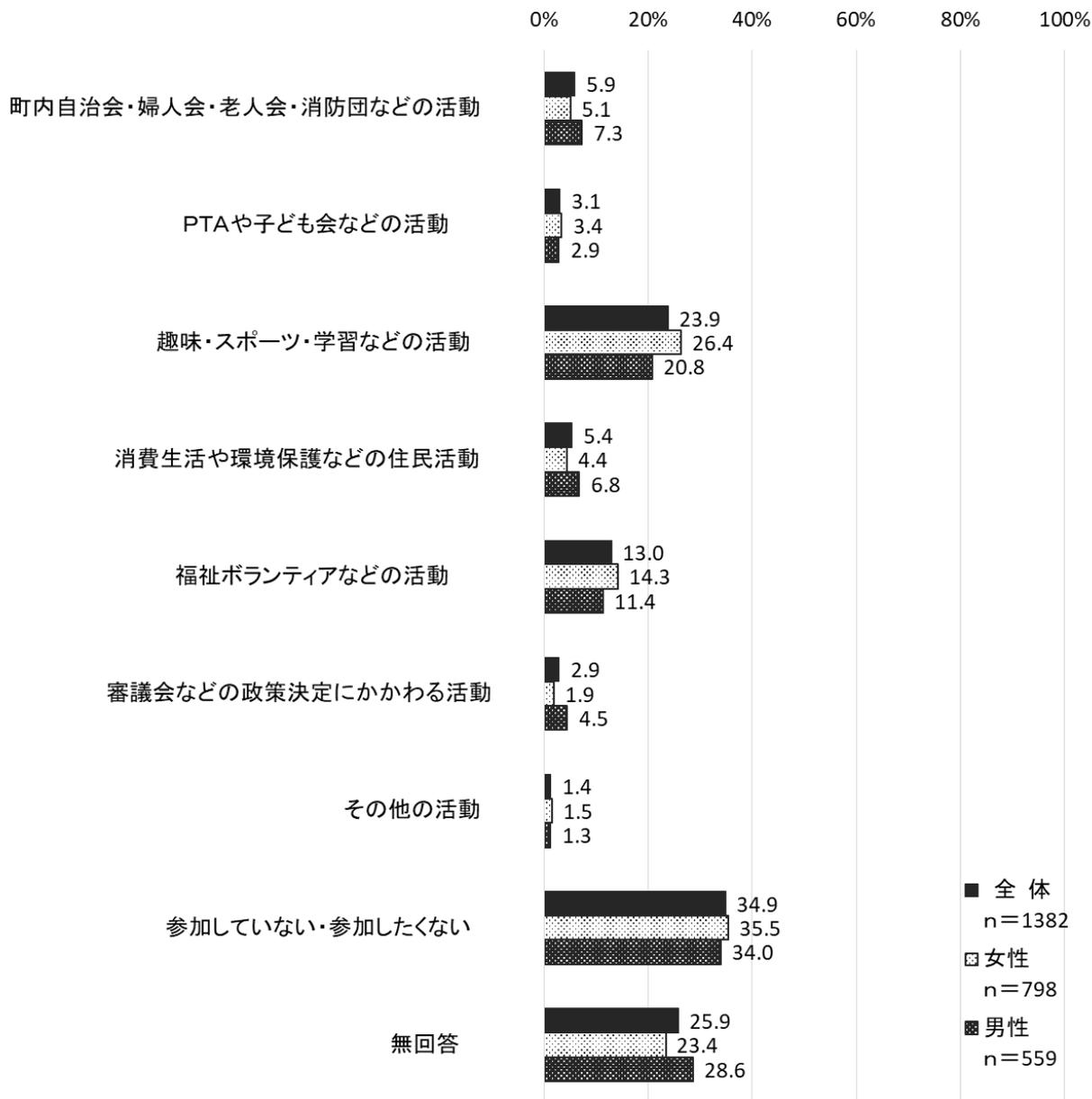
## 【性年代別】

性年代別にみると、女性の30歳代から40歳代では「PTAや子ども会などの活動」との回答が他の年代層よりも多い。60歳代から80歳代では、「趣味・スポーツ・学習などの活動」「町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動」も多い。70歳代では「福祉ボランティアなどの活動」も比較的多くなっている。一方、男性の20歳代、70歳代、80歳代では「趣味・スポーツ・学習などの活動」、60歳代から80歳以上では「町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動」が他の年代と比べ高くなっている。

	全体	町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動	PTAや子ども会などの活動	趣味・スポーツ・学習などの活動	消費生活や環境保護などの住民活動	福祉ボランティアなどの活動	審議会などの政策決定にかかわる活動	その他の活動	参加していない・参加したくない	無回答	
全体	1382	26.6%	8.7%	19.8%	3.8%	6.8%	1.2%	1.4%	43.1%	11.1%	
■性年代別											
女性	20歳代	49	0.0%	8.2%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	81.6%	8.2%	
	30歳代	82	9.8%	28.0%	13.4%	2.4%	2.4%	0.0%	50.0%	9.8%	
	40歳代	112	13.4%	37.5%	16.1%	1.8%	0.0%	0.0%	42.9%	5.4%	
	50歳代	143	18.2%	5.6%	8.4%	1.4%	2.1%	0.0%	55.2%	12.6%	
	60歳代	191	26.7%	1.6%	23.6%	3.1%	9.4%	0.0%	44.5%	12.0%	
	70歳代	171	33.9%	0.6%	27.5%	2.3%	16.4%	1.2%	0.0%	36.3%	15.8%
	80歳代以上	46	30.4%	0.0%	23.9%	0.0%	6.5%	0.0%	2.2%	30.4%	23.9%
男性	20歳代	36	13.9%	5.6%	25.0%	2.8%	11.1%	0.0%	0.0%	55.6%	5.6%
	30歳代	47	25.5%	14.9%	17.0%	4.3%	2.1%	0.0%	2.1%	38.3%	8.5%
	40歳代	79	27.8%	21.5%	22.8%	5.1%	1.3%	1.3%	1.3%	49.4%	7.6%
	50歳代	74	27.0%	4.1%	20.3%	2.7%	4.1%	5.4%	1.4%	45.9%	6.8%
	60歳代	134	40.3%	2.2%	16.4%	11.9%	9.7%	6.0%	3.0%	32.8%	10.4%
	70歳代	150	35.3%	2.7%	26.7%	6.7%	9.3%	0.7%	2.0%	36.0%	9.3%
	80歳代以上	38	52.6%	0.0%	26.3%	2.6%	7.9%	2.6%	0.0%	15.8%	18.4%

## ②今後の参加意向

今後参加したい活動では、「参加したくない」(34.9%)を除いて「趣味・スポーツ・学習などの活動」(23.9%)が最も多く、次いで「福祉ボランティアなどの活動」(13.0%)が続いている。



## 【性別】

性別にみると、今後の参加意向として「趣味・スポーツ・学習などの活動」の割合は全体的に高くなっているが、特に女性の割合が高い傾向にある。

## 【性年代別】

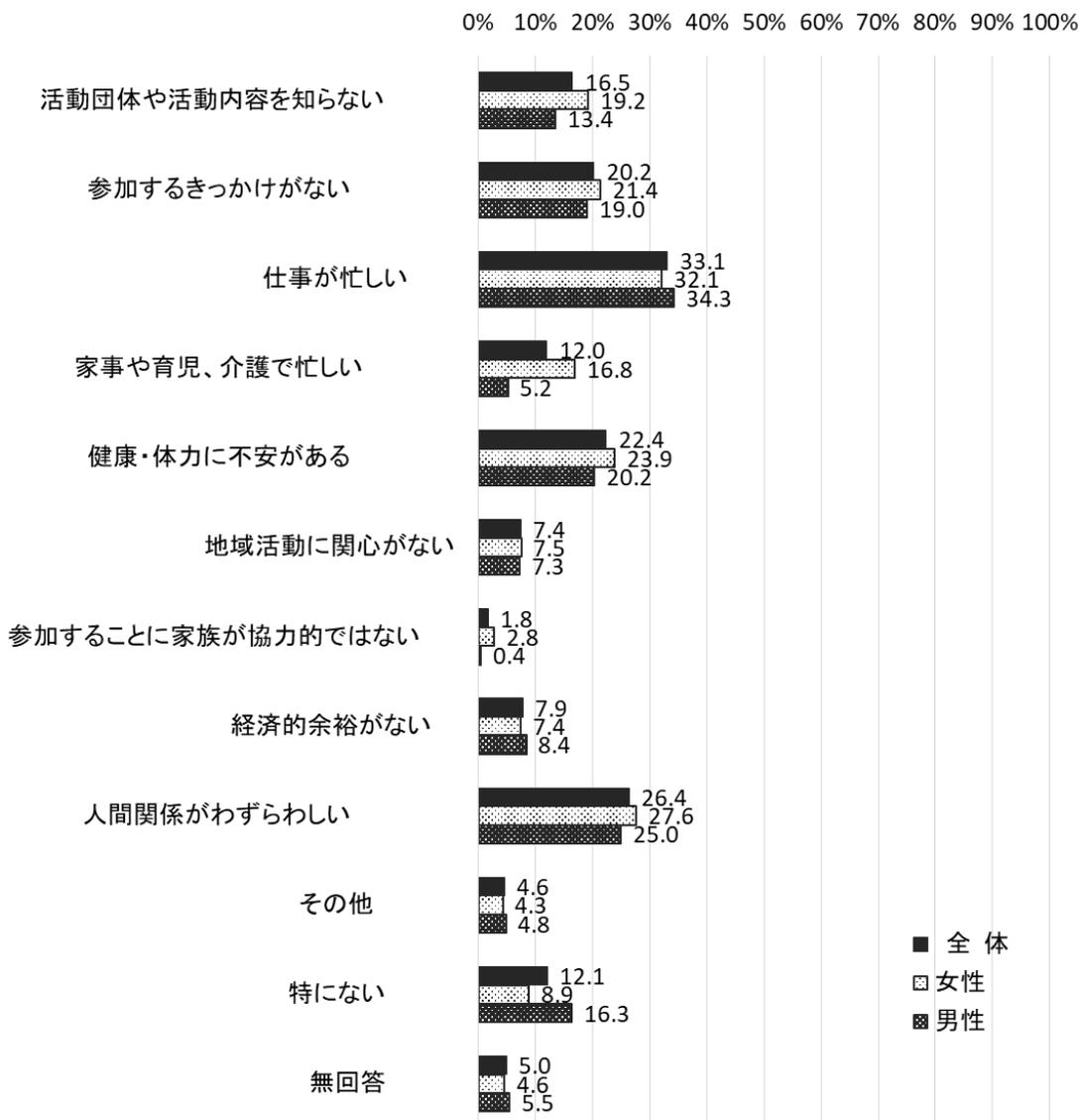
性年代別にみると、女性の20歳代と50歳代、60歳代では「趣味・スポーツ・学習などの活動」との回答が他の年代層よりも多い。50歳代と60歳代では「福祉ボランティアなどの活動」も多い。一方、男性の30歳代から40歳代では「PTAや子ども会などの活動」が、60歳代では「消費生活や環境保護などの住民活動」が他の年代と比べ高くなっている。

	全体	町内自治会・婦人会・老人会・消防などの活動	PTAや子ども会などの活動	趣味・スポーツ・学習などの活動	消費生活や環境保護などの住民活動	福祉ボランティアなどの活動	動 審議会などの政策決定にかかわる活動	その他の活動	参加していない・参加したくない	無回答	
全体	1382	5.9%	3.1%	23.9%	5.4%	13.0%	2.9%	1.4%	34.9%	25.9%	
■性年代別											
女性	20歳代	49	8.2%	4.1%	40.8%	2.0%	10.2%	4.1%	2.0%	51.0%	6.1%
	30歳代	82	1.2%	13.4%	25.6%	4.9%	8.5%	0.0%	1.2%	43.9%	17.1%
	40歳代	112	0.9%	10.7%	25.0%	5.4%	16.1%	1.8%	0.9%	38.4%	18.8%
	50歳代	143	4.2%	0.0%	35.0%	7.0%	18.9%	2.1%	2.1%	35.7%	13.3%
	60歳代	191	4.7%	0.5%	31.9%	4.7%	18.3%	3.1%	2.1%	29.3%	21.5%
	70歳代	171	9.9%	0.0%	16.4%	2.9%	12.3%	1.2%	0.6%	32.7%	36.8%
	80歳代以上	46	4.3%	0.0%	4.3%	0.0%	2.2%	0.0%	2.2%	32.6%	54.3%
男性	20歳代	36	2.8%	2.8%	22.2%	2.8%	11.1%	5.6%	0.0%	44.4%	19.4%
	30歳代	47	6.4%	10.6%	17.0%	4.3%	14.9%	10.6%	2.1%	36.2%	27.7%
	40歳代	79	5.1%	8.9%	22.8%	3.8%	6.3%	2.5%	0.0%	48.1%	24.1%
	50歳代	74	10.8%	2.7%	21.6%	8.1%	18.9%	5.4%	1.4%	33.8%	18.9%
	60歳代	134	9.7%	0.7%	18.7%	11.9%	14.9%	5.2%	1.5%	29.9%	27.6%
	70歳代	150	7.3%	0.0%	21.3%	6.0%	8.0%	3.3%	2.0%	30.7%	32.7%
	80歳代以上	38	2.6%	0.0%	23.7%	2.6%	5.3%	0.0%	0.0%	21.1%	52.6%

#### (4)地域活動へ参加する際に支障となること、または参加しない理由

問 15 あなたが地域活動へ参加する際に支障となること、または参加しない理由は何ですか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。(○はいくつでも)

地域活動に参加する際に支障となること、または参加しない理由では「仕事が忙しい」(33.1%)が最も多く、次いで「人間関係がわずらわしい」(26.4%)、「健康・体力に不安がある」(22.4%)、「参加するきっかけがない」(20.2%)、「活動団体や活動内容を知らない」(16.5%)が続いている。



#### 【性別】

性別にみると、「家事や育児、介護で忙しい」(女性 16.8%、男性 5.2%)、「活動団体や活動内容を知らない」(女性 19.2%、男性 13.4%)で女性の割合が高くなっている。

## 【性年代別】

性年代別にみると、女性の20歳代では「地域活動に関心がない」との回答が他の年代層よりも多い。30歳代から50歳代では「仕事が忙しい」、50歳代から80歳以上では「健康・体力に不安がある」がそれぞれ多くなっている。一方、男性の20歳代から60歳代では「仕事が忙しい」、70歳代と80歳以上では「健康・体力に不安がある」が他の年代と比べ高くなっている。

	全体	活動団体や活動内容を知らない	参加するきっかけがない	仕事が忙しい	家事や育児、介護で忙しい	健康・体力に不安がある	地域活動に関心がない	参加することに家族が協力的ではない	経済的余裕がない	人間関係がわずらわしい	その他	特にない	無回答	
全体	1382	16.5%	20.2%	33.1%	12.0%	22.4%	7.4%	1.8%	7.9%	26.4%	4.6%	12.1%	5.0%	
■性年代別														
女性	20歳代	49	42.9%	46.9%	36.7%	18.4%	6.1%	24.5%	2.0%	16.3%	36.7%	2.0%	6.1%	0.0%
	30歳代	82	32.9%	28.0%	48.8%	43.9%	7.3%	9.8%	1.2%	7.3%	31.7%	9.8%	4.9%	2.4%
	40歳代	112	27.7%	21.4%	42.0%	33.0%	9.8%	6.3%	5.4%	8.9%	34.8%	5.4%	3.6%	0.0%
	50歳代	143	16.1%	18.2%	49.7%	16.8%	24.5%	9.1%	2.8%	6.3%	27.3%	2.1%	5.6%	1.4%
	60歳代	191	19.4%	25.7%	27.2%	9.9%	25.1%	5.8%	3.1%	9.9%	25.1%	2.6%	11.0%	5.2%
	70歳代	171	7.0%	13.5%	14.6%	3.5%	38.0%	2.9%	2.3%	2.9%	24.0%	4.7%	14.0%	10.5%
	80歳代以上	46	4.3%	6.5%	2.2%	0.0%	47.8%	8.7%	0.0%	4.3%	19.6%	6.5%	15.2%	10.9%
男性	20歳代	36	30.6%	30.6%	36.1%	2.8%	5.6%	22.2%	0.0%	8.3%	25.0%	13.9%	19.4%	0.0%
	30歳代	47	21.3%	21.3%	59.6%	12.8%	6.4%	10.6%	0.0%	14.9%	29.8%	8.5%	2.1%	4.3%
	40歳代	79	17.7%	21.5%	58.2%	8.9%	3.8%	10.1%	0.0%	11.4%	35.4%	3.8%	12.7%	7.6%
	50歳代	74	12.2%	25.7%	45.9%	4.1%	12.2%	9.5%	0.0%	17.6%	21.6%	2.7%	16.2%	1.4%
	60歳代	134	10.4%	20.1%	31.3%	2.2%	20.1%	5.2%	0.0%	6.7%	25.4%	2.2%	16.4%	6.0%
	70歳代	150	11.3%	13.3%	16.7%	6.0%	37.3%	4.0%	1.3%	3.3%	22.0%	5.3%	19.3%	3.3%
	80歳代以上	38	0.0%	5.3%	10.5%	0.0%	34.2%	0.0%	0.0%	2.6%	15.8%	5.3%	23.7%	23.7%

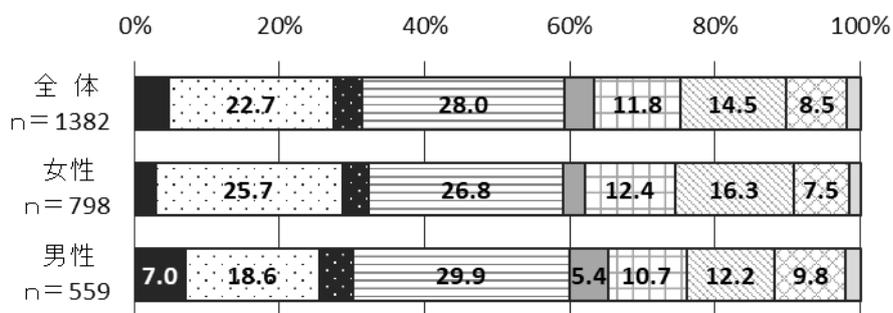
## (5)仕事、家庭生活、地域・個人生活の両立に関する希望と実態

### ①希望

問 16-① あなたが生活を送るうえで、希望に最も近いものを選んで○を付けてください。(○は1つだけ)

全体では、「仕事と家庭生活をともに優先したい」(28.0%)が最も多く、次いで「家庭生活を優先したい」(22.7%)、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」(14.5%)、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」(11.8%)が続いている。

- 「仕事」を優先したい
- 「家庭生活」を優先したい
- 「地域・個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- わからない
- 無回答



### 【性別】

性別にみると、「仕事を優先したい」(女性 2.9%、男性 7.0%)、「家庭生活を優先したい」(女性 25.7%、男性 18.6%)でやや差がみられる。

### 【性年代別】

性年代別にみると、男女とも 40 歳代から 50 歳代では「仕事と家庭生活をともに優先したい」との回答が他の年代層よりも多い。女性の 60 歳代と 80 歳代は「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」、男性の 30 歳代と 70 歳代以上は「家庭生活を優先したい」が他の年代と比べ高くなっている。

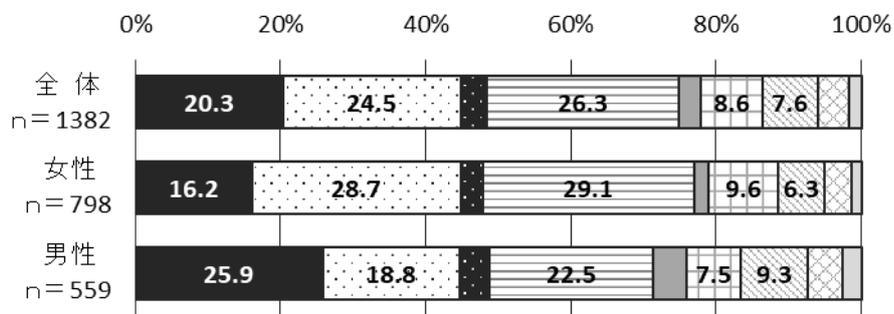
	全体	「仕事」を優先したい	「家庭生活」を優先したい	「地域・個人の生活」を優先したい	「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	わからない	無回答	
全体	1382	4.7%	22.7%	3.9%	28.0%	4.1%	11.8%	14.5%	8.5%	1.8%	
■性年代別											
女性	20歳代	49	2.0%	20.4%	8.2%	32.7%	2.0%	14.3%	12.2%	8.2%	0.0%
	30歳代	82	2.4%	39.0%	0.0%	26.8%	1.2%	4.9%	20.7%	3.7%	1.2%
	40歳代	112	1.8%	25.0%	0.9%	43.8%	3.6%	4.5%	17.9%	2.7%	0.0%
	50歳代	143	3.5%	17.5%	2.1%	43.4%	2.8%	4.9%	23.8%	1.4%	0.7%
	60歳代	191	2.6%	28.8%	2.6%	20.4%	3.1%	17.8%	15.7%	7.3%	1.6%
	70歳代	171	4.1%	26.3%	7.0%	14.0%	4.7%	17.5%	9.9%	12.9%	3.5%
	80歳代以上	46	0.0%	21.7%	8.7%	2.2%	2.2%	23.9%	10.9%	26.1%	4.3%
男性	20歳代	36	8.3%	5.6%	11.1%	38.9%	8.3%	13.9%	11.1%	2.8%	0.0%
	30歳代	47	12.8%	23.4%	2.1%	34.0%	0.0%	2.1%	14.9%	6.4%	4.3%
	40歳代	79	11.4%	10.1%	2.5%	40.5%	8.9%	3.8%	12.7%	7.6%	2.5%
	50歳代	74	8.1%	12.2%	1.4%	44.6%	6.8%	2.7%	14.9%	9.5%	0.0%
	60歳代	134	4.5%	20.9%	3.0%	35.8%	5.2%	9.0%	11.9%	8.2%	1.5%
	70歳代	150	5.3%	24.0%	6.7%	14.7%	4.0%	20.0%	10.7%	14.0%	0.7%
	80歳代以上	38	2.6%	23.7%	7.9%	5.3%	5.3%	18.4%	10.5%	15.8%	10.5%

## ②現実(現状)

問 16-② あなたの生活で、現実(現状)に最も近い番号を選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

全体では、「仕事と家庭生活をともに優先している」(26.3%)が最も多く、次いで「家庭生活を優先している」(24.5%)、「仕事を優先している」(20.3%)が続いている。

- 「仕事」を優先している
- 「家庭生活」を優先している
- 「地域・個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- わからない
- 無回答



### 【性別】

性別にみると、「仕事を優先している」(女性 16.2%、男性 25.9%)と「家庭生活を優先している」(女性 28.7%、男性 18.8%)で男女間の差がみられる。

### 【性年代別】

性年代別にみると、女性の 30 歳代から 50 歳代までは「仕事と家庭生活をともに優先している」との回答が他の年代層よりも多い。60 歳代から 80 歳代以上では「家庭生活を優先している」が多くなっている。一方、男性の 20 歳代から 50 歳代では「仕事を優先している」、30 歳代から 60 歳代では「仕事と家庭生活をともに優先している」が他の年代と比べ高くなっている。

		全体	「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	わからない	無回答
全体		1382	20.3%	24.5%	3.7%	26.3%	8.6%	7.6%	9.3%	7.6%	8.6%
■性年代別											
女性	20歳代	49	30.6%	20.4%	2.0%	26.5%	6.1%	2.0%	2.0%	10.2%	0.0%
	30歳代	82	20.7%	31.7%	1.2%	35.4%	1.2%	1.2%	4.9%	2.4%	1.2%
	40歳代	112	20.5%	20.5%	0.0%	45.5%	0.9%	2.7%	8.9%	0.9%	0.0%
	50歳代	143	30.1%	16.8%	0.0%	44.8%	0.7%	0.0%	5.6%	2.1%	0.0%
	60歳代	191	10.5%	34.0%	3.1%	26.7%	2.1%	14.1%	7.3%	1.6%	0.5%
	70歳代	171	5.8%	36.8%	7.6%	12.9%	3.5%	19.9%	4.7%	5.3%	3.5%
	80歳代以上	46	0.0%	37.0%	8.7%	2.2%	0.0%	21.7%	10.9%	15.2%	4.3%
男性	20歳代	36	36.1%	11.1%	8.3%	19.4%	5.6%	5.6%	5.6%	2.8%	5.6%
	30歳代	47	44.7%	6.4%	2.1%	27.7%	2.1%	0.0%	8.5%	6.4%	2.1%
	40歳代	79	44.3%	6.3%	1.3%	24.1%	8.9%	1.3%	8.9%	2.5%	2.5%
	50歳代	74	37.8%	10.8%	0.0%	29.7%	4.1%	1.4%	12.2%	4.1%	0.0%
	60歳代	134	21.6%	21.6%	2.2%	32.1%	3.0%	6.7%	7.5%	2.2%	3.0%
	70歳代	150	10.7%	31.3%	6.7%	14.0%	3.3%	14.0%	11.3%	6.7%	2.0%
	80歳代以上	38	7.9%	23.7%	10.5%	2.6%	7.9%	21.1%	7.9%	13.2%	5.3%

**【国・県調査との比較】**

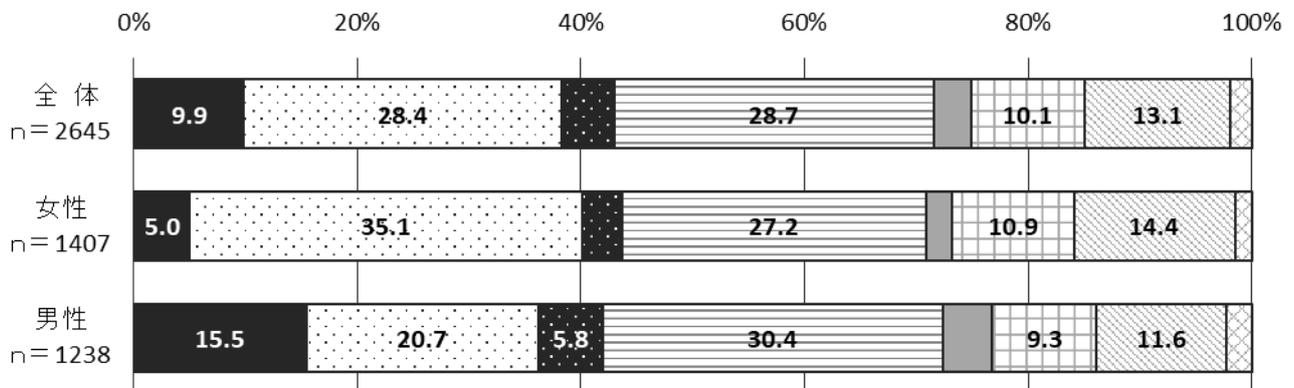
**○内閣府男女共同参画に関する世論調査(令和元年度)**

本市の結果と同じく、理想では仕事と家庭の両立に対する希望が多いものの、女性では家庭生活を優先したい割合が本市より高い。現実には、特に男性で本市より仕事を優先している割合が高い。

全体として、全国では「仕事」と「家庭生活」それぞれを優先している割合が高いが、本市では「仕事」と「家庭生活」をともに優先している実態がうかがえる。

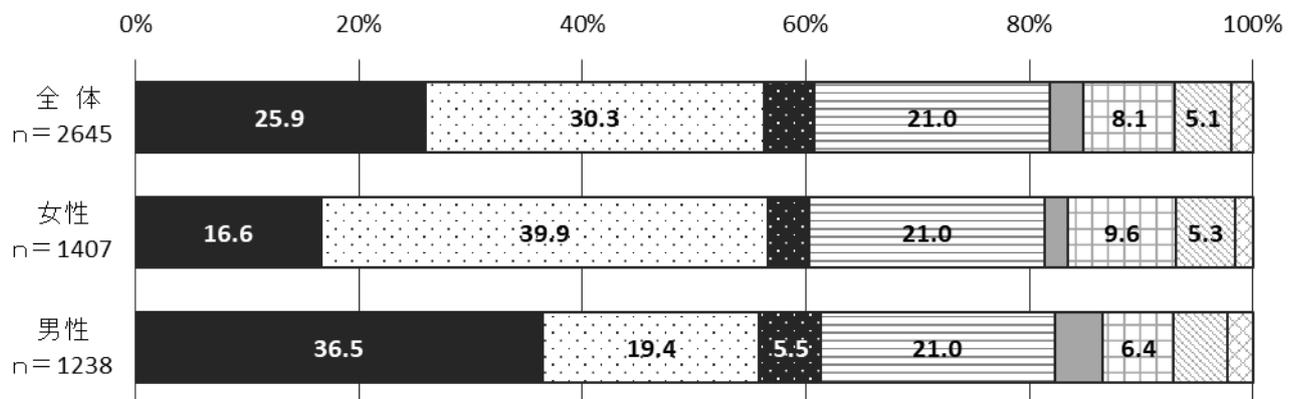
**(希望)**

- 「仕事」を優先したい
- 「家庭生活」を優先したい
- 「地域・個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 「家庭生活」と「個人生活」をともに優先したい
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「家庭」と「個人生活」をともに優先したい
- わからない



**(現実)**

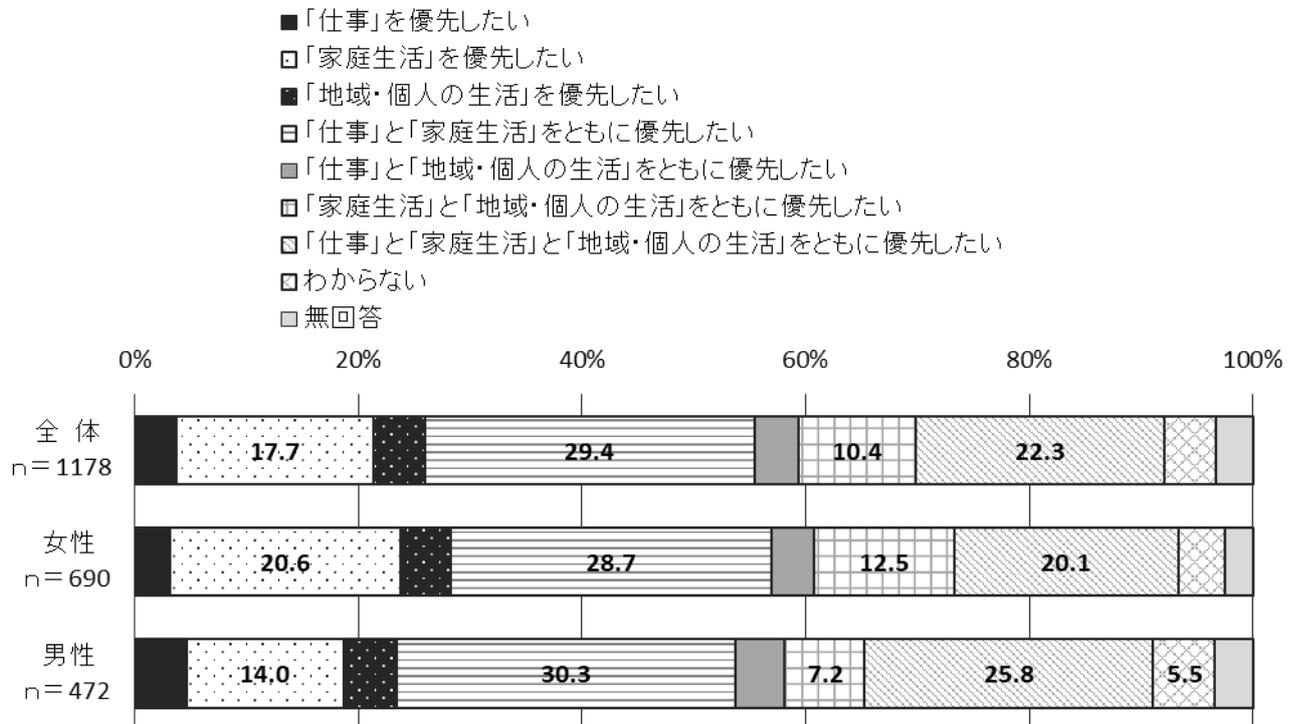
- 「仕事」を優先している
- 「家庭生活」を優先している
- 「地域・個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- わからない



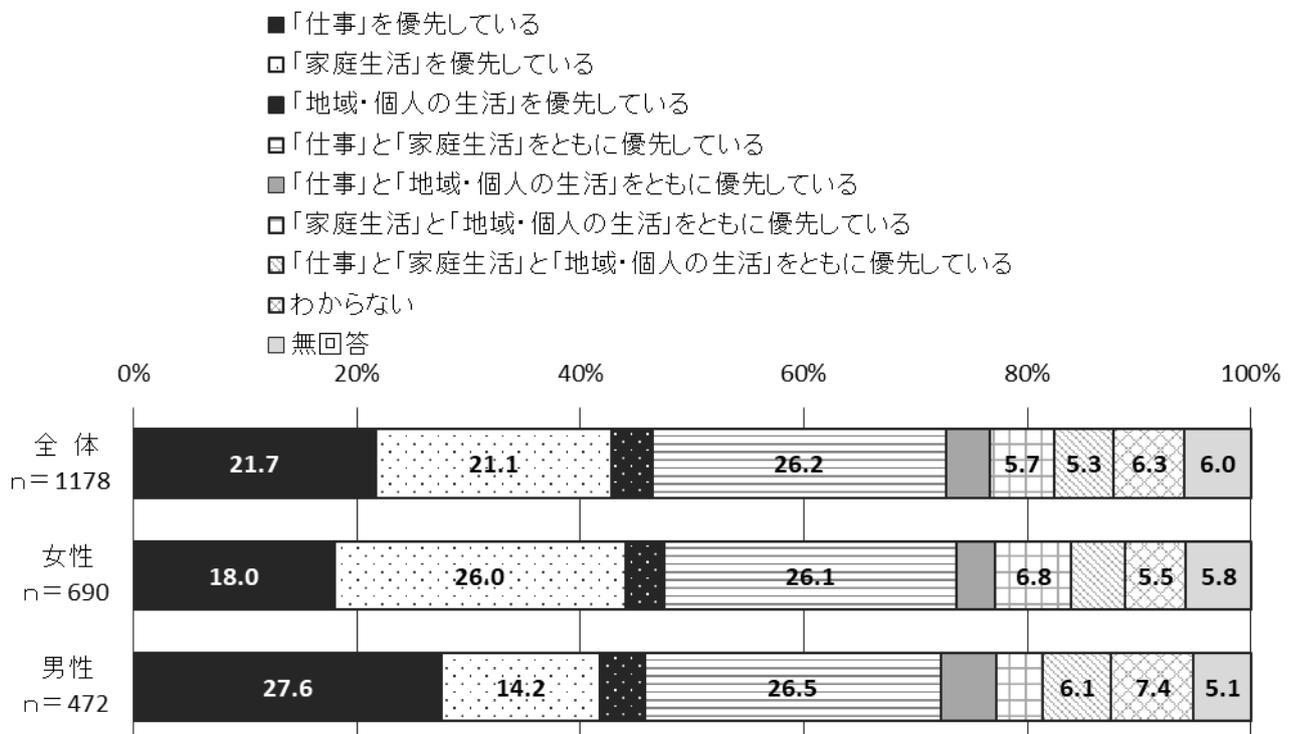
○令和元年度 男女共同参画に関する県民意識調査(熊本県)

本市の結果と同じく、理想では仕事と家庭の両立に対する希望が多いものの、現実には、特に男性で仕事を優先している実態がうかがえる。

(希望)



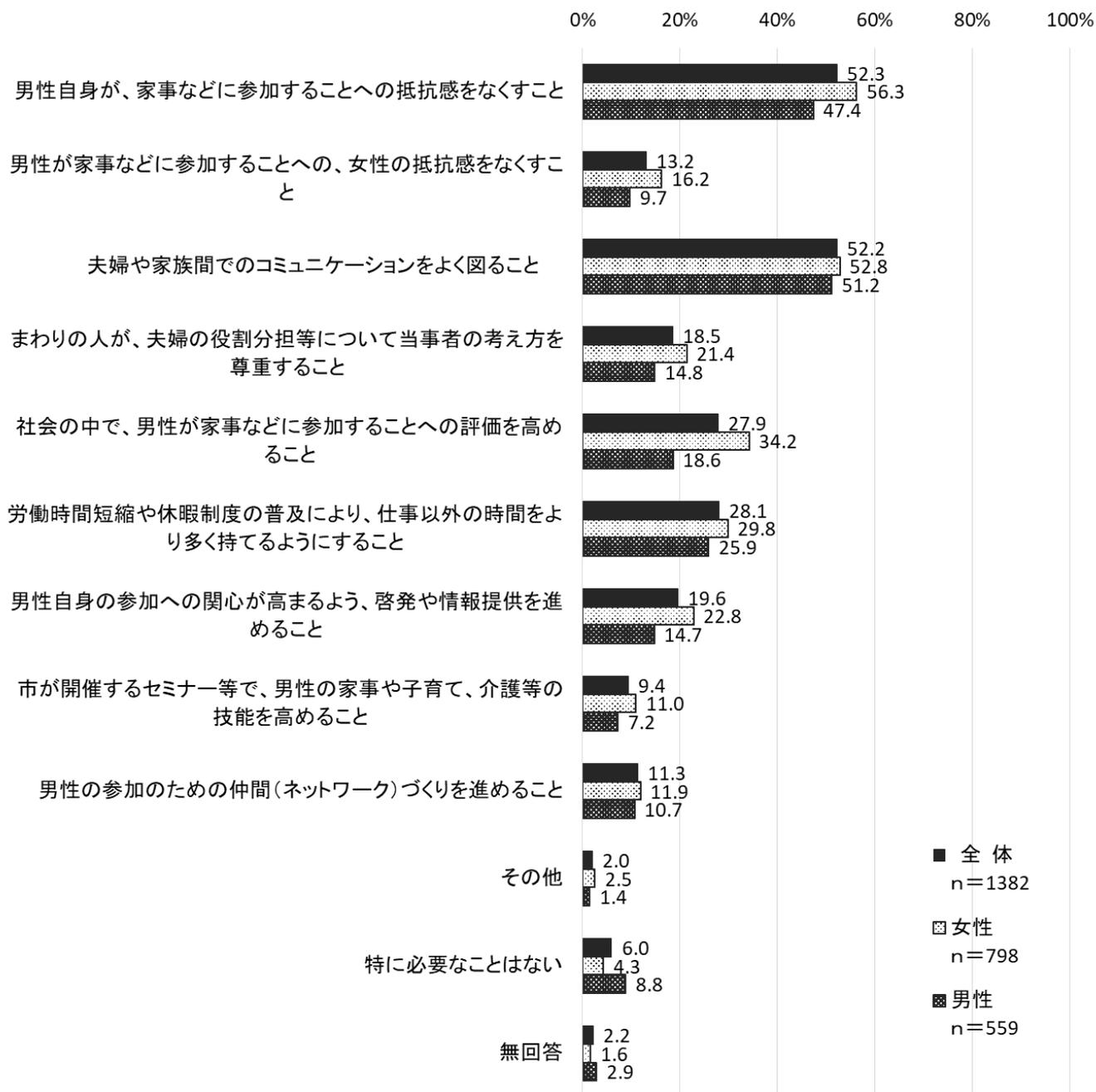
(現実)



## (6)男性が女性と共に家事、子育て、介護、地域活動に参加していくために必要なこと

問 17 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。(○はいくつでも)

全体では「男性自身が、家事などに参加することへの抵抗感をなくすこと」(52.3%)との回答が最も多く、次いで「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」(52.2%)が続いており、いずれも半数以上の回答を得ている。以下、「労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」(28.1%)、「社会の中で、男性が家事などに参加することへの評価を高めること」(27.9%)、「男性自身が参加への関心を高めるよう、啓発や情報提供を進めること」(19.6%)、「まわりの人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること」(18.5%)が続いている。



## 【性別】

性別にみると、全体的に男性に比べ女性の回答割合が高くなっている。また、「男性自身が家事などに参加することへの抵抗感をなくすこと」(女性 56.3%、男性 47.4%)、「社会の中で、男性が家事などに参加することへの評価を高めること」(女性 34.2%、男性 18.6%)、「男性自身の参加への関心が高まるよう、啓発や情報提供を進めること」(女性 22.8%、男性 14.7%)、「まわりの人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること」(女性 21.4%、男性 14.8%)などでは男女間の差が大きくなっている。

## 【性年代別】

性年代別にみると、女性の20歳代から30歳代までは「まわりの人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること」「労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」との回答が他の年代層よりも多い。20歳代と60歳代から80歳代では「男性自身が参加への関心が高まるよう、啓発や情報提供を進めること」が多くなっている。一方、男性の20歳代から40歳代では「労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が他の年代と比べ高くなっている。

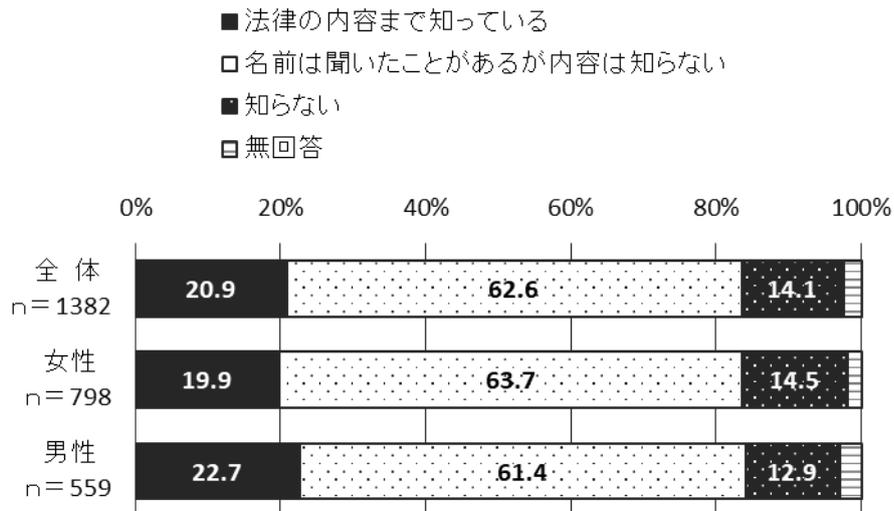
	全体	の男性抵抗感をなくすこと	男性が家事などに参加することへの、女性の抵抗感をなくすこと	よく回ることや家族間でのコミュニケーションを	まわりの人が、夫婦の役割分担等について	社会の中で、男性が家事などに参加することへの評価を高めること	労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	啓発や情報提供を進めること	男性自身の参加への関心が高まるよう、	市が開催するセミナー等で、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること	男性の参加のための仲間（ネットワーク）づくりを進めること	その他	特に必要なことはない	無回答
全体	1382	52.3%	13.2%	52.2%	18.5%	27.9%	28.1%	19.6%	9.4%	11.3%	2.0%	6.0%	2.2%	
■性年代別														
女性	20歳代	49	51.0%	14.3%	49.0%	30.6%	30.6%	49.0%	14.3%	0.0%	10.2%	8.2%	4.1%	0.0%
	30歳代	82	62.2%	20.7%	59.8%	31.7%	42.7%	48.8%	18.3%	8.5%	9.8%	4.9%	1.2%	0.0%
	40歳代	112	54.5%	15.2%	46.4%	22.3%	37.5%	38.4%	19.6%	8.0%	9.8%	3.6%	2.7%	0.0%
	50歳代	143	58.0%	21.0%	41.3%	22.4%	41.3%	35.7%	17.5%	9.1%	13.3%	4.2%	2.1%	1.4%
	60歳代	191	61.8%	13.6%	61.3%	19.9%	33.5%	20.4%	28.8%	11.0%	13.6%	1.0%	2.1%	0.5%
	70歳代	171	52.6%	13.5%	53.2%	15.8%	26.3%	16.4%	28.1%	15.8%	10.5%	0.0%	8.2%	4.1%
	80歳代以上	46	41.3%	19.6%	56.5%	17.4%	28.3%	28.3%	21.7%	23.9%	17.4%	0.0%	13.0%	6.5%
男性	20歳代	36	38.9%	11.1%	61.1%	16.7%	33.3%	47.2%	16.7%	8.3%	22.2%	8.3%	2.8%	2.8%
	30歳代	47	40.4%	14.9%	53.2%	31.9%	27.7%	51.1%	10.6%	6.4%	14.9%	2.1%	4.3%	2.1%
	40歳代	79	41.8%	13.9%	55.7%	15.2%	17.7%	36.7%	12.7%	6.3%	10.1%	1.3%	7.6%	3.8%
	50歳代	74	58.1%	10.8%	55.4%	13.5%	16.2%	25.7%	5.4%	2.7%	8.1%	2.7%	6.8%	0.0%
	60歳代	134	44.0%	4.5%	49.3%	11.2%	15.7%	18.7%	14.2%	5.2%	7.5%	0.7%	8.2%	3.0%
	70歳代	150	50.0%	9.3%	49.3%	12.7%	18.0%	16.7%	19.3%	9.3%	11.3%	0.0%	14.0%	2.0%
	80歳代以上	38	57.9%	10.5%	36.8%	15.8%	13.2%	15.8%	23.7%	15.8%	10.5%	0.0%	5.3%	10.5%

## 7. 配偶者などからの暴力について

### (1)DV防止法の認知度

問 18 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(通称:※DV防止法)が平成 13(2001)年 10 月に施行されましたが、あなたはこの法律を知っていますか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(DV防止法)については、「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」(62.6%)との回答が6割以上を占めており、次いで「法律の内容まで知っている」(20.9%)、「知らない」(14.1%)が続いている。



#### 【性別】

性別でみると、いずれも「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」との回答が6割以上を占めている(女性 63.7%、男性 61.4%)。

#### 【性年代別】

性年代別にみると、女性の 30 歳代から 70 歳代までは「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」との回答が 60% 台で他の年代層よりも多い。他の年代と比べ 80 歳代以上では「知らない」が多い。一方、男性の 60 歳代では「法律の内容まで知っている」が他の年代と比べ高くなっている。20 歳代から 40 歳代、80 歳代以上では「知らない」の割合が他の年代と比べ高くなっている。

	全体	法律の内容まで知っている	名前は聞いたことがあるが内容は知らない	知らない	無回答	
全体	1382	20.9%	62.6%	14.1%	2.4%	
■性年代別						
女性	20歳代	49	14.3%	59.2%	26.5%	0.0%
	30歳代	82	13.4%	67.1%	18.3%	1.2%
	40歳代	112	22.3%	65.2%	12.5%	0.0%
	50歳代	143	21.7%	63.6%	13.3%	1.4%
	60歳代	191	22.5%	67.5%	7.9%	2.1%
	70歳代	171	21.1%	60.2%	14.6%	4.1%
	80歳代以上	46	13.0%	54.3%	30.4%	2.2%
男性	20歳代	36	16.7%	47.2%	33.3%	2.8%
	30歳代	47	23.4%	55.3%	17.0%	4.3%
	40歳代	79	22.8%	50.6%	21.5%	5.1%
	50歳代	74	20.3%	67.6%	9.5%	2.7%
	60歳代	134	30.6%	59.0%	8.2%	2.2%
	70歳代	150	18.7%	70.7%	8.0%	2.7%
	80歳代以上	38	18.4%	65.8%	13.2%	2.6%

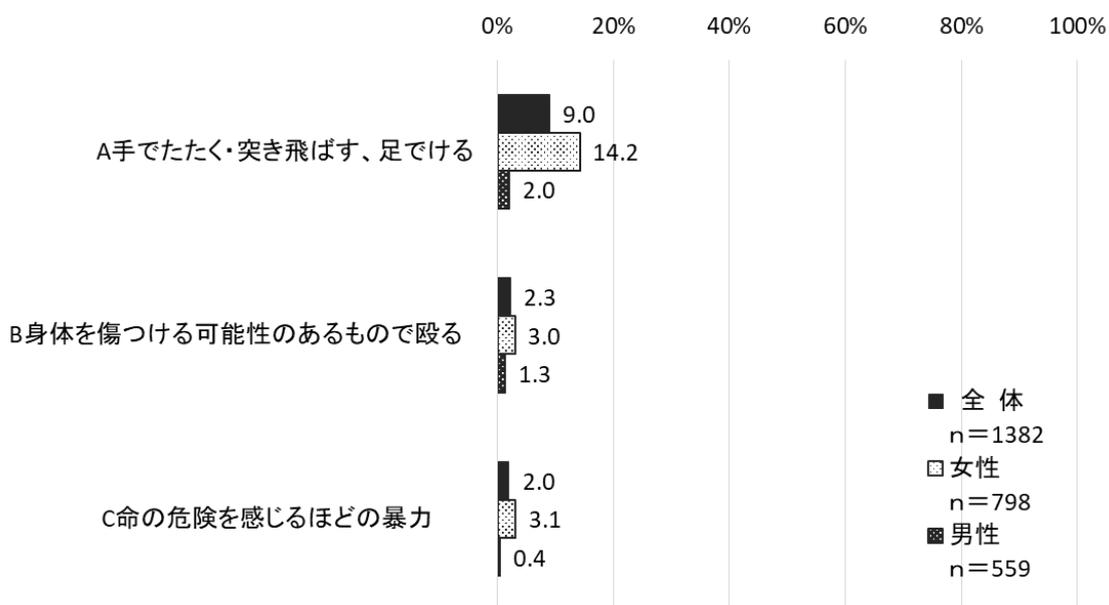
## (2)DVに関する被害・加害経験

問 19-① あなたは、これまでに恋人や配偶者(事実婚や別居中、離婚後を含む)などの親しい間柄で、次のA～Nについて、あてはまるようなことをしたりされたりしたことがありますか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

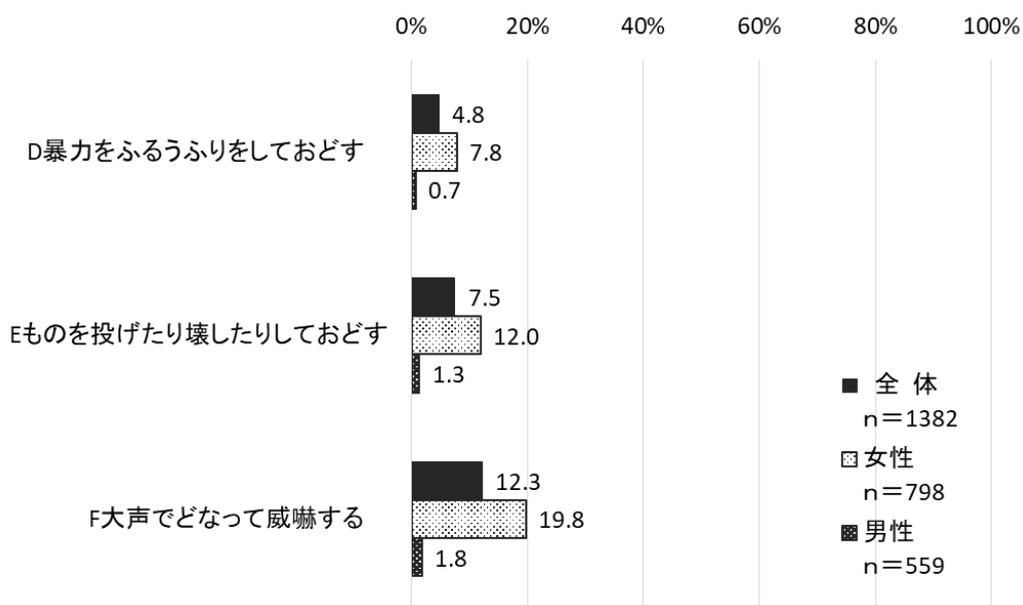
全体では被害、加害経験の「どちらもない」の割合が高くなっているが、「手でたたく・突き飛ばす、足でける」(被害 9.0%、加害 5.6%)、「大声でどなって威嚇する」(被害 12.3%、加害 9.9%)では被害経験で1割程度の回答となっている。また、すべての項目で、男性は加害、女性では被害経験の割合が高くなっている。

### 【被害経験】

#### ①身体への攻撃



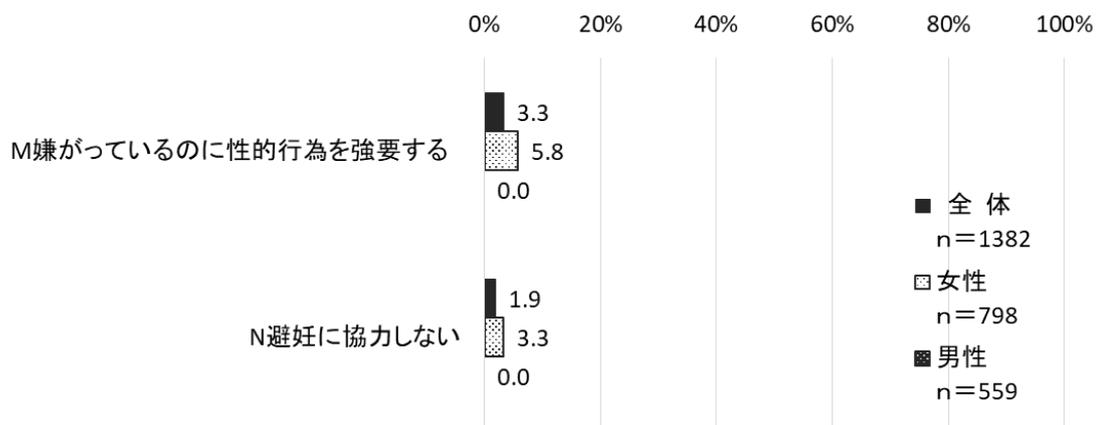
#### ②威嚇・おどし



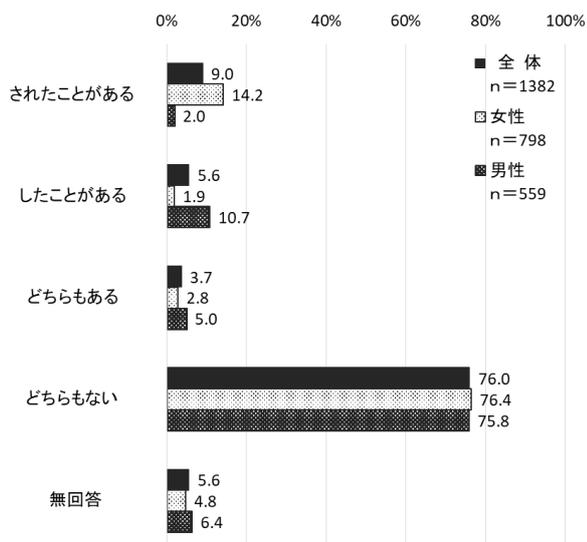
### ③精神的・経済的暴力



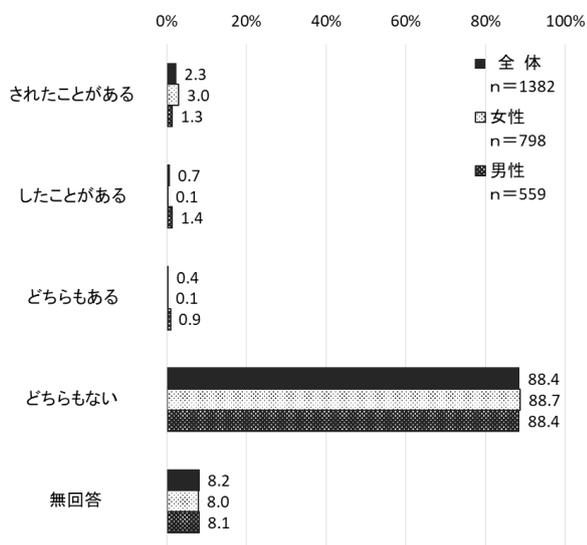
### ④性的暴力



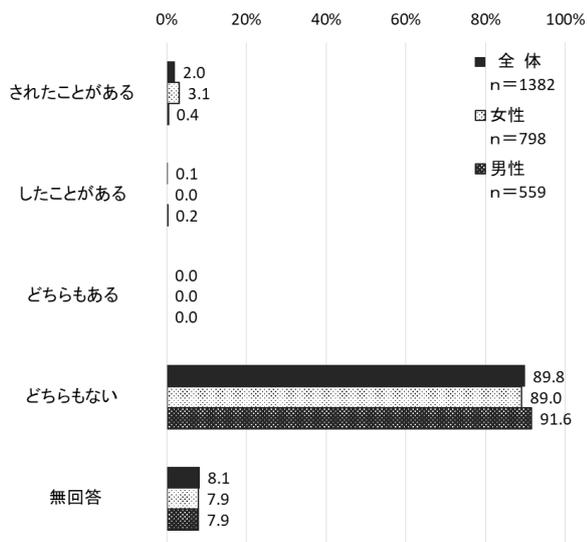
### ○手でたたく・突き飛ばす、足でける



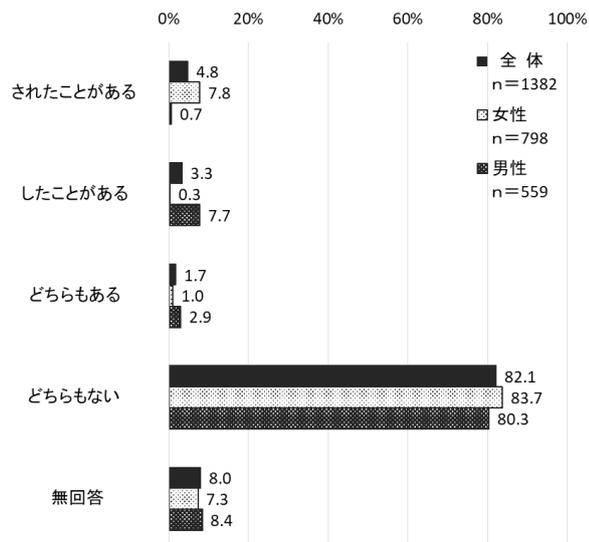
### ○身体を傷つける可能性のあるもので殴る



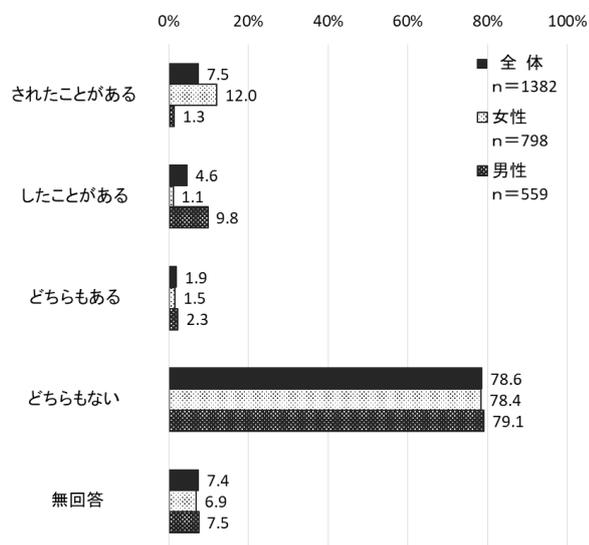
### ○命の危険を感じるほどの暴力



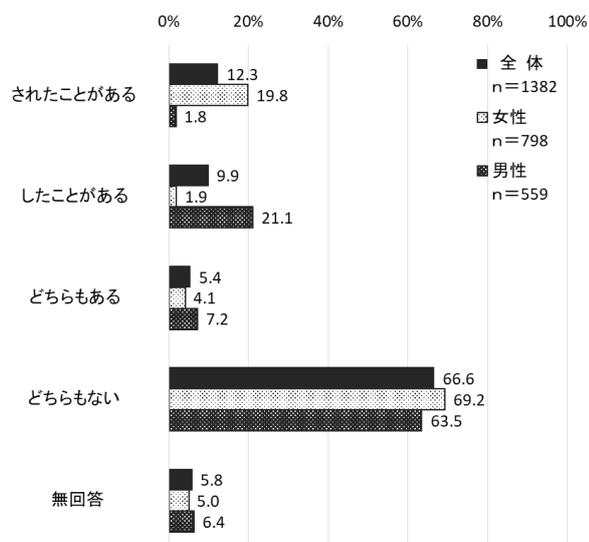
### ○暴力をふるうふりをしておどす



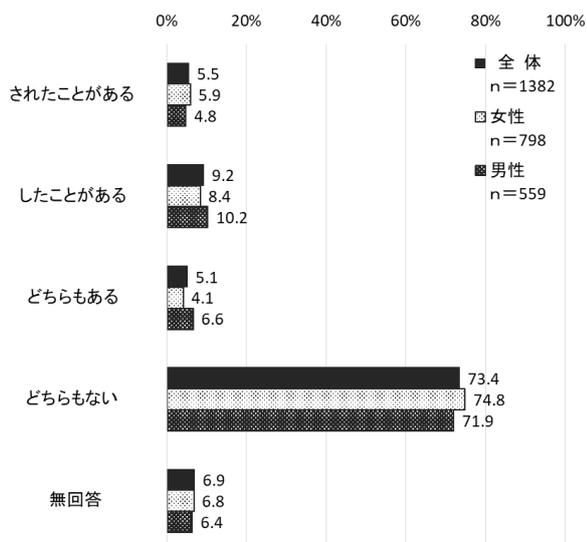
### ○ものを投げたり壊したりしておどす



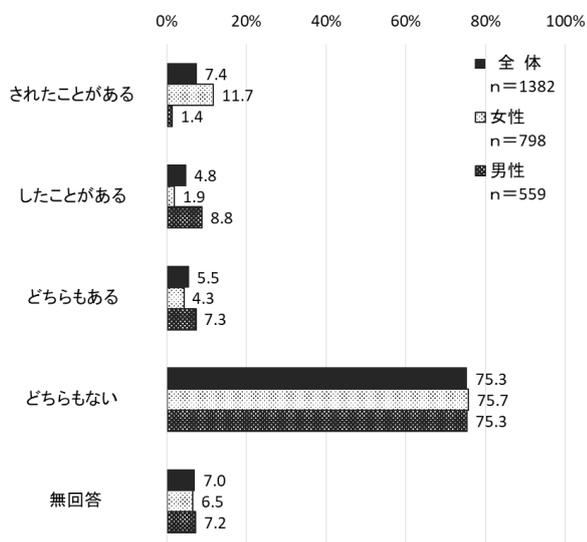
### ○大声でどなって威嚇する



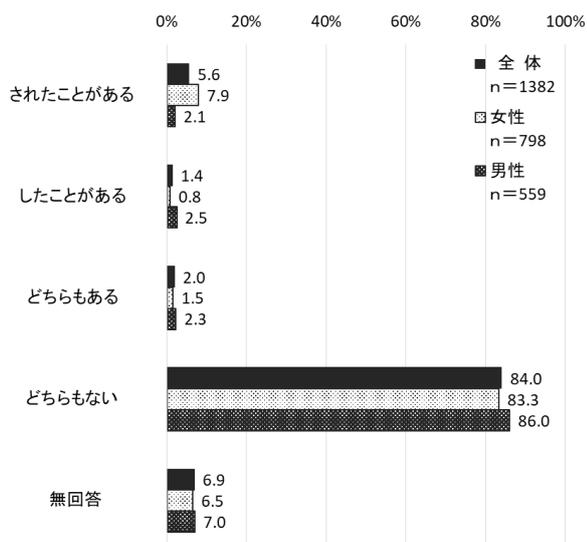
○何を言っても、長時間無視し続ける



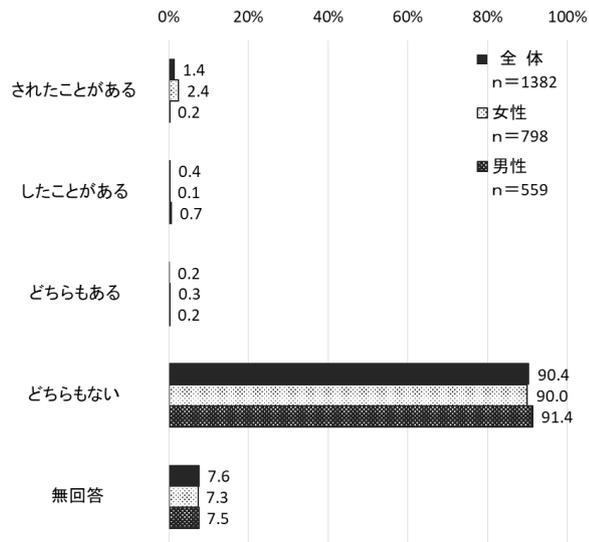
○「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をする



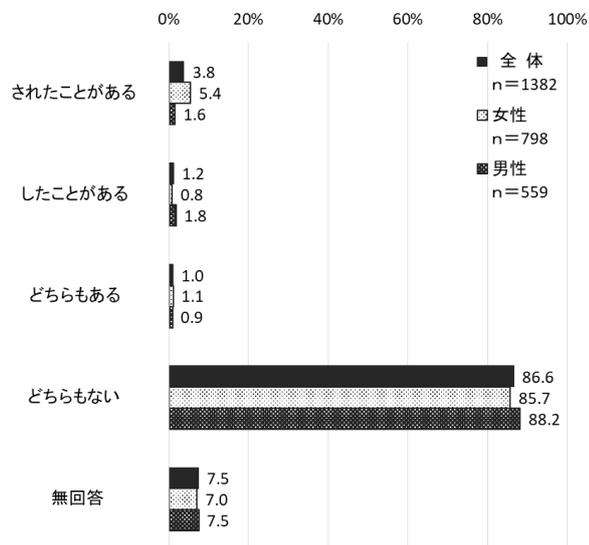
○「誰のおかげで生活できるんだ」とか「安月給」「甲斐性なし」「死ね」などとののしる



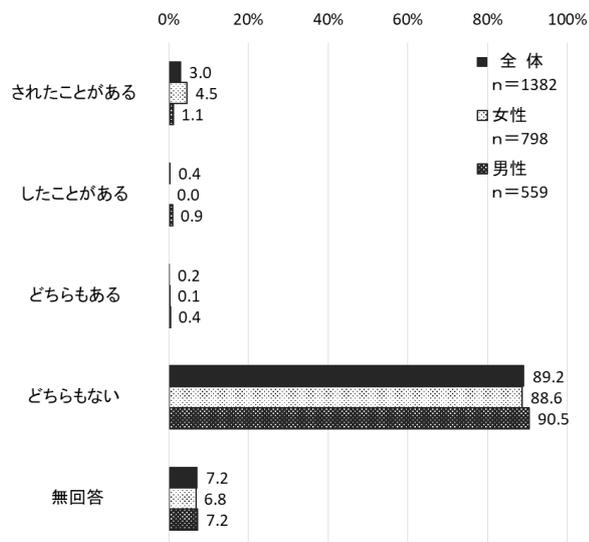
### ○社会活動や就職などをゆるさない



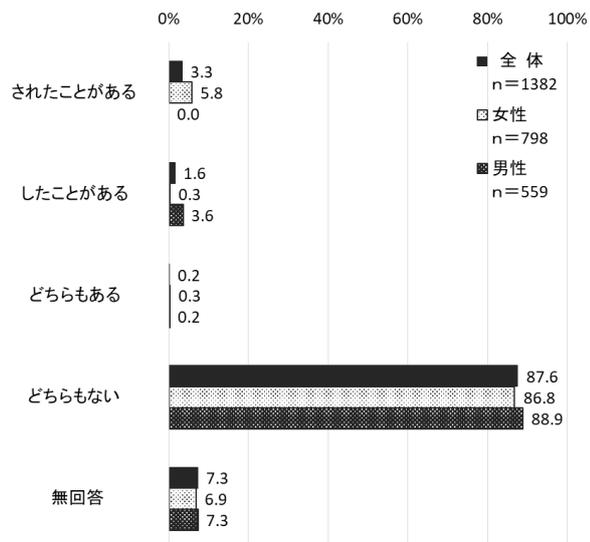
### ○交友関係や電話、郵便物、お金の使い道などを細かく監視する



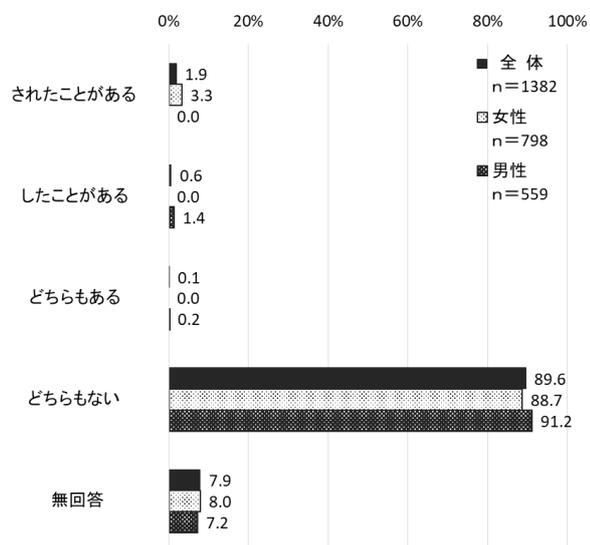
### ○生活費を渡さないなど、経済的に押さえつける



### ○嫌がっているのに性的行為を強要する



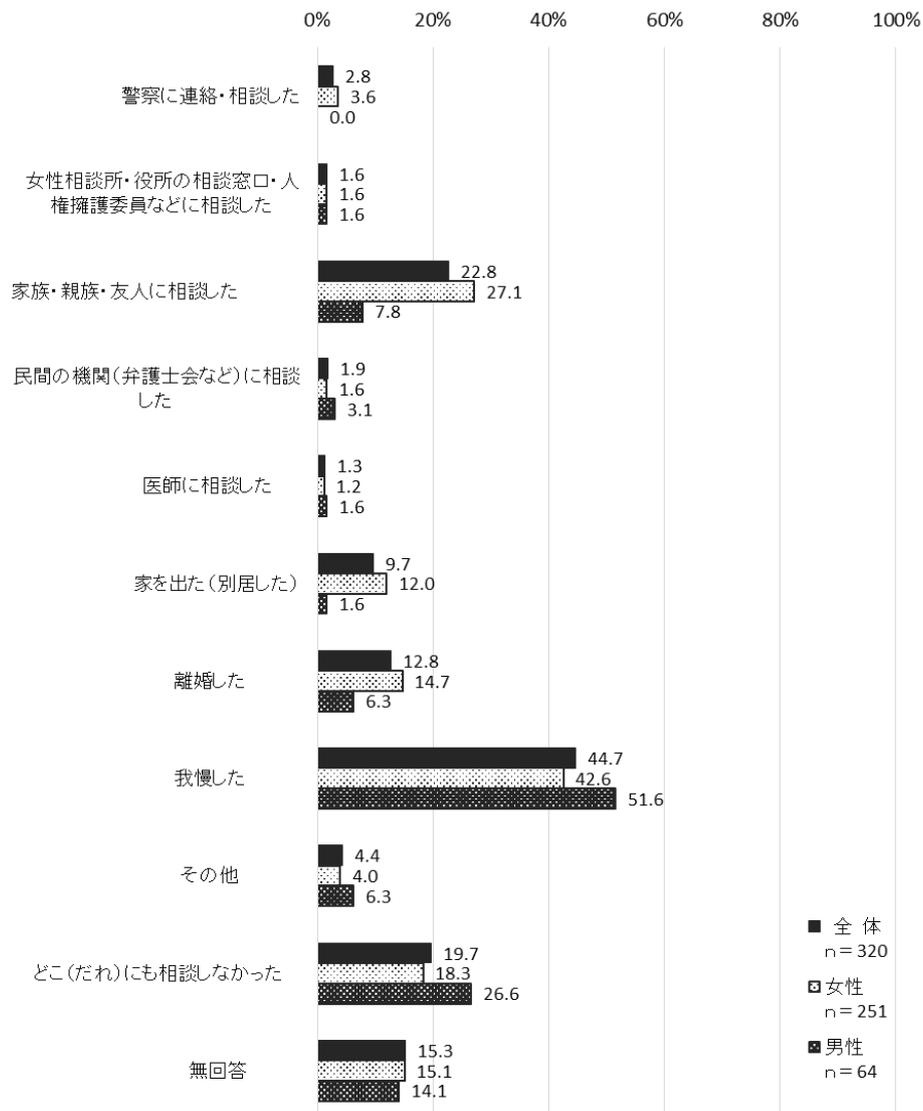
### ○避妊に協力しない



### (3)DVを受けた際の対応

※問 19-①で1つでも「されたことがある」とお答えの方にお聞きします。該当しない方は問 20 へお進みください。  
 問 19-② あなたはそのような行為を受けた時、どうしましたか。次の中で、当てはまる番号を選び、○で囲んでください。(○はいくつでも)

1つでも被害経験のあった人(320 人)を対象に対処の内容を質問した。結果は、「我慢した」(44.7%)が最も多く、次いで「家族・親族・友人に相談した」(22.8%)、「どこ(だれ)にも相談しなかった」(19.7%)が続いている。



#### 【性別】

性別にみると、いずれも「我慢した」との回答が最も多く、これに「どこ(だれ)にも相談しなかった」が続いている。「家族・親族・友人に相談した」では女性の割合が男性の割合を大きく上回っている(女性 27.1%、男性 7.8%)。

## 【性年代別】

性年代別にみると、女性では20歳代から40歳代で「家族・親族・友人に相談した」「離婚した」との回答が最も多く、このほかでは「我慢した」との回答が最も多くなっている。男性は、サンプル数が少ないことから特徴は読み取れない。

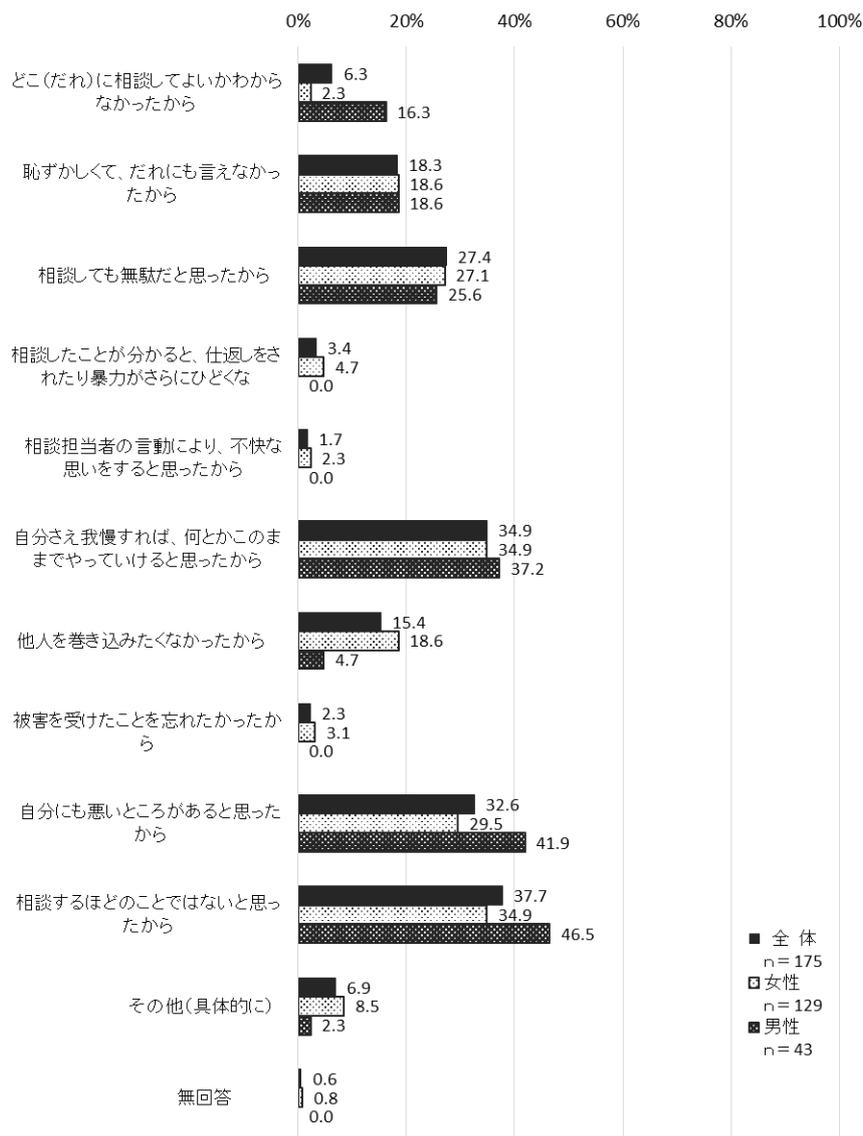
	全体	警察に連絡・相談した	女性相談所・役所の相談窓口・人権擁護委員などに相談した	家族・親族・友人に相談した	民間の機関（弁護士会など）に相談した	医師に相談した	家を出た（別居した）	離婚した	我慢した	その他	どこ（だれ）にも相談しなかった	無回答	
全体	320	2.8%	1.6%	22.8%	1.9%	1.3%	9.7%	12.8%	44.7%	4.4%	19.7%	15.3%	
■性年代別													
女性	20歳代	6	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	16.7%	33.3%	33.3%	16.7%	16.7%	0.0%
	30歳代	23	4.3%	0.0%	43.5%	0.0%	0.0%	17.4%	21.7%	34.8%	4.3%	17.4%	0.0%
	40歳代	49	6.1%	2.0%	34.7%	2.0%	2.0%	12.2%	22.4%	40.8%	4.1%	26.5%	12.2%
	50歳代	57	0.0%	3.5%	17.5%	1.8%	0.0%	10.5%	15.8%	40.4%	3.5%	15.8%	19.3%
	60歳代	56	0.0%	1.8%	26.8%	0.0%	0.0%	7.1%	10.7%	42.9%	3.6%	14.3%	16.1%
	70歳代	52	7.7%	0.0%	23.1%	3.8%	3.8%	13.5%	7.7%	50.0%	3.8%	19.2%	19.2%
	80歳代以上	7	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%	57.1%	0.0%	14.3%	28.6%
男性	20歳代	4	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	50.0%
	30歳代	11	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	72.7%	9.1%	36.4%	0.0%
	40歳代	19	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%	10.5%	47.4%	10.5%	26.3%	5.3%
	50歳代	8	0.0%	0.0%	37.5%	12.5%	0.0%	12.5%	25.0%	62.5%	0.0%	12.5%	0.0%
	60歳代	9	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	55.6%	22.2%
	70歳代	11	0.0%	9.1%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	63.6%	0.0%	9.1%	27.3%
	80歳代以上	2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%

## (4)我慢した、相談しなかった理由

※問 19-②で「8. 我慢した」や「10. どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた方におたずねします。該当しない方は問 20 へお進みください。

問 19-③ それはなぜですか。次の中から当てはまる番号を選び、○で囲んでください。(○はいくつでも)

「我慢した」「どこ(だれ)にも相談しなかった」人(175 人)にその理由を質問した結果、「相談するほどのことではないと思ったから」(37.7%)との回答が最も多く、次いで「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」(34.9%)、「自分にも悪いところがあると思ったから」(32.6%)、「相談しても無駄だと思ったから」(27.4%)などが高い割合を占めている。



### 【性別】

性別にみると、「どこ(だれ)に相談してよいかわからなかったから」(女性 2.3%、男性 16.3%)、「相談するほどのことではないと思ったから」(女性 34.9%、男性 46.5%)、「自分にも悪いところがあると思った」(女性 29.5%、男性 41.9%)で男性の割合が特に高くなっており、「他人を巻き込みたくなかったから」(女性 18.6%、男性 4.7%)では、女性の割合が高くなっている。

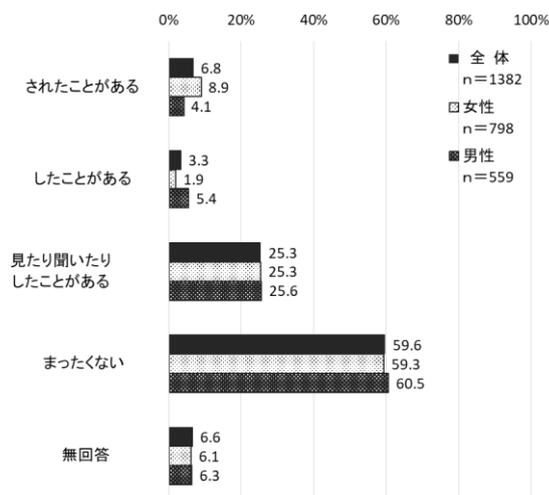
## 8. 男女間のセクハラについて

### (1)セクハラ被害・加害経験

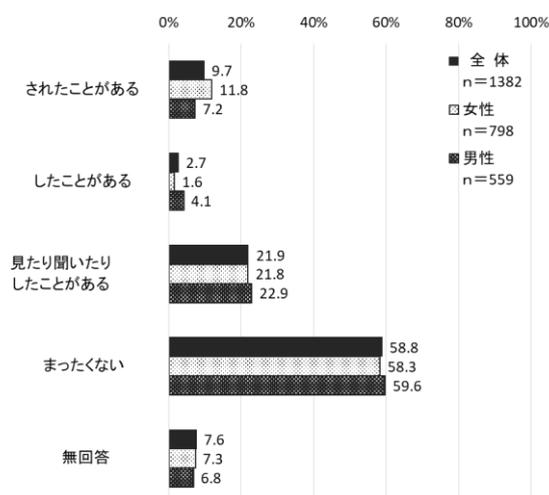
問 20-① 次のような行為はセクハラ(性的嫌がらせ)ですが、あなたは職場の上司や同僚・学校・地域などで、したりされたりしたことがありますか。次の(1)～(10)について、当てはまる番号を選び、○で囲んでください。

全体では「まったくない」との回答が最も多くなっているが、「男のくせに…女のくせに…」など差別的な言葉を使う」「結婚はまだ?」「子どもはまだ?」としつこく言う」「性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を言う」では、「見たり聞いたりしたことがある」との回答が 20% 台となっている。「男のくせに、女のくせになど差別的な言葉を使う」「結婚はまだ、子どもはまだ、としつこく言う」「性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を言う」「接待や宴会で、酌やデュエット、ダンスを強要する」「触る、抱きつく、しつこく付きまとう」では、女性の被害経験者が 10% 前後となっている。

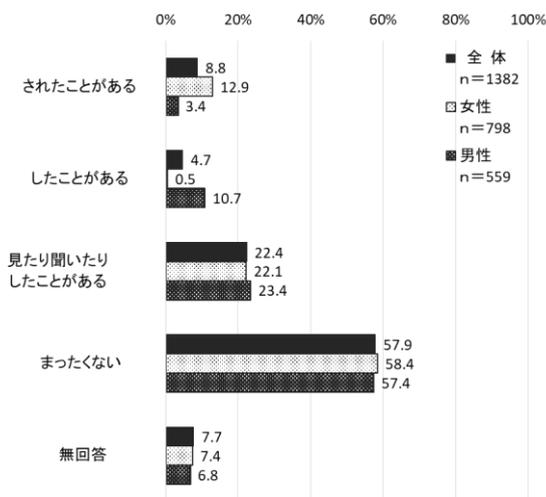
#### ○「男のくせに…」、「女のくせに…」など差別的な言葉を使う



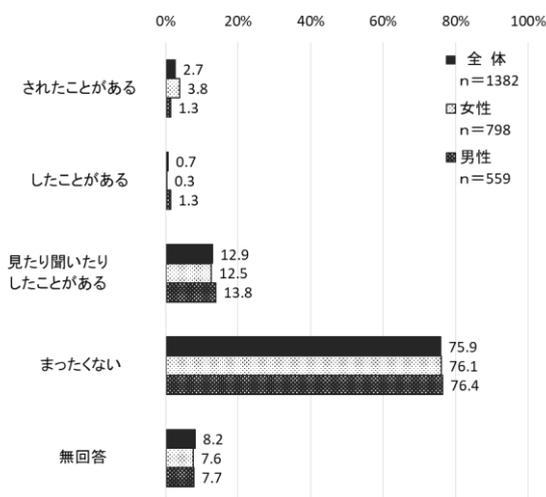
#### ○「結婚はまだ?」「子どもはまだ?」としつこく言う



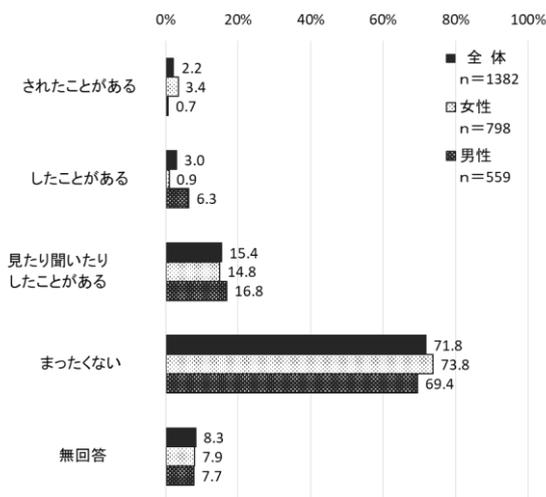
### ○性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を言う



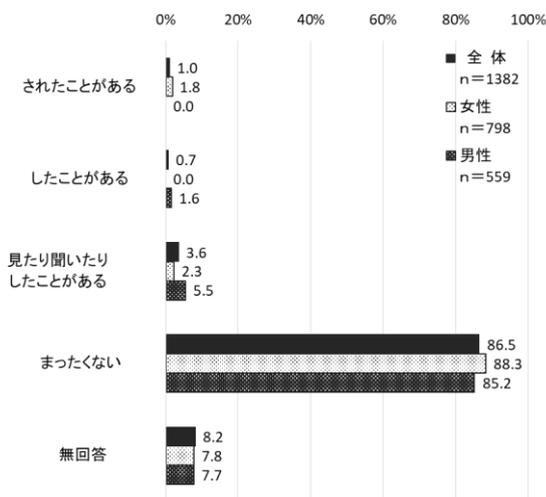
### ○異性関係は派手だなどと、性的な噂(うわさ)をながす



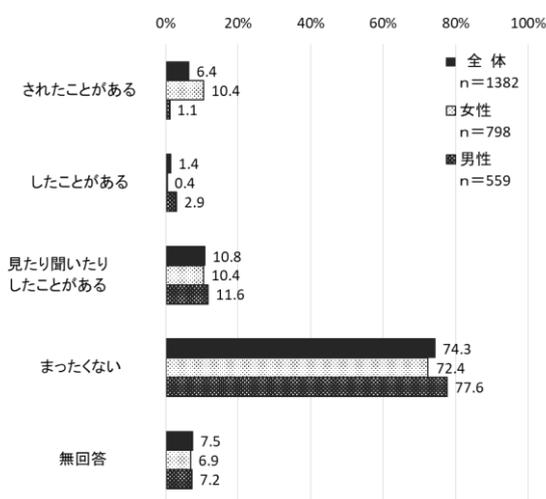
### ○異性の同僚をじろじろ眺めたり、容姿を話題にしたりする



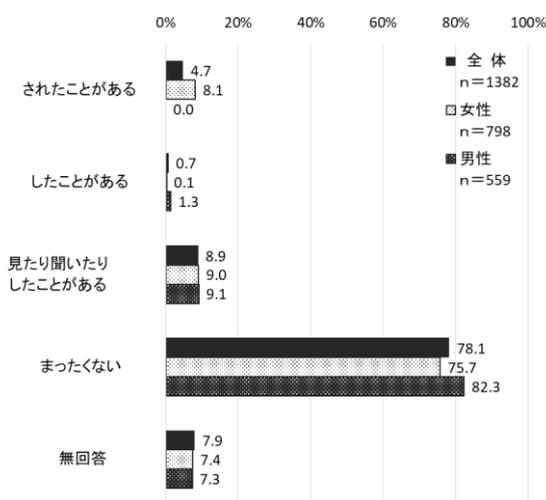
### ○ヌード写真やわいせつな本を飾ったり見せびらかしたりする



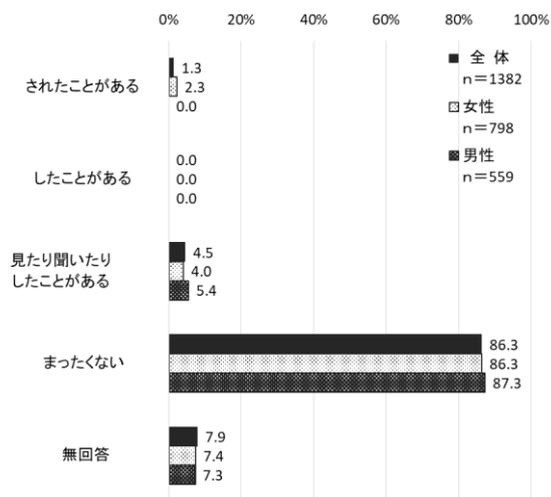
### ○接待や宴会で、酌やデュエット、ダンスを強要する



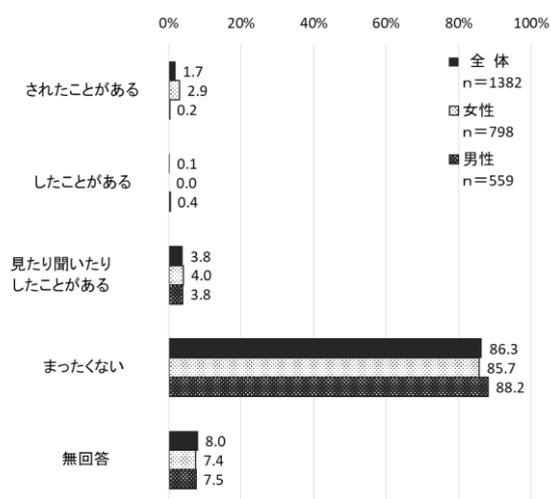
### ○触る、抱きつく、しっこく付きまとう



## ○地位や権限を利用して、性的関係を迫る



## ○携帯電話やパソコンのメール、SNS 等でしつこく誘う

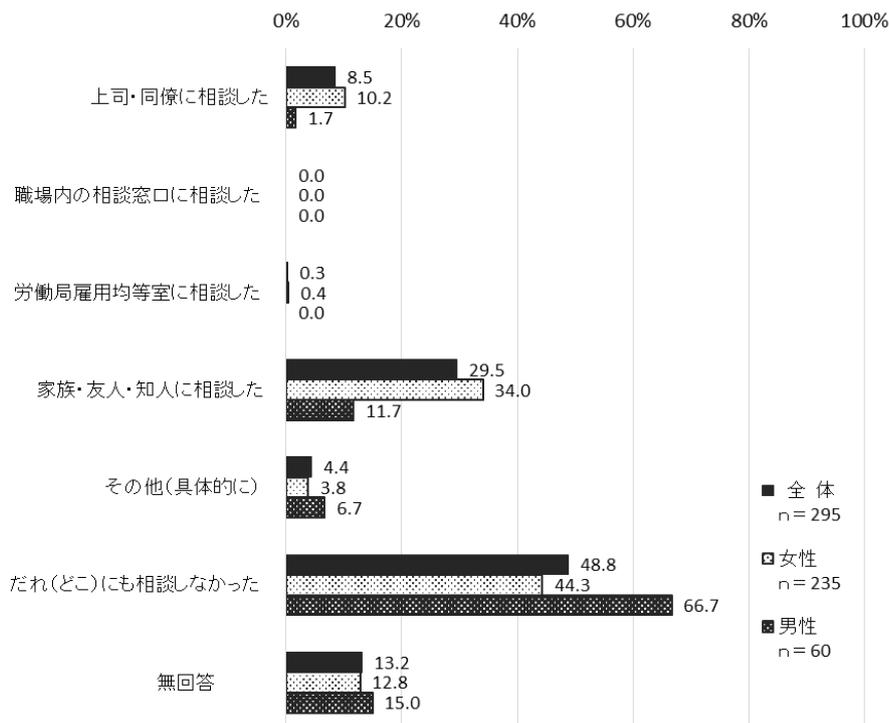


## (2)セクハラを受けた際の対応

※問 20-①で 1 つでも「されたことがある」と答えた方にお尋ねします。該当しない方は問 21 へ進んでください。

問 20-② そのことについて、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。次の中から当てはまる番号を選び、○で囲んでください。(○はいくつでも)

1 つでも被害経験のあった人(295 人)に相談の状況を質問した。結果をみると、「だれ(どこ)にも相談しなかった」(48.8%)との回答が最も多く、次いで「家族、友人、知人に相談した」(29.5%)、「上司、同僚に相談した」(8.5%)が続いている。



### 【性別】

性別にみると、「だれ(どこ)にも相談しなかった」とする対応は男性の割合が高く(女性 44.3%、男性 66.7%)、「家族・友人・知人に相談した」(女性 34.0%、男性 11.7%)、「上司・同僚に相談した」(女性 10.2%、男性 1.7%)とする身近な人への相談については、女性の割合が高くなっている。

### 【性年代別】

性年代別にみると、女性の 20 歳代から 40 歳代にかけては「家族・友人・知人に相談した」との回答が多くなっており、比較的若い年代で人に相談した割合が高くなっている。一方、男性では、いずれの年代でも「だれ(どこ)にも相談しなかった」が多くなっている。

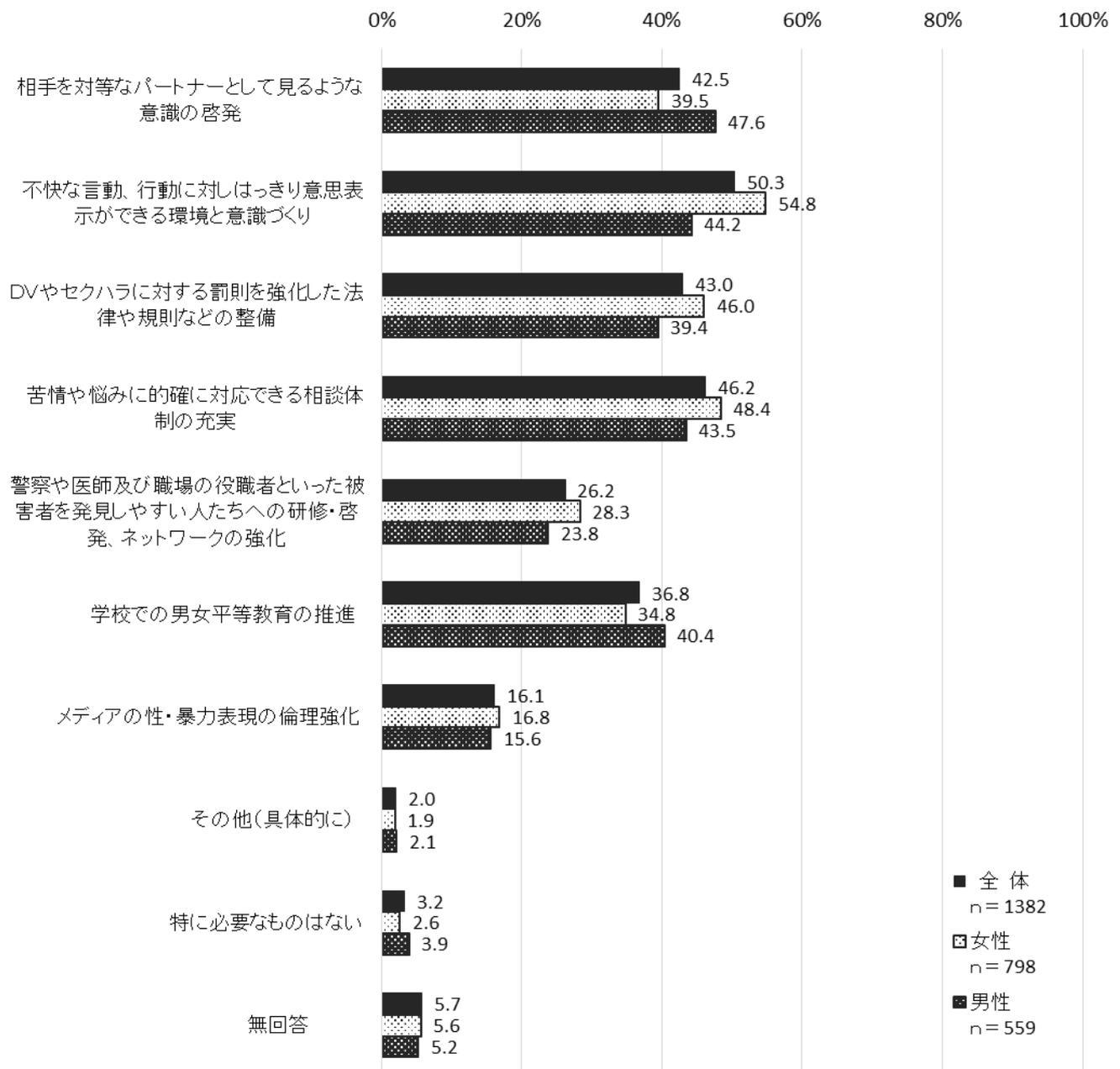
	全体	上司・同僚に相談した	職場内の相談窓口相談した	労働局雇用均等室に相談した	家族・友人・知人に相談した	その他(具体的に)	だれ(どこ)にも相談しなかった	無回答	
全体	295	8.5%	0.0%	0.3%	29.5%	4.4%	48.8%	13.2%	
■性年代別									
女性	20歳代	19	5.3%	0.0%	0.0%	57.9%	10.5%	21.1%	10.5%
	30歳代	41	12.2%	0.0%	0.0%	48.8%	0.0%	41.5%	2.4%
	40歳代	46	15.2%	0.0%	0.0%	34.8%	4.3%	39.1%	15.2%
	50歳代	50	12.0%	0.0%	2.0%	28.0%	4.0%	50.0%	12.0%
	60歳代	47	8.5%	0.0%	0.0%	23.4%	6.4%	44.7%	19.1%
	70歳代	25	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	64.0%	16.0%
男性	80歳代以上	5	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	60.0%	20.0%
	20歳代	9	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	22.2%	44.4%	11.1%
	30歳代	12	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	83.3%	16.7%
	40歳代	18	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	66.7%	16.7%
	50歳代	9	11.1%	0.0%	0.0%	22.2%	11.1%	66.7%	0.0%
	60歳代	9	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%
男性	70歳代	2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	80歳代以上	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%

## 9. 人権の尊重について

### (1) 人権侵害をあらゆる分野からなくすために必要なこと

問 21 DV やセクハラなどの人権侵害をあらゆる分野からなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。(○はいくつでも)

ドメスティックバイオレンス(DV)やセクシャル・ハラスメントをなくすための方策をたずねたところ、「不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり」(50.3%)との回答が最も多く、次いで「苦情や悩みに的確に対応できる組織体制の充実」(46.2%)、「DVやセクハラに対する罰則を強化した法律や規則などの整備」(43.0%)、「相手を対等なパートナーとしてみるような意識の啓発」(42.5%)、「学校での男女平等教育の推進」(36.8%)が続いている。



#### 【性別】

性別にみると、「相手を対等なパートナーとしてみるような意識の啓発」では男性の割合が高く、「不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり」では、女性の割合が高くなっている。

## 【性年代別】

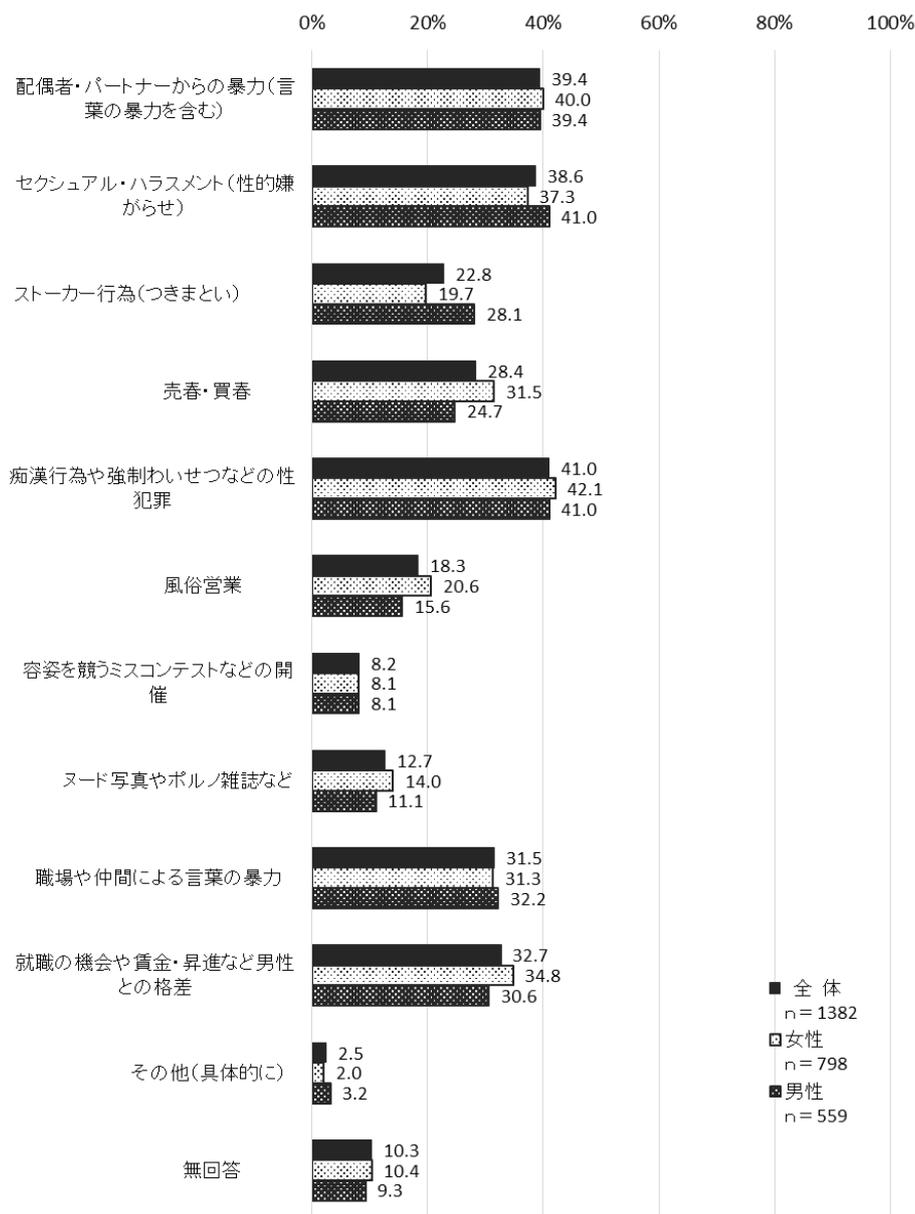
性年代別では、女性では60歳代で「不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり」との回答が多く、20歳代と30歳代では「DVやセクハラに対する罰則を強化した法律や規則などの整備」との回答が多くなっている。男性では、50歳代から60歳代では「相手を対等なパートナーとして見るような意識の啓発」が多くなっている。

	全体	相手を対等なパートナーとして見るような意識の啓発	不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり	DVやセクハラに対する罰則を強化した法律や規則などの整備	苦情や悩みに的確に対応できる相談体制の充実	警察や医師及び職場の役職者との研修・啓発者やネットワーカーの強化	学校での男女平等教育の推進	メディアの性・暴力表現の倫理強化	その他（具体的に）	特に必要なものはない	無回答	
全体	1382	42.5%	50.3%	43.0%	46.2%	26.2%	36.8%	16.1%	2.0%	3.2%	5.7%	
■性年代別												
女性	20歳代	49	28.6%	51.0%	67.3%	55.1%	36.7%	26.5%	14.3%	0.0%	0.0%	2.0%
	30歳代	82	52.4%	51.2%	62.2%	50.0%	39.0%	43.9%	20.7%	3.7%	0.0%	0.0%
	40歳代	112	38.4%	49.1%	50.0%	50.9%	33.0%	31.3%	17.0%	4.5%	2.7%	1.8%
	50歳代	143	49.7%	58.0%	46.9%	50.3%	23.1%	34.3%	18.9%	0.7%	0.0%	0.7%
	60歳代	191	37.7%	61.3%	44.5%	47.6%	25.7%	33.0%	16.2%	2.1%	2.1%	6.3%
	70歳代	171	33.9%	52.0%	35.1%	49.1%	25.1%	37.4%	14.6%	0.0%	3.5%	12.9%
	80歳代以上	46	30.4%	47.8%	32.6%	23.9%	30.4%	39.1%	15.2%	4.3%	17.4%	15.2%
男性	20歳代	36	30.6%	38.9%	52.8%	41.7%	33.3%	41.7%	5.6%	5.6%	8.3%	5.6%
	30歳代	47	36.2%	42.6%	44.7%	38.3%	29.8%	25.5%	14.9%	6.4%	4.3%	4.3%
	40歳代	79	41.8%	46.8%	50.6%	46.8%	27.8%	38.0%	16.5%	2.5%	5.1%	5.1%
	50歳代	74	59.5%	50.0%	37.8%	39.2%	28.4%	41.9%	27.0%	1.4%	1.4%	0.0%
	60歳代	134	53.0%	45.5%	32.1%	46.3%	27.6%	47.0%	12.7%	1.5%	3.7%	3.7%
	70歳代	150	48.0%	40.7%	34.7%	44.0%	14.0%	42.0%	16.7%	0.7%	3.3%	7.3%
	80歳代以上	38	44.7%	44.7%	44.7%	42.1%	15.8%	31.6%	7.9%	2.6%	5.3%	13.2%

## (2)人権が尊重されていないと感じること

問 22 あなたが、男性および女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。(○はいくつでも)

男性及び女性の人権が尊重されていないと感じることでは、「痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪」(41.0%)との回答が最も多く、次いで「配偶者、パートナーからの暴力(言葉の暴力を含む)」(39.4%)、「セクシュアル・ハラスメント」(38.6%)、「就職の機会や賃金、昇進など男性との格差」(32.7%)、「職場や仲間による言葉の暴力」(31.5%)、「売春、買春」(28.4%)が続いている。



### 【性別】

性別にみると、「風俗営業」「就職の機会や賃金・昇進など男性との格差」では女性の割合が高く、「セクシュアル・ハラスメント」「ストーカー行為(つきまとい)」では男性の割合が高くなっている。

## 【性年代別】

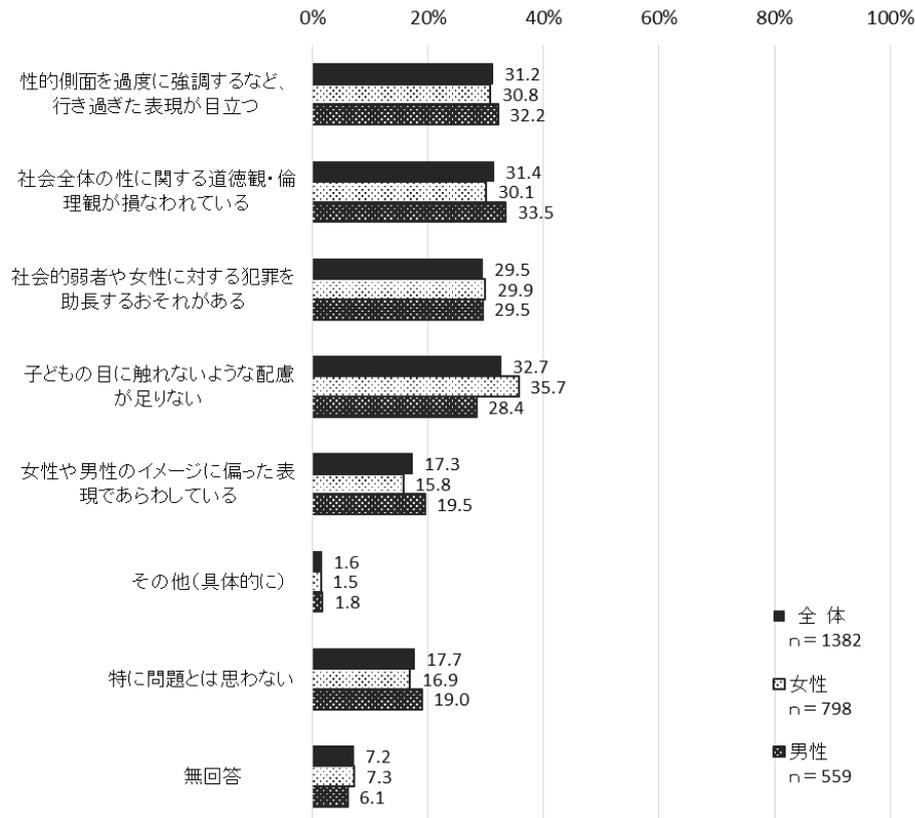
性年代別にみると、女性の20歳代から30歳代では「セクシュアル・ハラスメント」との回答が他の年代層よりも多い。30歳代から50歳代までは「痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪」、30歳代から40歳代では「就職の機会や賃金、昇進など男性との格差」も多くなっている。一方、男性の20歳代から50歳代では「セクシュアル・ハラスメント」が他の年代と比べ高くなっている。このほか50歳代、80歳代以上では「痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪」の割合が他の年代と比べ高くなっている。

	全体	配偶者・パートナーからの暴力（言葉の暴力を含む）	セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）	ストーカー行為（つきまとい）	売春・買春	痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪	風俗営業	容姿を競うミスコンテストなどの開催	ヌード写真やポルノ雑誌など	職場や仲間による言葉の暴力	就職の機会や賃金・昇進など男性との格差	その他（具体的に）	無回答	
全体	1382	39.4%	38.6%	22.8%	28.4%	41.0%	18.3%	8.2%	12.7%	31.5%	32.7%	2.5%	10.3%	
■性年代別														
女性	20歳代	49	38.8%	51.0%	26.5%	34.7%	38.8%	14.3%	6.1%	8.2%	34.7%	36.7%	2.0%	2.0%
	30歳代	82	43.9%	51.2%	22.0%	37.8%	50.0%	20.7%	7.3%	17.1%	29.3%	43.9%	1.2%	6.1%
	40歳代	112	45.5%	45.5%	21.4%	33.9%	53.6%	22.3%	9.8%	17.0%	31.3%	42.0%	0.9%	2.7%
	50歳代	143	40.6%	46.9%	21.7%	35.0%	51.0%	21.7%	13.3%	14.0%	31.5%	36.4%	0.7%	4.2%
	60歳代	191	40.3%	31.9%	18.3%	33.0%	41.4%	21.5%	7.3%	14.1%	30.9%	30.9%	2.1%	9.9%
	70歳代	171	38.0%	22.8%	17.5%	25.7%	31.6%	21.1%	5.8%	14.0%	30.4%	29.8%	3.5%	19.3%
	80歳代以上	46	26.1%	23.9%	10.9%	17.4%	15.2%	13.0%	4.3%	8.7%	37.0%	30.4%	4.3%	34.8%
男性	20歳代	36	44.4%	44.4%	41.7%	25.0%	44.4%	16.7%	8.3%	11.1%	33.3%	19.4%	5.6%	11.1%
	30歳代	47	42.6%	57.4%	36.2%	29.8%	44.7%	14.9%	8.5%	4.3%	34.0%	29.8%	6.4%	4.3%
	40歳代	79	40.5%	46.8%	29.1%	21.5%	45.6%	13.9%	7.6%	12.7%	32.9%	31.6%	3.8%	6.3%
	50歳代	74	44.6%	45.9%	32.4%	25.7%	50.0%	9.5%	9.5%	8.1%	32.4%	27.0%	1.4%	1.4%
	60歳代	134	36.6%	35.8%	22.4%	20.9%	34.3%	15.7%	10.4%	11.2%	31.3%	33.6%	3.7%	9.0%
	70歳代	150	34.7%	35.3%	21.3%	22.7%	36.0%	18.7%	5.3%	10.7%	34.0%	30.7%	2.0%	14.7%
	80歳代以上	38	44.7%	36.8%	42.1%	44.7%	50.0%	18.4%	7.9%	23.7%	23.7%	36.8%	2.6%	15.8%

## 10. メディアにおける性・暴力表現に関する意識について

問 23 メディア(テレビや映画、出版物)における性・暴力表現について、あなたはどのように思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。(○はいくつでも)

メディアにおける性・暴力表現に対する意識をみると、「子どもの目に触れないような配慮が足りない」(32.7%)が最も多く、次いで、「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」(31.4%)、「性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」(31.2%)、「社会的弱者や女性に対する犯罪を助長する恐れがある」(29.5%)が続いている。



### 【性別】

性別にみると、「子どもの目に触れないような配慮が足りない」については男性に比べ女性の割合が高くなっている。

## 【性年代別】

性年代別にみると、女性の50歳代から80歳代までは「性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」が多くなっている。一方、男性の50歳代から80歳代以上では「社会全体の性に関する道徳観、倫理観が損なわれている」「社会的弱者や女性に対する犯罪を助長するおそれがある」が他の年代と比べ高くなっているほか、20歳代では、「子どもの目に触れないような配慮が足りない」「女性や男性のイメージに偏った表現であらわしている」が多くなっている。また、20歳代では、「特に問題とは思わない」の割合も他の年代と比べ高くなっている。

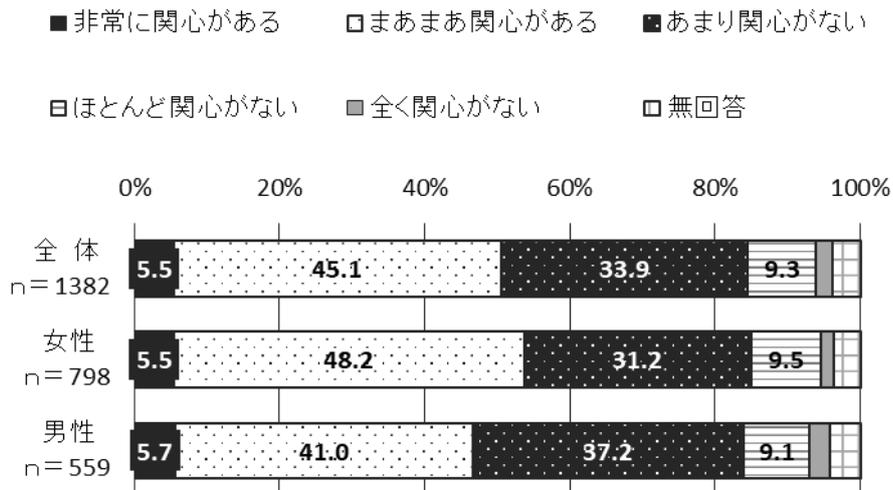
	全体	性的側面を過度に強調する	社会・倫理観が損なわれている	社会的弱者や女性に対する犯罪を助長するおそれがある	子どもの目に触れないような配慮が足りない	女性や男性のイメージに偏った表現であらわしている	その他（具体的に）	特に問題とは思わない	無回答	
全体	1382	31.2%	31.4%	29.5%	32.7%	17.3%	1.6%	17.7%	7.2%	
■性年代別										
女性	20歳代	49	14.3%	10.2%	26.5%	26.5%	16.3%	2.0%	32.7%	0.0%
	30歳代	82	26.8%	25.6%	26.8%	35.4%	19.5%	0.0%	26.8%	1.2%
	40歳代	112	21.4%	17.9%	28.6%	36.6%	16.1%	2.7%	26.8%	3.6%
	50歳代	143	31.5%	27.3%	30.1%	38.5%	17.5%	2.1%	13.3%	6.3%
	60歳代	191	38.7%	40.3%	33.0%	39.3%	15.2%	1.6%	11.0%	5.2%
	70歳代	171	34.5%	35.7%	31.6%	33.3%	15.8%	0.0%	11.1%	14.0%
	80歳代以上	46	32.6%	37.0%	19.6%	32.6%	4.3%	4.3%	17.4%	21.7%
男性	20歳代	36	8.3%	13.9%	8.3%	30.6%	33.3%	0.0%	33.3%	2.8%
	30歳代	47	23.4%	14.9%	29.8%	25.5%	21.3%	8.5%	25.5%	4.3%
	40歳代	79	27.8%	13.9%	25.3%	30.4%	22.8%	1.3%	29.1%	7.6%
	50歳代	74	28.4%	33.8%	31.1%	25.7%	27.0%	5.4%	18.9%	0.0%
	60歳代	134	36.6%	48.5%	30.6%	29.1%	20.1%	0.0%	13.4%	4.5%
	70歳代	150	40.7%	38.7%	31.3%	28.7%	12.7%	0.7%	14.7%	8.7%
	80歳代以上	38	34.2%	42.1%	42.1%	28.9%	7.9%	0.0%	13.2%	15.8%

# 11. 男女共同参画に関するご意見やご要望

## (1)男女共同参画をテーマにする話題への関心

問 24 あなたは、男女平等や男女共同参画をテーマにする話題にどの程度関心がありますか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

男女平等や男女共同参画をテーマにする話題への関心については、「まあまあ関心がある」が 45.1%で最も多く、次いで「あまり関心が無い」(33.9%)、「ほとんど関心が無い」(9.3%)、「非常に関心がある」(5.5%)、「まったく関心がない」(2.4%)となっている。『関心がある』(「非常に関心がある」+「まあまあ関心がある」)の割合は、全体の 50.6%を占めている。



### 【性別】

性別にみると、『関心がある』は女性の 53.7%に対し男性は 46.7%と、女性の割合が高くなっている。

### 【性年代別】

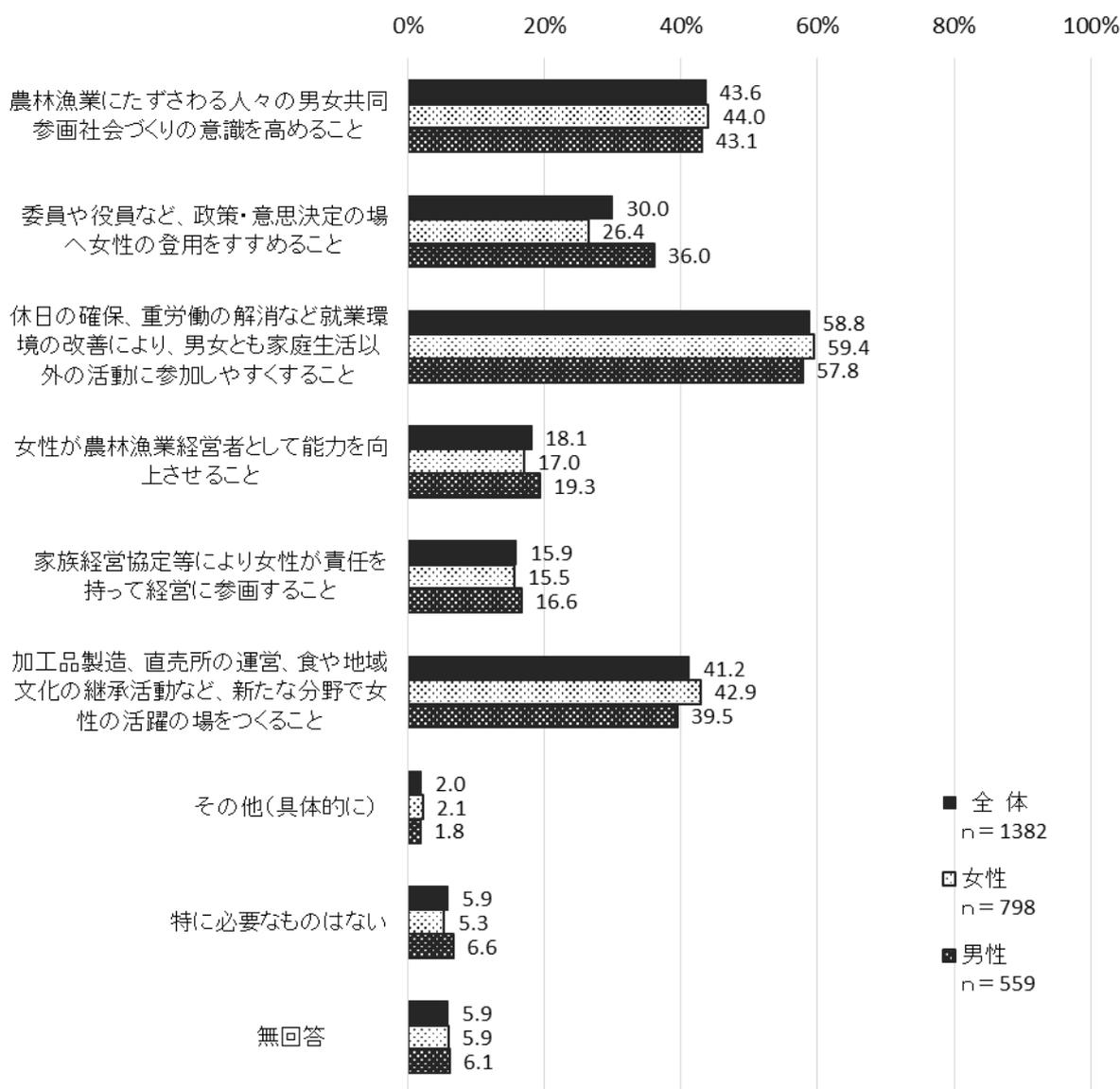
性年代別にみると、女性では30歳代から80歳代以上で「まあまあ関心がある」との回答が多いが、20歳代では「あまり関心がない」との回答が他の年代よりも高くなっている。一方、男性では、20歳代、40歳代、50歳代で「あまり関心がない」との回答が最も多くなっている。このほかの年代では、いずれも「まあまあ関心がある」との回答が多い。

		全体	非常に関心がある	まあまあ関心がある	あまり関心がない	ほとんど関心がない	全く関心がない	無回答
全体		1382	5.5%	45.1%	33.9%	9.3%	2.4%	3.8%
■性年代別								
女性	20歳代	49	6.1%	34.7%	42.9%	12.2%	4.1%	0.0%
	30歳代	82	1.2%	50.0%	37.8%	8.5%	2.4%	0.0%
	40歳代	112	1.8%	50.0%	33.9%	12.5%	0.9%	0.9%
	50歳代	143	4.9%	48.3%	32.2%	9.8%	1.4%	3.5%
	60歳代	191	7.3%	55.5%	25.1%	8.9%	0.5%	2.6%
	70歳代	171	7.6%	44.4%	32.2%	6.4%	2.3%	7.0%
	80歳代以上	46	8.7%	41.3%	17.4%	15.2%	6.5%	10.9%
男性	20歳代	36	8.3%	30.6%	36.1%	16.7%	5.6%	2.8%
	30歳代	47	2.1%	42.6%	36.2%	8.5%	6.4%	4.3%
	40歳代	79	2.5%	35.4%	38.0%	15.2%	3.8%	5.1%
	50歳代	74	9.5%	33.8%	41.9%	12.2%	2.7%	0.0%
	60歳代	134	4.5%	50.0%	36.6%	5.2%	0.0%	3.7%
	70歳代	150	4.7%	42.0%	37.3%	7.3%	2.7%	6.0%
	80歳代以上	38	15.8%	39.5%	28.9%	5.3%	5.3%	5.3%

## (2) 農林漁業の分野で男女共同参画を進めていくために必要なこと

問 25 農林漁業の分野で男女共同参画を進めていくために必要なことは何だと思えますか。あなたの考えに近い番号を3つ選び、○で囲んでください。(○は3つまで)

農林漁業の分野で男女共同参画を進めていくために必要なこととしては、「休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女とも家庭生活以外の活動に参加しやすくすること」(58.8%)との回答が最も多く、次いで「農林漁業にたずさわる人々の男女共同参画社会づくりの意識を高めること」(43.6%)、「加工品製造、直売所の運営、食や地域文化の継承活動など、新たな分野で女性の活躍の場をつくること」(41.2%)が続いている。



### 【性別】

性別にみると、「委員や役員など、政策・意思決定の場へ女性の登用をすすめること」では男性の割合が高く、一方、「加工品製造、直売所の運営、食や地域文化の継承活動など、新たな分野で女性の活躍の場をつくること」では女性の割合がやや高くなっている。

### 【性年代別】

性年代別にみると、女性の20歳代から30歳代、50歳代から60歳代では「休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女とも家庭生活以外の活動に参加しやすくすること」との回答が他の年代層よりも多い。40歳代では「農林漁業にたずさわる人々の男女共同参画社会づくりの意識を高めること」も多くなっている。一方、男性の20歳代では「農林漁業にたずさわる人々の男女共同参画社会づくりの意識を高めること」が他の年代と比べ高くなっている。20歳代から30歳代、50歳代から60歳代では、「休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女とも家庭生活以外の活動に参加しやすくすること」の回答が多くなっている。

### 【本人の職業別】

本人の職業別では、学生で「農林漁業にたずさわる人々の男女共同参画社会づくりの意識を高めること」、正規雇用者、非正規雇用者、学生で「休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女とも家庭生活以外の活動に参加しやすくすること」の割合が高くなっている。主婦・主夫では「加工品製造、直売所の運営、食や地域文化の継承活動など、新たな分野で女性の活躍の場をつくること」の割合が他の職業と比べ高くなっている。

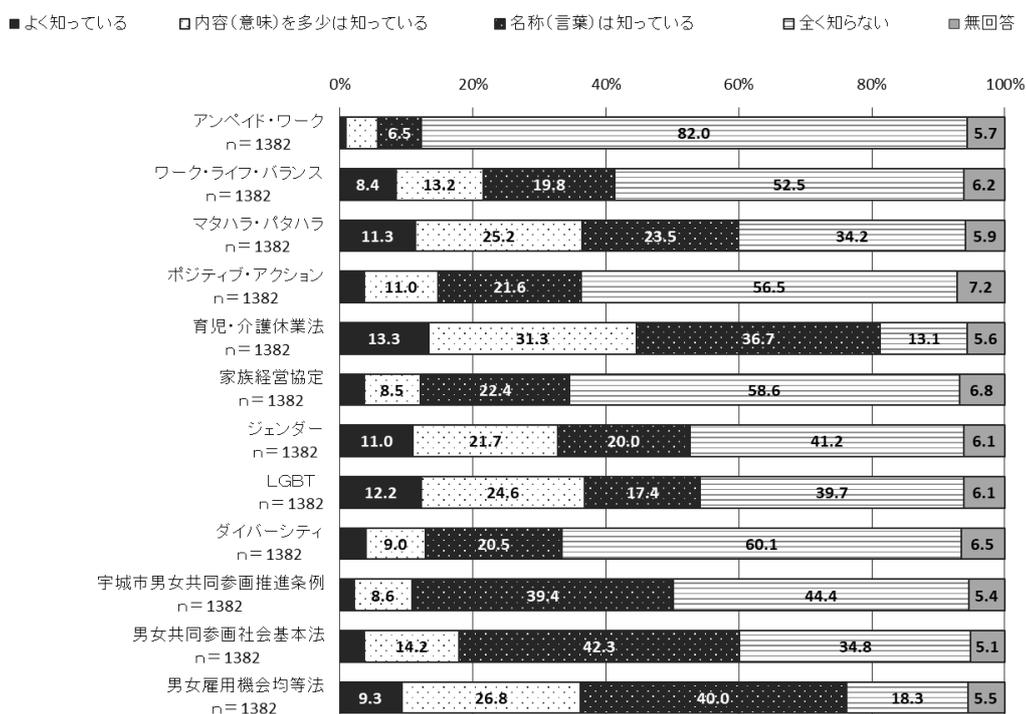


### (3)男女共同参画に関する用語の認知度

問 26 次の言葉のうち、あなたは見たり聞いたりしたことがありますか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。  
(○はそれぞれ1つずつ)

男女共同参画に関する用語について12項目の認知度をたずねた。

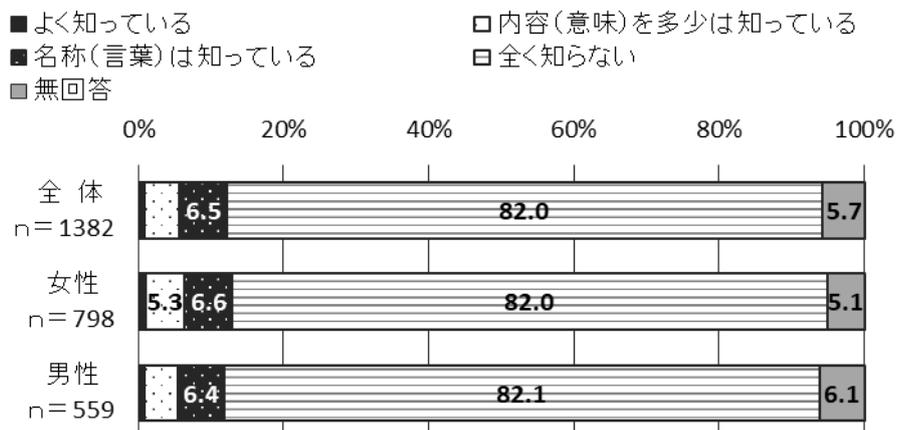
『認知度』(「よく知っている」+「内容(意味)を多少は知っている」+「名称(言葉)は知っている」)をみると、「育児・介護休業法」が81.3%で最も高く、これに次ぐ「男女雇用機会均等法」(76.1%)、「マタハラ・パタハラ」(60.0%)、「LGBT」(54.2%)「ジェンダー」(52.7%)「宇城市男女共同参画推進条例」(50.2%)では、いずれも過半数の回答を得ている。一方、認知度が低いもの(「全く知らない」)では、「アンペイド・ワーク」(82.0%)、「ダイバーシティ」(60.1%)、「家族経営協定」(58.6%)、「ワーク・ライフ・バランス」(52.5%)となっている。



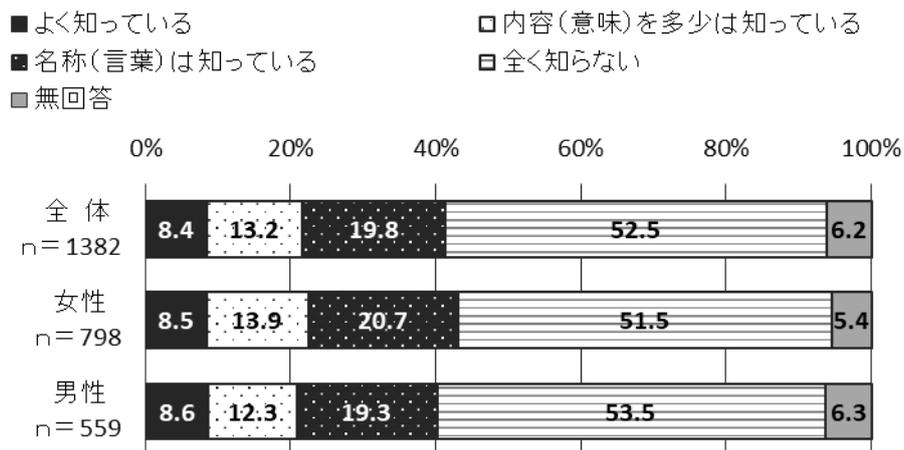
#### 【性別】

性別にみると、全体に女性の方で認知度がやや高くなっているが、「家族経営協定」については、男性の認知度が高くなっている。

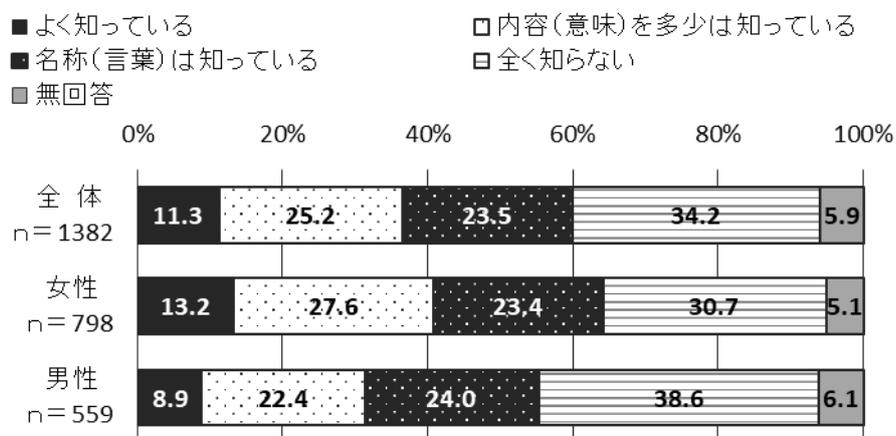
#### ○アンペイド・ワーク



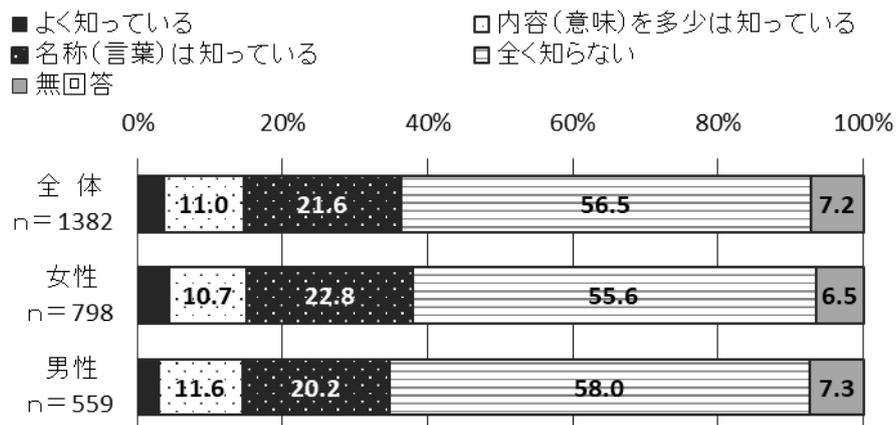
## ○ワーク・ライフ・バランス



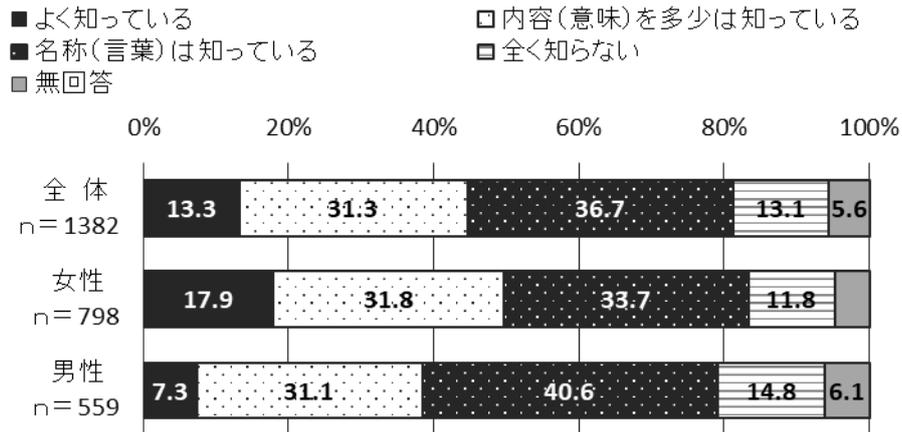
## ○マタハラ・パタハラ



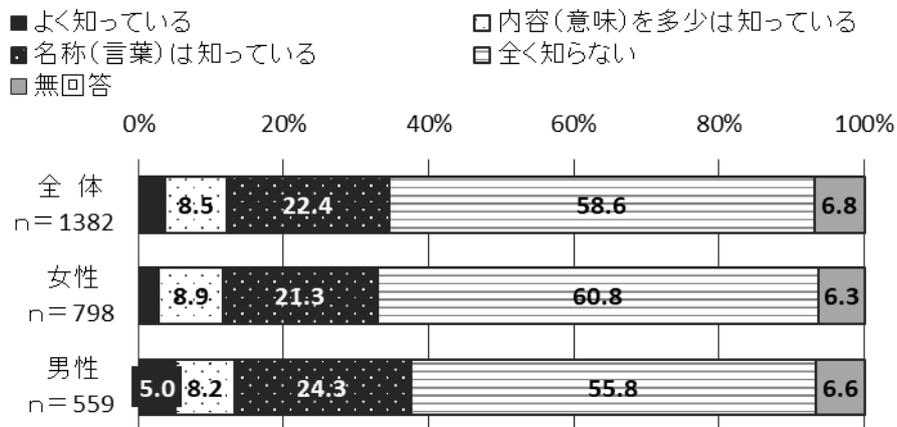
## ○ポジティブ・アクション



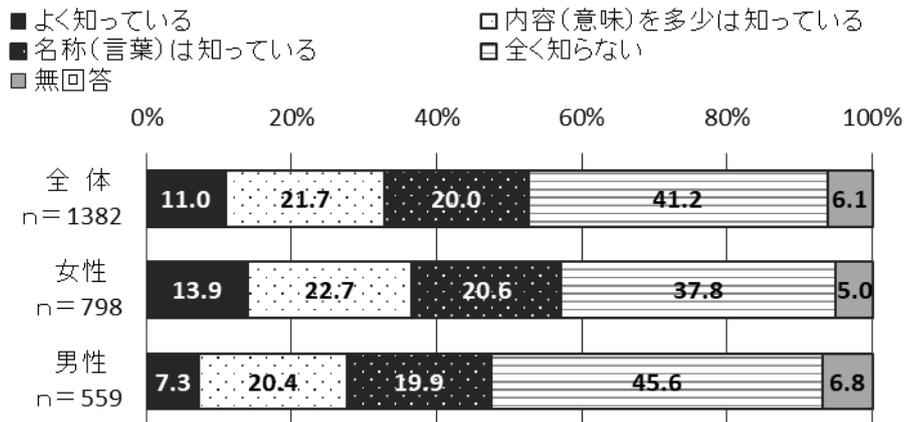
## ○育児・介護休業法



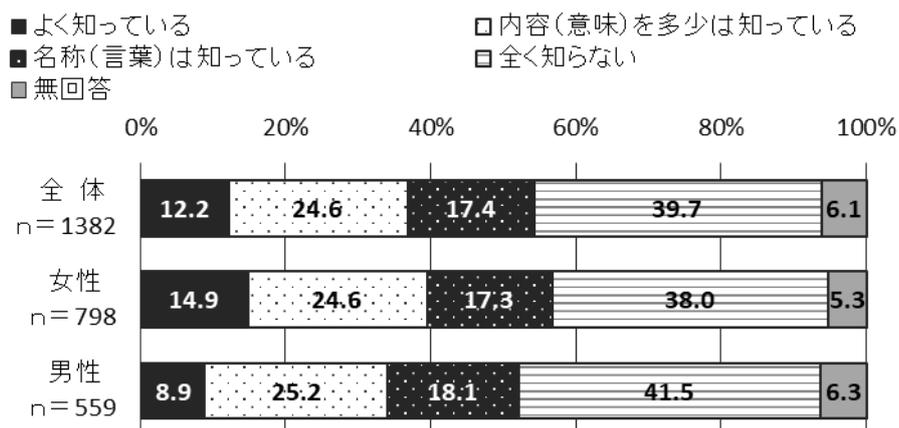
## ○家族経営協定



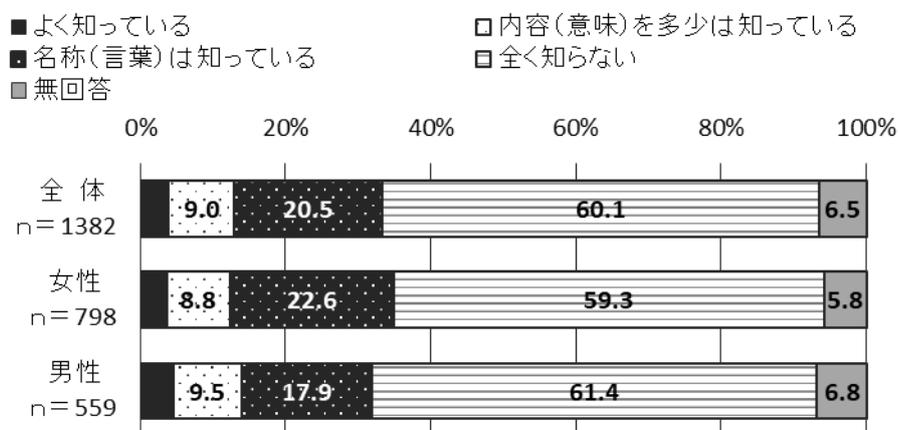
## ○ジェンダー



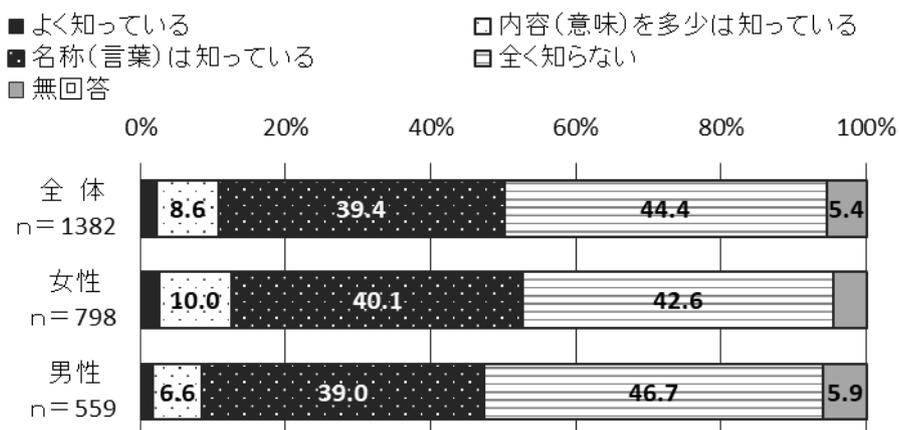
## OLGBT



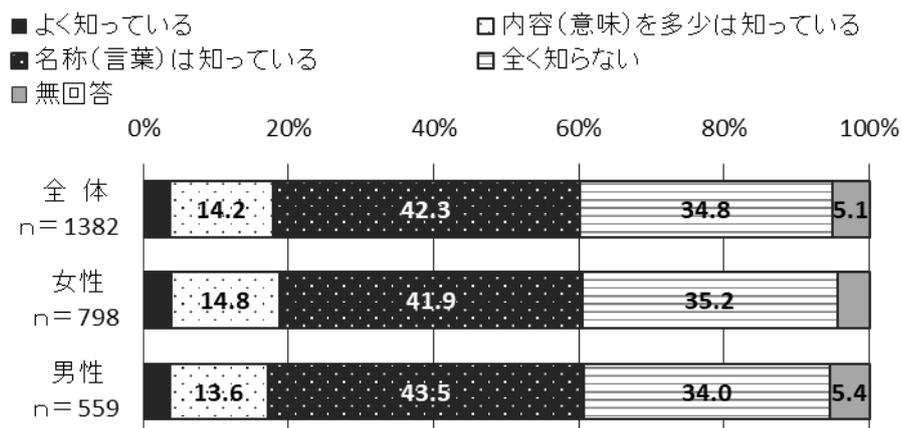
## ○ダイバーシティ



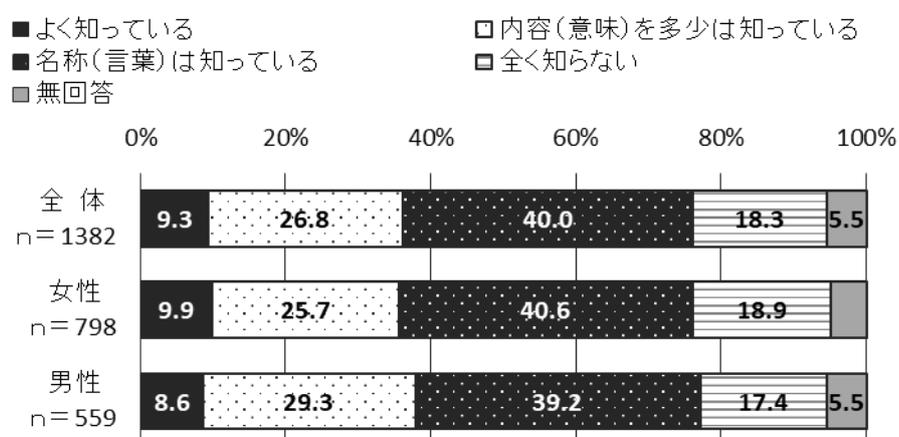
## ○宇城市男女共同参画推進条例



## ○男女共同参画社会基本法



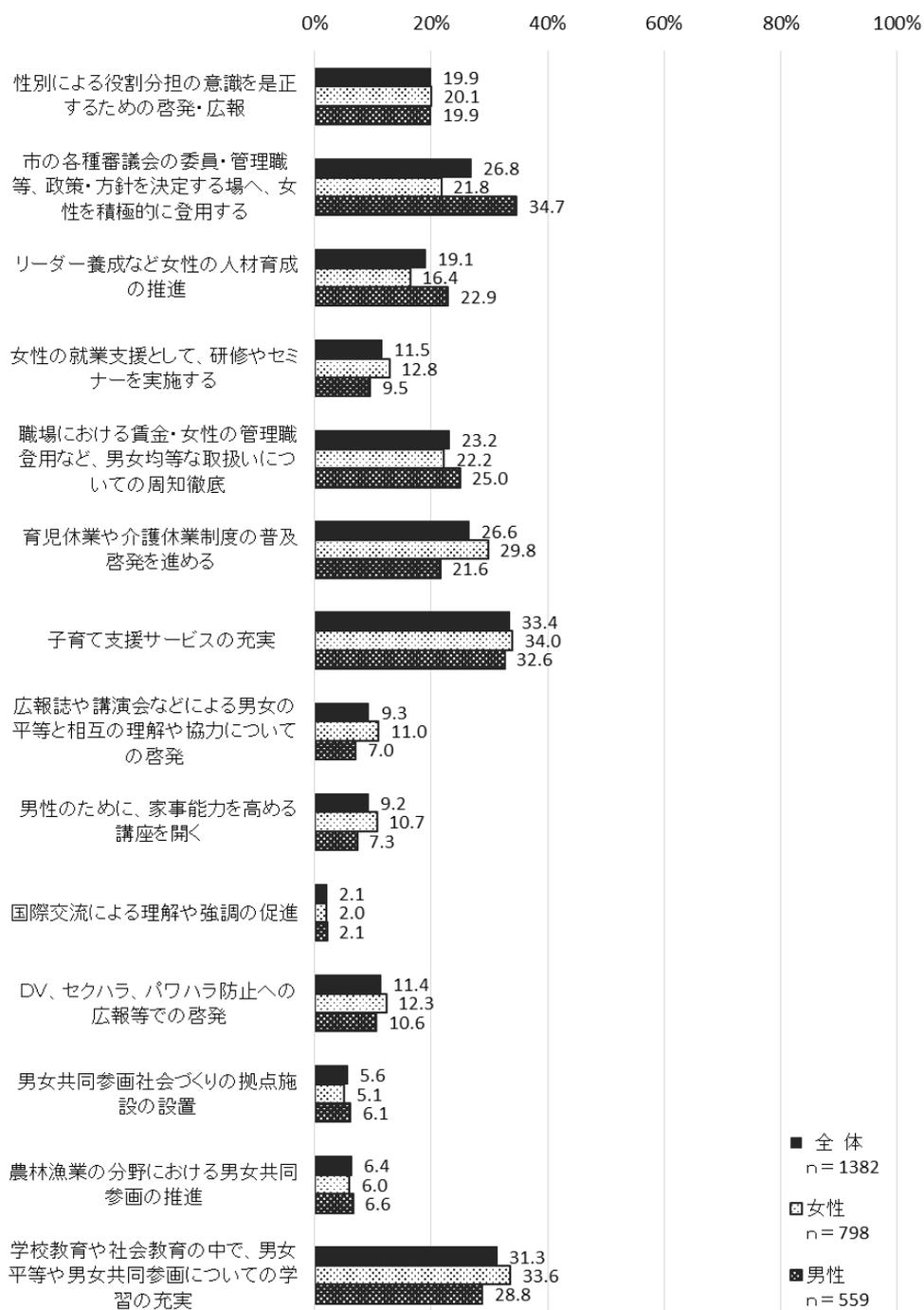
## ○男女雇用機会均等法



## (4)宇城市の施策に望むもの

問 27 「男女共同参画社会」を実現していくために、宇城市の施策に望むものは何ですか。あてはまる番号に○をつけてください。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。(○は3つまで)

男女共同参画社会を実現していくために、宇城市の施策に望むものとしては「子育て支援サービスの充実」(33.4%)が最も多い。次いで「学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習の充実」(31.3%)、「市の各種審議会の委員・管理職等、政策・方針を決定する場へ、女性を積極的に登用する」(26.8%)、「育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める」(26.6%)、「職場における賃金・女性の管理職登用など、男女均等な扱いについての周知徹底」(23.2%)、「性別による役割分担の意識を是正するための啓発・広報」(19.9%)が続いている。



【性別】

性別にみると、女性では「育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める」の割合が高く、男性では「市の各種審議会の委員・管理職等、政策・方針を決定する場へ、女性を積極的に登用する」「リーダー養成など女性の人員育成の推進」での割合が高くなっている。

なお、「子育て支援サービスの充実」については、性別にかかわらず高い割合となっている。

【性年代別】

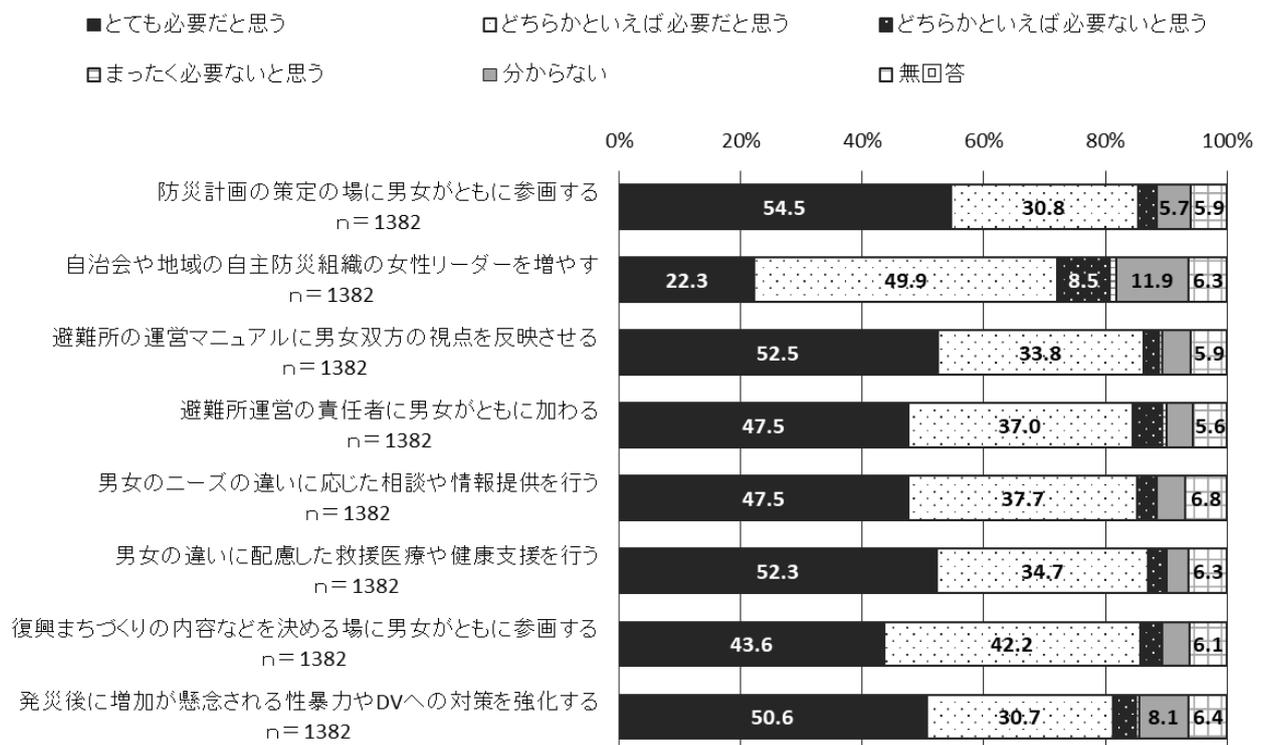
性年代別にみると、女性の20歳代から50歳代と80歳代以上では「育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める」との回答が他の年代層よりも多い。20歳代から30歳代までは「子育て支援サービスの充実」が多くなっている。一方、男性の20歳代から40歳代までは「子育て支援サービスの充実」が他の年代と比べ高くなっている。このほか、50歳代から80歳代以上では「市の各種審議会の委員・管理職等、政策・方針を決定する場へ、女性を積極的に登用する」が他の年代と比べ高くなっている。

	全体	性別による啓発・広報	市の各種審議会の委員・管理職等、政策的に登用する	リーダー養成など女性の人材育成の推進	女性の就業支援として、研修やセミナーを実施する	職場における賃金・女性の管理職登用徹底など、男女均等な取扱いについての周知徹底	育児休業や介護休業制度の普及啓発を進める	子育て支援サービスの充実	相互の理解や協力についての啓発	広く報誌や講演会などによる男女の平等と開く	男性のために、家事能力を高める講座を	国際交流による理解や強調の促進	DV、セクハラ、パワハラ※防止への広報等での啓発	男女共同参画社会づくりの拠点施設の設置	農林漁業の分野における男女共同参画の推進	学校教育や社会教育の中で、男女平等や男女共同参画についての学習の充実	その他（具体的に）	特にな	無回答
全体	1382	19.9%	26.8%	19.1%	11.5%	23.2%	26.6%	33.4%	9.3%	9.2%	2.1%	11.4%	5.6%	6.4%	31.3%	1.5%	5.9%	5.1%	
■性年代別																			
女性	20歳代	49	12.2%	16.3%	14.3%	8.2%	28.6%	36.7%	65.3%	2.0%	8.2%	2.0%	14.3%	6.1%	6.1%	24.5%	4.1%	2.0%	0.0%
	30歳代	82	24.4%	13.4%	15.9%	14.6%	23.2%	37.8%	57.3%	7.3%	17.1%	2.4%	8.5%	2.4%	3.7%	24.4%	1.2%	1.2%	2.4%
	40歳代	112	27.7%	22.3%	12.5%	12.5%	28.6%	34.8%	34.8%	9.8%	8.9%	2.7%	9.8%	6.3%	5.4%	30.4%	0.9%	4.5%	0.9%
	50歳代	143	23.1%	23.1%	17.5%	11.2%	23.8%	30.1%	30.8%	9.8%	9.1%	2.1%	14.0%	7.0%	5.6%	35.0%	1.4%	2.8%	2.1%
	60歳代	191	19.4%	25.1%	17.8%	16.8%	22.0%	24.6%	35.6%	14.1%	9.9%	1.0%	12.6%	5.2%	6.8%	39.8%	0.5%	4.7%	3.1%
	70歳代	171	15.8%	20.5%	18.7%	11.1%	15.8%	25.7%	17.5%	14.0%	12.3%	1.8%	12.9%	4.1%	5.3%	36.3%	1.2%	9.4%	8.8%
80歳代以上	46	13.0%	28.3%	13.0%	8.7%	19.6%	30.4%	17.4%	10.9%	6.5%	4.3%	8.7%	4.3%	13.0%	28.3%	2.2%	10.9%	13.0%	
男性	20歳代	36	13.9%	11.1%	22.2%	13.9%	25.0%	25.0%	41.7%	0.0%	8.3%	11.1%	19.4%	5.6%	2.8%	25.0%	0.0%	8.3%	5.6%
	30歳代	47	10.6%	29.8%	10.6%	10.6%	31.9%	25.5%	42.6%	6.4%	8.5%	2.1%	10.6%	4.3%	6.4%	27.7%	8.5%	4.3%	4.3%
	40歳代	79	15.2%	27.8%	25.3%	10.1%	30.4%	22.8%	41.8%	2.5%	8.9%	1.3%	13.9%	2.5%	5.1%	26.6%	1.3%	10.1%	3.8%
	50歳代	74	28.4%	32.4%	27.0%	6.8%	20.3%	23.0%	35.1%	6.8%	6.8%	2.7%	10.8%	5.4%	5.4%	39.2%	1.4%	6.8%	0.0%
	60歳代	134	22.4%	45.5%	19.4%	11.2%	29.9%	25.4%	33.6%	8.2%	4.5%	0.0%	9.0%	7.5%	7.5%	29.1%	1.5%	4.5%	4.5%
	70歳代	150	18.7%	38.0%	26.0%	7.3%	18.0%	17.3%	26.0%	9.3%	6.0%	2.7%	7.3%	7.3%	9.3%	26.7%	2.0%	8.7%	9.3%
80歳代以上	38	26.3%	31.6%	26.3%	7.9%	26.3%	13.2%	10.5%	10.5%	15.8%	0.0%	10.5%	7.9%	2.6%	26.3%	0.0%	7.9%	15.8%	

## 12. 熊本地震や復興関連について

問 28 平成 28 年 4 月の熊本地震発災時、男女のニーズの違いを踏まえた避難所の対応などが十分には行われず、過去の大規模な災害（阪神・淡路大震災や東日本大震災等）の教訓が一部生かされなかったという問題がありました。今後の大規模災害に備え、「性別による違い」に配慮した取り組みはどの程度必要だと思いますか。(1)～(8)についてあなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。(○はそれぞれ1ずつ)

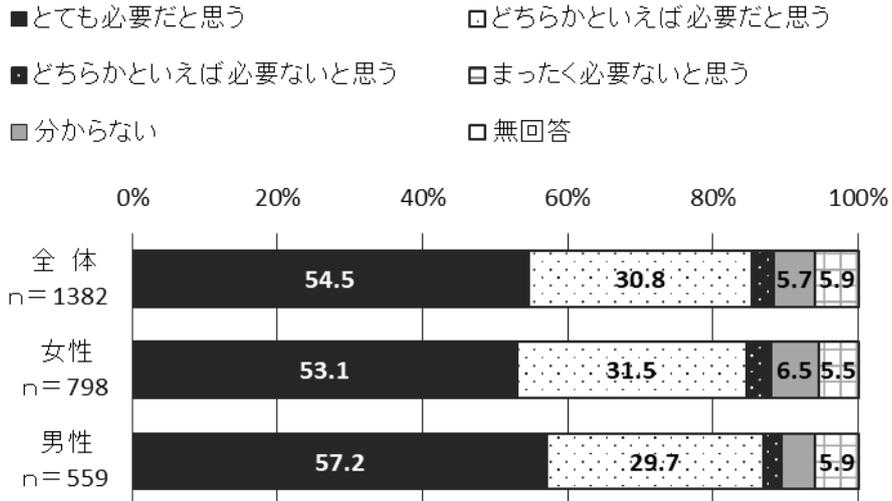
災害時や被災前の準備として必要なことをたずねた。『必要なこと』（「とても必要だと思う」+「どちらかといえば必要だと思う」）をみると、「男女の違いに配慮した救援医療や健康支援を行う」が 87.0% で最も高く、これに次ぐ「避難所の運営マニュアルに男女双方の視点を反映させる」（86.3%）、「防災計画の策定の場に男女がともに参画する」（85.3%）「男女のニーズの違いに応じた相談や情報提供を行う」（85.2%）では、いずれも 85%以上の回答を得ている。一方、『必要ないこと』（「まったく必要ないと思う」+「どちらかといえば必要ないと思う」）では、「自治会や地域の自主防災組織の女性リーダーを増やす」で 9.7%とやや回答が多くなっている。



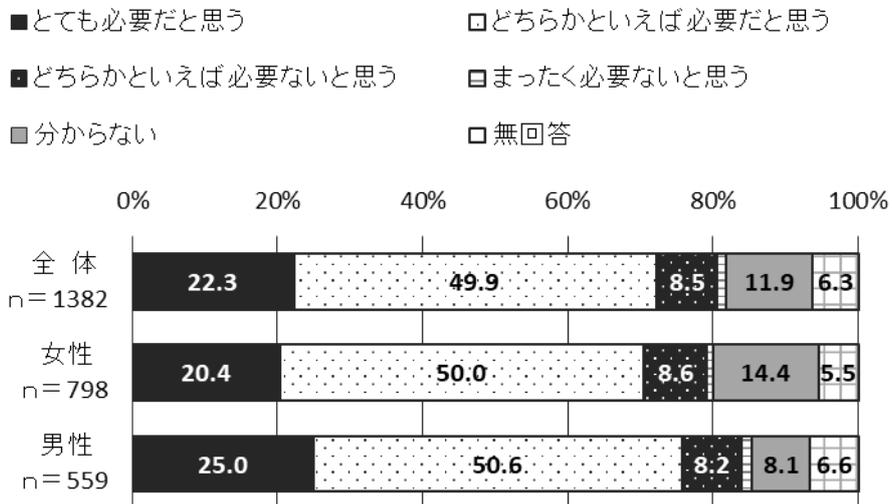
### 【性別】

性別にみると、ほとんどの項目で全体と同じような傾向がみられたが、「自治会や地域の自主防災組織の女性リーダーを増やす」については『必要なこと』の割合が男性のほうがやや高くなっている。

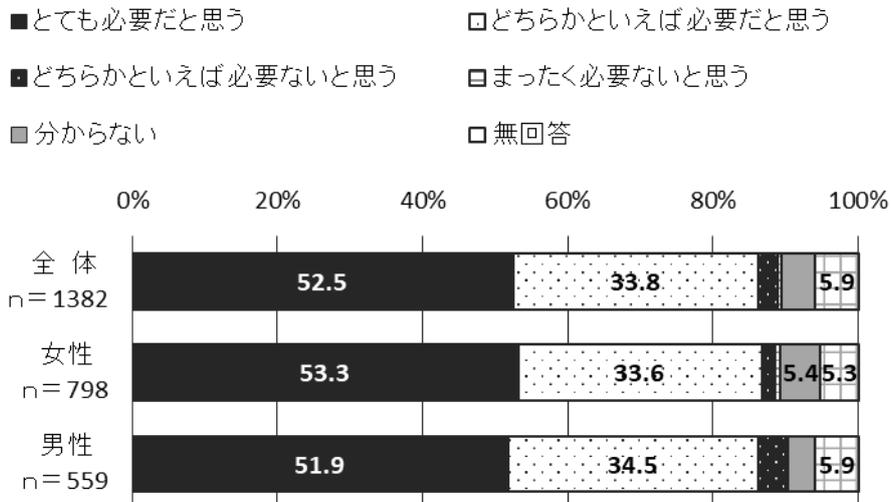
○防災計画の策定の場に男女がともに参画する



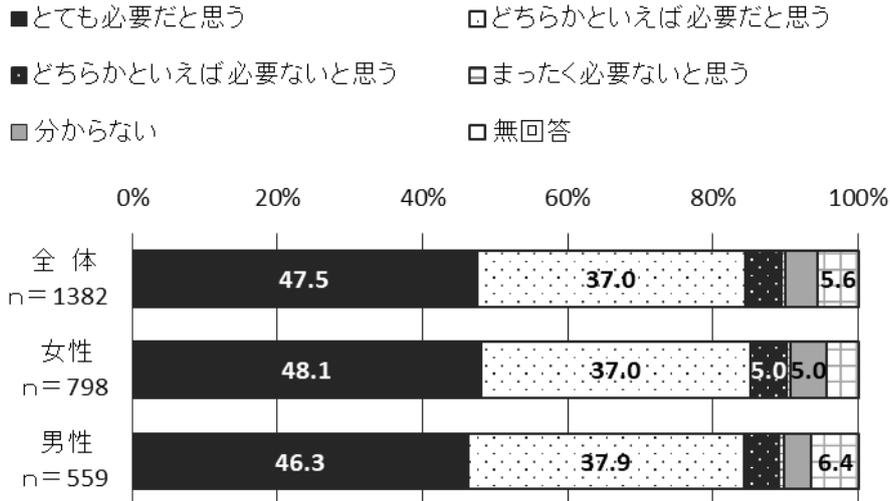
○自治会や地域の自主防災組織の女性リーダーを増やす



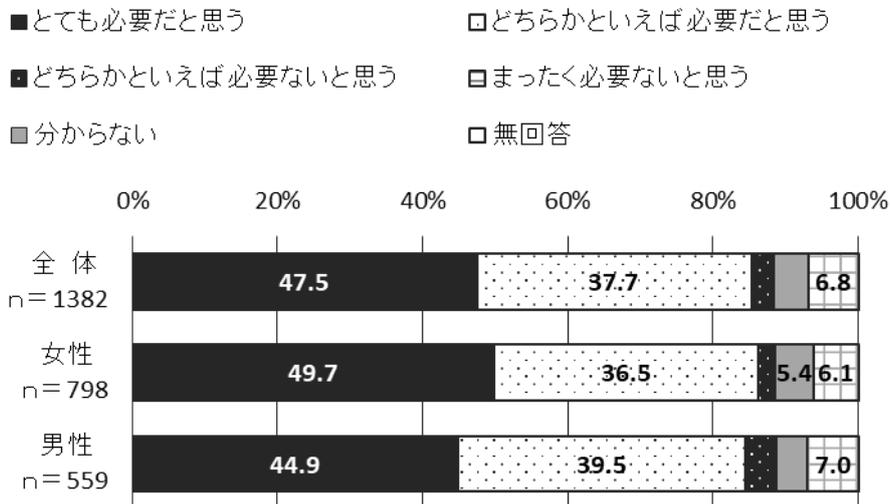
○避難所の運営マニュアルに男女双方の視点を反映させる



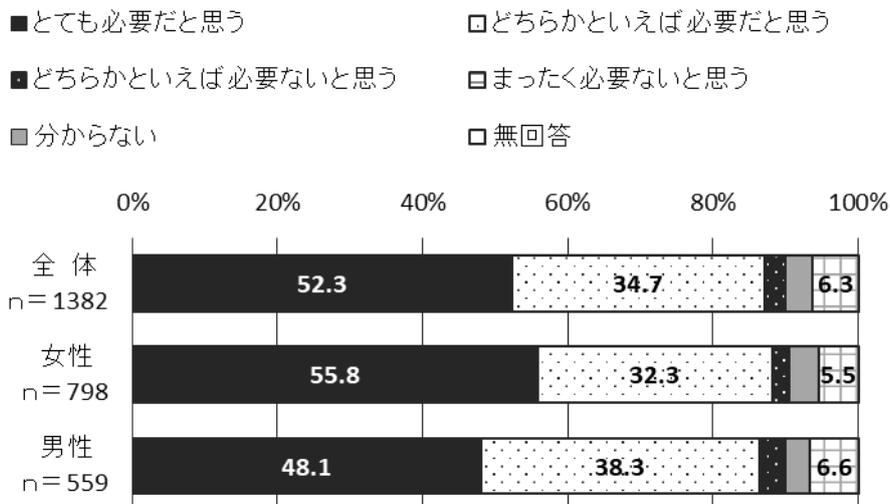
○避難所運営の責任者に男女がともに加わる



○男女のニーズの違いに応じた相談や情報提供を行う

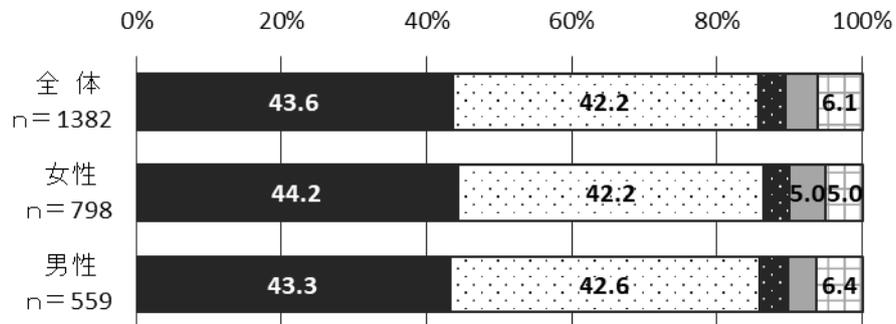


○男女の違いに配慮した救援医療や健康支援を行う



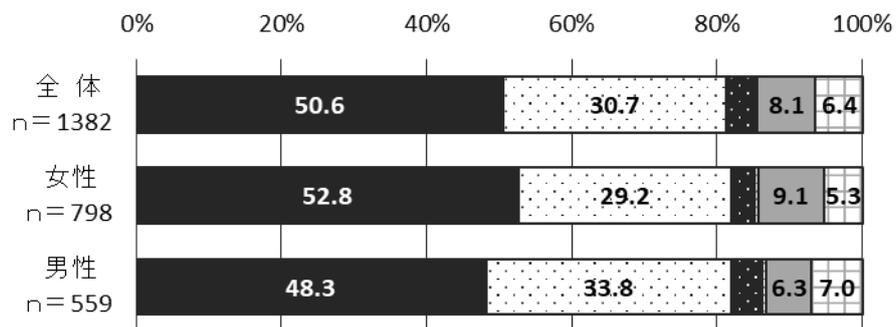
○復興まちづくりの内容などを決める場に男女がともに参画する

- とても必要だと思う
- どちらかといえば必要だと思う
- どちらかといえば必要ないと思う
- まったく必要ないと思う
- 分からない
- 無回答



○発災後に増加が懸念される性暴力やDVへの対策を強化する

- とても必要だと思う
- どちらかといえば必要だと思う
- どちらかといえば必要ないと思う
- まったく必要ないと思う
- 分からない
- 無回答



自由記述 男女共同参画に関するご意見やご要望をご自由にお書きください。

自由記述	性別	年代
今の各部署の「長」の方々はまだまだ男だから、女だから、男のくせに、女のくせに、という世代だと思います。そのあたりと各地区の区長さん役員さんあたりが若返ってくると男女平等の意識は定着してくると思います。	女性	50 歳代
(個人的には)生活の中で男女の不平等についてあまり不便を感じず、恵まれているのか男はこうだ。女はこうだ。と意識付けられた。→わからないうちに意識づいた？のか自分のこだわらない性格なのか。とにかくあまり不便な思いがないので関心が薄いところがあるかも知れない。家庭の中でも夫より自分の負担が明らかに大きい、向き不向きだと思ひあまり重要視していないところがあるかも知れない。(社会全体でみれば)まだまだ男女平等の問題は根強く感じる。自分に被害はなくても、前向きに考えていきたい問題である。	女性	40 歳代
言葉の暴力は女性の方がひどかったりする。	女性	50 歳代
男女共同参画社会 初めてしみじみ考えて記入してみました。今の処 何の対策もなく、意見もわいてきません。はっきりしている処は男性には男性の良さがあり、女性には女性の良さがあると思います。各自がそれぞれのことに対して自覚し、行動する事たすけあい認めあえば、その時々が良い解決法が見つかるのではと思います。	女性	60 歳代
男性が矢面に立つことで計画が進む場合がある。男女共同参画はそのような場面で女性を矢面に立たせ責任を負い女性を冷遇するということでもある。私は一向にかまわない。	男性	30 歳代
問 26 の答にあたり、カタカナ文字の意味が分からなかった。私も含め昔から農林水産業に従事する人達にとっては、現代社会になかなか理解しづらいなじめない理由の一つとして行政が一方向的に使う言葉にも問題があるのでは？是非日本語を使って啓発を行って頂きたい。	男性	60 歳代
個々の意識の問題	男性	70 歳代
名称は知っていたが具体的にどういう事をしているのか知らなかった。これからもっと意識して、やっていきたいと思った。	女性	60 歳代
・年齢が上がるにつれて、男女の格差に対する、意識の違いがあると感じる。 ・子育てをする身なので、男性の育児休業がとりやすい社会になればと強く希望する。 ・この調査が今後の社会の役に立つことを願う。	女性	30 歳代
男は仕事女は家事育児という考え方が未だに解消されていないと思われる。例えば男性が炊事の茶わん洗いなどをしていると発言すると「協力的でいいですね」と言われる。男女が色々な家事を協力してやるのは当たり前で女性が茶わんを洗っているといっても協力的ですねとも思われもしない「この人ちょっとおかしいんじゃない」と思われるが関の山そんな「慣習」が未だに残っているのが残念。それが社会生活にも影響しているのではないかとと思われる。	女性	70 歳代
今回の調査票の内容は女性という言葉が多く使用され、女性上位にとらえ、男女平等ではなかったのではないかと思います。(女性目線の内容が多かった)	男性	40 歳代

<p>・日本人の社会にふさわしい男女共同参画社会への政策の目標は描ききれてい ますか。家庭や職場、地域差は気での男女の役割は全く平等ですか。性差による役割 の違いを認め尊重しますか。</p> <p>・日本社会が目指したい世界のモデルはありますか。</p>	男性	70 歳代
<p>何でもかんでも男女同じはないと思いました。チカラの差もある。女性にできて男性 にできて、それぞれにであって、体が命がある限り大切にできるような優しい環境作 りがいいのかなあとと思いました。体を大切に頑張りすぎないようにです。1つ1つ…。</p>	女性	20 歳代
<p>都会と地域の格差は、すべてにおいて著しく。男女間の格差は特に、明治時代から 少しは進んだのか?!と云う程だ。農家の嫁と云う立場はもっと酷い。農業従事者で 嫁で同居と云う立場の人たちは最悪である。只。一番の問題点は女性本人の自覚 の無さであろう!! 申し訳ないがこの様なアンケートが来ると「紙の無駄では?!」と 思ってしまう。パフォーマンスはもううんざり。</p>	女性	60 歳代
<p>男女の性別をこえての共同参画には長い時間がかかると思います。まず近々子供 の数を一人でも多くなる様、男女の役割分担を同等にできる様、若い世代に多くの税 金をつぎこみ、男女をこえて子育てに充分かかわれる様、市のサポートを充実させて ください。地震・自然災害の避難所と親せき、知人等の避難と車中泊、車中泊もトイ レが有り安全な所(市の施設等)の指定をしていただきたいとします。</p> <p>・どうしても避難所に行けない方がたくさんおられます。よろしくお願ひします。</p>	男性	50 歳代
<p>アンケート結果がどのように反映されるか見える化をしていただけるとありがたいで す。</p>	男性	20 歳代
<p>このアンケートは視点がずれていると思います。</p>	男性	70 歳代
<p>若い人の間では男女間の差はあまり感じることは少ないが、年配の方は男女ともに 男性を優遇するのが当たり前だという意識が深く根付いているように思う。</p>	女性	40 歳代
<p>私たちの時代(世代)はどうしても男女の差が強い社会で生きてきました。この次生 まれてくる時は男性に生まれたいとも思いました。</p> <p>今は簡単に離婚が多いですが、子供のことを考えると可愛そうです。本人(親)の自 由、幸せばかりを願って、離婚し又結婚し又子供が出来、その子供たちは色々な問 題の中で生長していき、本当の愛も受けないで大きくなり自分も同じ(親と)繰り返 して一生を…</p> <p>男女共同と言っても男は男らしく、女は女らしく、子供は子供らしくありたいと願いま す。宇城市(特に松橋)は大好きです。大きな発展を願っています。</p>	女性	70 歳代
<p>男女が平等できちんとした扱いを受ける事が社会を大切にするという一歩につな がると思う。これからもアンケートを通じて意見を書くことが大事だと思った。</p>	女性	20 歳代
<p>私たちの意見や要望が少しでも反映していただける事を願います。少しずつ世の中 は変化しているのですが、まだまだ理不尽な出来事が多いと思います。皆様のご 苦勞に感謝いたします。返信用の封筒が小さいですね。</p>	女性	70 歳代
<p>私達の親世代と比べると随分女性の社会進出も増えてきたように感じますが、その 背景に男性のサポートがあったのかどうか…とします。</p> <p>女性の負担が少しでも減るように家事・育児・介護・学校や保育園活動への参加・近 所づきあい等々男性にはもう少し頑張っていていただきたいと願っています。ひいては</p>	女性	30 歳代

私たちの子ども世代は今よりももっと住みよい社会になりますよう行政の方々の益々のご活躍を期待しています。		
私は今子育てをしている世代で、男女の区別をしている人は少ないと思います。どちらかというと、子育てを終え、孫やひ孫がいる世代の方が男女という枠に厳しい印象です。実際そこで苦しんでいる人の話を聞くこともあります。すべてが悪いとは思いませんが、考えを柔軟に…と思います。	男性	20 歳代
宇城市は子供が育てにくい環境。子育て世代のことをもっと考えてほしい。男性は仕事、女性は家庭・育児等の考え方を持っている人が非常に多い。働きやすい環境を整えてほしい。	女性	30 歳代
家庭の中で男女同じように育てることが最も大切だと思います。	女性	70 歳代
男性にしか出来ないこと、女性にしか出来ないこと各々あるので自覚を持って社会へ参加する。なんでも男女平等ということはないのでは？基本的に種類の違う人種ですから。	女性	70 歳代
生まれ持った身体的な性別は女や男ですが、性的マイノリティの方もいらっしゃいます。女性で、しかもある一定の期間だけ、子供を産む能力を持つ人に対し、家族も社会も今よりももっと優しくなってほしいと思います。子供を産むことは女性にしかできません。子育てだけでなく、社会で生活している私たち皆がお互いに助け合って思いやって生活することが大切だと思います。今よりもさらに住みやすい宇城市なって、住み続けたいと思う人が増えることを願っています。	女性	50 歳代
80才以上になると余り関心がない。	男性	70 歳代
”男性”、”女性”の枠ではなく基本「人として」してはならない事、互いに助け合う事に着眼した方が良いと思う。	男性	50 歳代
女性の地区の相談役を決めておく	男性	70 歳代
女性が中心となった取り組みをメディアを通して広報し、男女の格差をなくしていくような意識付けをしていくことが大切だと思う。	男性	30 歳代
勤務する職場の環境次第だと思います。以前勤務していた職場では出産の2日前まで仕事し、3カ月で職場復帰。日頃から有給取得の環境がなければ、育休を申出るとは解雇につながります。私はそこで14年間ほぼ有休を取らず2人の子を出産し育てました。今は新しい職場に変わり、平等であること、権利を主張できる環境にあります。女性が社会に参加することができるには、その人その人の環境次第であると強く思います。	女性	40 歳代
お疲れ様です。調査後の集計やそれを施策に反映させるのが今後大変なことと思います。問28の(5)(6)に「男女のニーズ…」「男女の違いに…」の文面がありますが「男女」にジェンダーの視点が入っていることを願います。	女性	60 歳代
以前とは比べられないほど進んできたと思います。(80才になりましたから)	女性	70 歳代

・設問が多すぎたと思いました。男女共同参画社会の深い思いが良く理解できていません。	女性	50 歳代
・結婚して子供がいるのは当たり前のような質問は気になりました。		
大人の意識を変えるのは難しい。学校教育の段階で意識付けしていく必要があると考える。	男性	40 歳代
とにかく歳月がかかると思います。古風な習慣とか、こだわりがある田舎では特にあります。良い事は取り入れて、悪い事ははっきり言うことの出来る子供を育てるということです。とにかく姑はおとなしくして下さい(家の内では)趣味を生かせる老人になる事だと思います。 もっと老人が活躍できる場を作る事ではないでしょうか。老人から言わせるとそこまで行くタクシーがないと良く言われますが、乗り合いタクシーなど行政で準備していただければありがたいと思います。	女性	60 歳代
問26のように横文字を使った政策や活動用語が多いが意味がわからない。もっとそのまの意の分かる言葉を使うようにしてほしい。	男性	60 歳代
私が結婚・子育てをした時代は、まだまだ男は仕事。女は家庭という考えが強かったです。(私自身は自分の子どもは3才までは自分で育てたいという考えを持っていたので出産を機に仕事を辞めました。)そして子供の成長に合わせて、少しずつ仕事を始めました。今の世の中は、いろんな選択肢があるように思います。私にはよくわかりませんが、みんなが一人の人間として尊重しあうことが大切だと思います。	女性	60 歳代
私個人の意見として、女性は本当に社会に進出したいのか？という疑問があります。勝手にそういう風に意識され社会全体で女性は進出すべきだ！という風に考えられているのもまた違うかなと思います。もちろんそういう意見もあるし、必要だとは思いますが、“意識すぎ”な部分があるのかなと感じます。	女性	20 歳代
男女共同参画セミナーに参加する機会がありましたら参加して理解を深めることができると思いますが…。	女性	50 歳代
・私も含め高齢者の家族が周囲に多く、地震発生時どこへ行くのか全く分からず、地域の助け合いがない所で今後どうすればいいのかいつも考えています。 ・町の広報回覧必要なことはメモをしたりカレンダーに記録し行動をしています。 ・これからは参加できることは勉強したいと思います。	女性	70 歳代
家族で協力しあう事からの一歩では？	男性	60 歳代
現役を引退したものにはわかりませんが、情熱と責任感があればよくなると思います。	男性	60 歳代
今回行われた調査が「計画作成のため」「評価のため」だけに活用されるのではなく、宇城市の具体的な取り組みや政策に反映されることを切に願います。男女共同参画というテーマに関わらず、マイナー(マイノリティ)の方の声をしっかり汲み取り、誰もとりこぼさない行政運営となることを願っています。	男性	30 歳代
そもそも男と女は体のつくりも違い、置かれているポジションが異なる為、男にしかできない事、女にしかできない事をはっきり認識した上で差別ではなく区別をしてそれぞれの能力を発揮した方が良いと思います。	女性	50 歳代
女性が積極的に気軽に参加できる雰囲気、空気づくりが必要	男性	40 歳代

男女の枠を超えて、1人の人間としての適性、適材・適所を考えるべきだと思います。その人の能力を生かす仕事や役割を与えられたら、人は輝くと思います。未だに「男女共同参画」とは…これからAIによる適性検査等もあると思いますが、周囲の人の希望に自分を殺して自分自身も気づかず、それに合わせている人も多いと思います。農家でも長男だからと家を継ぐ人も減ってきているので、やはり社会的な組織が必要なのでは？	女性	60歳代
昔からの社会通念・しきたり・慣習が職場、地域に根付いている。意見が言いづらい風潮がある。	男性	40歳代
男女の役割、ニーズも個々に違うと思います。性別を問わずそれぞれが意思を持って頑張ればその道に進める環境づくりが重要だと思います。	男性	50歳代
人(生物)は何故男女があるのかそれはただ生殖の為だけではなく、各々にふさわしい役割があるはずだ。すべて同等ではなくお互い良いところを活かしていけば良い。「男は男らしく、女は女らしく！！」	男性	70歳代
4でとても必要だと思うに〇をしましたが、今のままでは無理だと思います。女性の負担が今現在大きすぎると思います。(仕事をして、家事、育児など)その上で防災計画の策定がいろいろな会議に出ると言うのは無理だと思います。今の男性(父親)たちの考えから(今徐々に変わっていると思う)変わらないと男女共同参画など、絵に描いた餅でしかない。 色々決めたりするのは男50:女50が良い。今は男の比率がどうしても多いので家庭の事などへの配慮がないように思う。子供が小さい時には、仕事や飲み会など2の次で家庭を大事にすべき子供は小さい時にしか相手してくれません。男性がもっともっと家庭の事(家事・育児)ができるようにならないと何も変わりません。	男性	30歳代
男性は仕事、女性は家事・育児という考え方、わからないでもない。男性みたいに仕事で稼いでは来られないし、普段、家事・育児を主にしている女性は家庭が心配で任せきれない。各々、思うことはあるかもしれないが、しょうがないという思いもあり、その中で生活していつている。家庭が丸くおさまるなら多少の我慢も必要だと思う。	女性	30歳代
時代の流れで何事も男、女しなければいけない…とは言えませんが、女性が働く為には男性・両親。家族の協力が必要だと思います。	女性	60歳代
男女平等という言葉は以前から耳にしています。最近では同一労働・同一賃金という言葉もよく耳にしますが、現実言葉通り実社会において程遠いものと感じています。男女共同参画等あらゆる機会に男女それぞれの能力を発揮できる場所、また市民の人権を守り安心して生活が出来る宇城市であってほしいと思います。	女性	60歳代
どちらかというとな性の方がしっかりとした考えをもっていると思います。自然発生的に女性のリーダーが増えていけばいいと思います。	男性	50歳代
宇城市では男女が共に活躍し、男女のそれぞれの特性はありますが、男女の差を意識することのない市になってほしいです。基本は考え方です。	女性	50歳代
幼いころからの教育が必要だと思います。	男性	50歳代
男女という枠ではなく、個人個人が自由に発言したり、生活できる社会が理想だと思うので、男女とかの文字を使わずに済む社会になるように皆でガンバリましょう。	女性	40歳代

<p>年齢が70歳以上の者ですので、現状には参考にならないのではと思います。社会の激変について行けなく、こわい社会になるようです。</p>	女性	70 歳代
<p>男女関係なく、人が人として、いじめ、差別をなくし皆が住みやすい町づくりが大事だと思います。高齢者に声をかけたり、町一帯が繋がり、安心して生活できる事が、これから災害にも助け合って共存していくことが望ましいと思います。</p>	男性	30 歳代
<p>宇城市において男女共同参画がどのように活動されているかがよくわからないところがあります。もっと広く広報誌などで具体的に知らせてもらいたい。意識改革も大切ではないかなと思います。コロナ後の DV などを TV などで聞きますが、宇城市では大丈夫でしょうか。何らかの方法で調査などされてはいかがでしょうか。</p>	女性	60 歳代
<p>社会生活・地域・家庭ともども男女参画が基本とっております。助け合い・譲り合いの精神を持って行きたいと思います。</p>	女性	70 歳代
<p>・今の宇城市では、保育園に入れたい＝母親が仕事に行けない！！声がたくさん聞かれます。子供の数は少ないのにどうしてなかなか入れないのでしょうか？昔は子供の数も多かったが簡単に入れたような気がします！ ・DV については、DV する人には性格の問題があると思います。なかなかおらない。</p>	女性	50 歳代
<p>満70才を目前にして思うのは、”日本はいつからこうなった…”と言う事です。時代は流れているのだとはわかっているつもりですが、特に子供たちに対してメディアの露出の内容があまりにもと思うことが多々あります。そして世の中があまりにもお金を得ることに向き過ぎているのでは？</p>	女性	60 歳代
<p>男女共同参画に関する会合に一般市民参加の開催はあるのか。あまり聞いたことはないのです。</p>	男性	70 歳代
<p>権利主張は重要であると思う。しかし、過剰に振りかざす者もいる。過剰に振りかざす者が目立ってしまい、印象が悪く見えているのかもしれない。男女共同参画は大変重要です。バランスを取り正しい知識意識が多くのの人々に身につけてほしいですね。皆で協力できる世の中へ。</p>	男性	30 歳代
<p>セクハラについての質問が主でパワハラについては？セクハラは以前に比べれば格段に少なくなっていると思います。ただパワハラはかなりあると思います。訴えようと考えた事もありますが、相手は”個人”では無く”会社”とハローワークの方に聞き断念。私は恵まれた会社にいますので、総務から適切に対処頂きましたが、そうではなく我慢というのが大半だと思います。※適切な対処他県への転勤、左遷でなかったのは残念ですが…” 全く関係ありませんが、捨て猫が多い様に思います。3匹までは飼いましたが次々と…。保護しても里親が見つかるかは？動物の命も同じ命です。そういう部分の啓発活動もしていただけたら嬉しいです。</p>	女性	50 歳代
<p>男性・女性というしりより、個人の考え方の違いを知って受け入れる。話し合う傾聴し、お互いを尊重するというような「個」を大切にできるような学びの場が社会に広がると良いように思います。</p>	女性	40 歳代
<p>教育の力は大きい。</p>	女性	50 歳代
<p>障がい者(知的・精神・身体)に対する取り組みを項目に取り入れて下さい。</p>	男性	70 歳代

このようなアンケートがあるまで男女共同参画に感心なんかなかったし、知らないことが多かったことに気づきました！！	女性	60 歳代
まだ社会全体が男女共同という形にはなっていない。意識の低さだけでなく、会社の組織等で改善されていないのが現実だと思う。法律にしても、女性が被害にあっても守られるに十分なものがない。明治の頃に作られたような罰則もまだそれほど変わっていない。また、九州、そして熊本という地域も男性が上といった土地柄であると思う。市議に女性が選ばれにくいのもそういった意識が強いからだ。まだまだ、男女平等には程遠い気がするが、少しずつの変化も感じつつある。啓発は大切だと思う。これからも社会を作り、取り組んで頂きたいと思う。	女性	60 歳代
男女共同参画(具体的な事例)について広報誌等で啓発していく。	男性	70 歳代
お手本となる県や市に勉強に行けたら良いと思います。	女性	40 歳代
男性も100%育休を取ることによって、就職活動が平等になると思う。問28は今まで配慮がなかったことが信じられない。行政の責任だと強く思った。こんな内容を質問することすら信じられない。当然だと思う。男性が女性を100%理解することは不可能である。逆もまた然り。色々な立場の人と意見を交換してたくさんの方の気持ちを理解することが平等につながると思う。	女性	30 歳代
男性が育休を取ると影で「〇〇が育休を取った」など言っているのを聞いたことがある。	女性	50 歳代
令和になっても男が仕事、女は家事・育児という考え方は変わっていない。祖父母やその前からそう子供の頃に植え付けられて育ったから仕方ない。しかし、女性に仕事がプラスされても、男に家事と育児がプラスされることはなく、結局男は仕事だけ、女は仕事、家事、育児が現状。まずはこの男も女も仕事、家事、育児にならないと、今後の変化は期待できないと思われる。	女性	20 歳代
男女お互いに一般的な能力差があるのは事実(体力・腕力など)適材適所が良いと思いますし、リーダーを増やすことで会合が増えるなど他に影響が出そう。	男性	40 歳代
この様な取り組みに女性は段々と活発になってきましたが、その反対に男性が元気がなくなったような気もします。負けないうで自信を持って頑張ってください。	女性	70 歳代
「出産」という言葉を男女とも十分理解できていないように感じる。出産・育児という期間でのお互いの立場の違いを知る必要がある。今は時の流れになっている。	男性	60 歳代
記入しながら知らないことがたくさんあるな、もっと広く視野や考えを持っていきたいなと思った。パワハラ・セクハラな発言は、中高年の人が軽い感じで言っているのを聞くとヒヤヒヤする。前は、それが当たり前だったんだな一と思うが、そうじゃない世の中になってほしい。	女性	30 歳代
男だから女だからではなく個人としての認め合えるといいのにはと思います。「みんな違って、みんないい。」ですよ。	女性	50 歳代
1. 男性市長の時は副市長は女性とする。女性市長なら男性副市長。 2. 法的改正で議員数も男性、女性を半数ずつに。 ※学校は男性、女性の教職員数は半数ずつでうまく教育向上に進んでいる。	男性	70 歳代
男女共同といっても本質的に違う部分があるのでその辺を考えた上で行うべき。	女性	70 歳代

男女共同参画に参加して見たいと思ったことはありません！が方針を変えて自身の身のまわりに居る弱者の笑顔を見たくて手助け？らしき事をしております。頼られ喜んで戴ければ私も幸福ですから！？有難うございました。(81歳)	女性	70 歳代
人権尊重から言えば男女の差別はあってはいけないと思います。ただ、男らしさ、女らしさは自然的なもので世の中に「らしさ」があれば全て円満にいくものと思います。又人権のみを要求する前に他人を思いやる個人、家庭が増えることであたたかい町や国づくりが出来ると思います。	男性	50 歳代
・セクハラが心配なら、女性全員に護身術を。 ・宇城市が率先して男女5:5の委員、管理職を決定すると全国に名を売るいい機会だと思います。	男性	70 歳代
男女共同参画、平等などと言われておりますが、実際は男性が育児休暇取得しづらかったり、家事育児は女性がするものだという風潮が強いと思う。独身の頃「女性は早く結婚した方が良い」「まだ結婚の予定はないの？」など、家族以外からよく言われていたが、結婚することが一番正しいという概念はなく、性別や個々の事情でできない方もいる中で、そういった発言をする人が少しでも減ると良いと思う。未婚率の増加や出生率の低下は、育休取得制度含め職場環境に原因があると思うので、社会全体で個々の意識改革をしていかないと変わらないと思う。	女性	30 歳代
男性も忙しい時、家事特に料理能力を高めてほしい。	男性	60 歳代
男女がお互いを思いやり、協力することが大切ですね！歩みより。おもいやり！！	女性	50 歳代
男性も仕事で介護職や看護師をされている方は気づかひのできる人が多い様に思います。普段から周りの人のお世話をされていると育児や家事にあまり抵抗のない気がします。 結婚して子どものいる人には社会は優しいですが、独身には生きづらさが多い様に思います。同じ仕事をしていても独身の方の負担は男女ともに多いのでは？結婚するしないにしても同じ納税者として社会的にも考えていただきたいです。男女ともに子供がいないと結婚しないと損ではない、そんな考えも多いと思います。	女性	30 歳代
男性だから、女性だからと相手を卑下することはあってはならない差別だと思います。ただ、男女平等も行き過ぎると、男性だから女性だからと相手を尊敬することも差別としかねません。また、女性優先という特別扱いも都合良く差別としない傾向が女性側にあることも確かです。元来、男女は能力に差がある…ではなく違いがあるので、それぞれがその違いを生かし違いを尊重して協力し合えたらこういったアンケートも必要なくなるのでしょうかね。	女性	50 歳代
男女が個性に能力を発揮し、男女がお互いを尊重し合える社会になるように教育を考えてほしいです。たいせつな事、生命を考えてほしい。自分のわかい時は男性は仕事、女性は家庭という役割分担がありました。新しい社会を作ってほしい。	女性	60 歳代
教育が一番の近道だと思う。	女性	40 歳代
・男女ともに暮らしやすいまち作りをよろしくお願いします。 ・子供たちが同じように夢を持って、学校に投稿できるように支援をお願いします。(不登校家庭の支援)	女性	50 歳代

全てが男とか女と言っているがなんの調査？きちんとおたがいが腹の底からなんでも言い合えることが一番大事とおもう。	男性	50 歳代
女性は結婚したら仕事と家事の両立が大変だと思うので、男性の協力が不可欠だと思う。	女性	50 歳代
関係のない事かも知れませんが自己肯定感の低い子供達が増えていることが心配です。男女の差に限らず、自己を認めることで他者を認めることが出来ると考えています。自己肯定感をはぐくむことのできる家庭力をどうにか支えることが出来れば良いのにとおもいます。 いつもお世話になっております。お疲れ様です。	女性	30 歳代
道はまだ遠いと思います。田舎だと老人が多いし女子供という考えが根強い。子供のうちから教育していかないとダメでしょうね。今さら70のじいさんに男女共同参画なんて言うだけムダ！！	女性	50 歳代
男性女性にそれぞれの考え方や物の価値感がありますから各意見を尊重しつつ女性が社会的に遠慮なく物事の発言や意見ができるような社会になってほしいです。いつの時代も「女性だから〇〇できない、していない」との言葉をききます。男性の立場も責任の重いポジションに割り当てられる事が多々あるかと思いますが、お互いが偏見な目でみることなく歩み寄れることを希望します。	女性	30 歳代
私が育った社会環境を考えると今日はいろいろと前向きでこの様な現状を良いと思います。 旧新を鑑み恵まれていると思います。従って職業婦人や公務員じゃなく家庭内での子育て主婦でも沢山の能力を持って居られる人が多くいらっしゃいますよ。	女性	70 歳代
基本的に人が人として支え合いながらその人個人個人が自分の役割をどう考え尊重し合い生活してゆくのか男性だから女性だからこうあるべきという考え方ではなく支え合える協力し合える社旗になるとよいと思います。まとまりのない意見ですが道徳心、心の教育を充実して欲しいと思う社会になりつつあると考え一意見を書きました。	女性	50 歳代
男女共同参画はとても重要なことだと思う。女性はもっとどんどん社会に出て仕事を持ち男性は仕事しながら家庭でのことをしっかりすべき！！とかたにはまった考え方をするのではなく、性差もあり、できることできないこともある。多種多様な考え方があることを受け入れて男女共同参画を進めていく必要があると考える。(けどみんなの意見を聞いていたら難しい…。)	女性	30 歳代
熊本地震の際、熊本市男女共同参画センターが作成した避難所でのセクハラ防止(被害にあった時の相談先とかの Tel)のチラシを宇城市の避難所で貼りたいと伝えしたが、「他市のものは貼れない」「ムリだ」とどこでも断られた。他市のものでも立派な啓発になるはず。柔軟性のない対応に残念でした。	女性	40 歳代
組織に従う女性管理職は不要。女性を背負った発言・意見のできる権限と人材の確保。	男性	40 歳代
年齢が高い人程、男女共同参画に理解がない感じます。共働きも普通となり若い世代は協力的な面を多くみうけられます。親、祖父母世代が足を引っ張ることない。前向きな姿勢でいてほしい。勤務先で育児休業申請をした際、男性上司から断られ正	女性	40 歳代

式な申請させてくれませんでした。つらい思いは10年以上たっても忘れられないものです。これからの世代の方々には私と同じ思いをさせたくないと思います。		
すべての業種において男女共同参画を強要したり関与させてゆく考え方には無理がある。くそ暑いのに屋根に登って瓦を替えたり、泥を洗ったりする力仕事など女性には身体的に不向きな職種の存在がある。容姿や性別に適合した職種の領域にまで及んで、男女共同参画は根本的に現実と矛盾した考え方である。適材適所は共同参画と同一視するべきではないと思います。	男性	50 歳代
若い人はそうないかもしれないが40才~の時代は男は仕事、女は家という考えの人も多いように思う。農家は女性は朝から家事をし、仕事も夕食も作らなければならぬ。男性は仕事はするが家事はしない(私の回りだけかも?)。	女性	40 歳代
地道に取り組んでいく問題であると思う。意識の変容が必要であるし、教育にも期待したい。	女性	60 歳代
私がまだ小学生のころ、家に帰って父母の手伝いをしていると、父が母を突然殴り始めて、間に入って、私も殴られました。どうしてなのかなと子供心に悩みました。誰も助けてくれない……。それから、50年伯母にそのことを聞いたら父が悪いと思っていたら母も口が悪いことが分かった。でも、子供のころはわからなかったんだと…。	女性	60 歳代
幸い私の職場では男女格差はほぼありません。逆に女性リーダーが多く活躍しています。しかし、結婚出産となった時には、どうしても女性の方が家庭を優先しがちです。両立が容易にできるような環境設備は働く女性にとっては、不可欠です。かつ企業の意識改革も必要と思います。	女性	50 歳代
若い世代はそれ程でもないが、高年齢者には昔からの思想が残っている人が多く見られる。その為、その思想を当たり前と思い育った年代が女性に対する仕事、家事、育児、介護等への心がまえが女性にとって厳しい物となっていると思われる。共同参加に対しても若い世代より上の世代の人の方が難しいのではないか?そのあたりの意識改善もとても必要と思います。	女性	50 歳代
このような調査が本当に活かされることを切に願います。	女性	60 歳代
DV=男→女のみではなく女→男もあることなど、女性=弱者という偏見もよくない。男女共同参画の考え方は、今や現役世代にも浸透しつつありますが、「男女の性差」も認識されるべきであり、単に女性の社会進出を斡旋するのめいかなものかと感じています。女性の意見をきちんと尊重できる社会を望んでいます。	男性	30 歳代
設問に対して適当な解答がみつかりませんでしたので、途中でやめさせていただきました。解答をどちらかに寄せたがっていますね。	男性	40 歳代
自身の現状をもっと客観的に見て考えること、知ることが大切だと思う。こんなものと諦め、我慢することで社会は良くなれないと思いました。男女には違いはあること。差別はあってはならないこと。	女性	70 歳代
女性・男性が男女共同参画について学べる機会も必要とは思いますが、「急がば回れ」ではないですが、学校教育などで子供の時から、学ぶ機会に触れることで、将来的には今とは全く違った社会になっているのではないのかなと思います。	女性	40 歳代

<p>市民一人一人の意識の底上げ、一人一人の啓発学習の底上げしないと、リーダーが頑張っても形ばかりになる。自治会モデル区から転居したから痛切に感じる。</p>	女性	60 歳代
<p>アンケートの質問やニュアンスに、すでに女性を軽視しているように感じました。このような考え方では、宇城市は変わらないと思います。</p>	女性	30 歳代
<p>自分(30代)の親世代はどうしても亭主関白の方が多くいらっしゃると思います。反面教師もいれば、そのままそっくり受け継ぐ人もいらっしゃる。中々難しい問題でもあると思います。確かに女性は、男性に比べると力は弱いですが、でもその他は何も変わりません。今は昔に比べると少しずつ男性が家庭のことを手伝ってくれるようになったかなと言うより、今の若い世代の男性は意欲的だと思います。子育てにしても、保育園の送迎をよく見かけます。時間はかかるものですが、ひとりひとりが意識して平等に生きていく世の中になるようにしたいですね。</p>	女性	30 歳代
<p>私達の家族に障がいを持つ子供がいます。共に働くにあたり、預ける施設、日数の限度等があり、働きに支障がある。働く＝稼ぐではなく、社会の一員として何かしたい人がたくさんいると思う。時短労働など男性の私の会社では、制度なく基本8Hとなり、1～2H 早く帰れなければ、金額ではなく、子供に接することができる</p>		50 歳代

## 資料編

調査票

## 男女共同参画に関する市民意識調査

### 【 調査ご協力をお願い】

宇城市では、「女（ひと）と男（ひと）で築く、やさしく住みよいまちづくり」を基本理念として、男女共同参画社会の実現に向けての取り組みを進めています。

その一環として、5年毎に「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施しており、今回は、住民基本台帳から満20歳以上の市民3,000人を無作為に選ばせていただきました。

この調査は、皆様の日常生活の実態や考えをお伺いすることで、男女共同参画に関する意識や現状を把握し、今後の男女共同参画の計画や施策に反映させるための、大切な調査です。

調査結果は機械的に処理されますので、個人情報や個人の考え等が明らかになることは一切ありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力いただきますようお願いいたします。

令和2年7月

宇城市長 守田 憲史

### 【 ご記入に当たってのお願い】

- この調査票は、必ず宛名のご本人様にご記入下さい。 ※代筆は可能です。
- 質問ごとに当てはまる回答の番号を選び、その番号を○で囲んでください。○をつける数は、質問中の指示に従ってください。
- 「鉛筆」または「黒色のボールペン」ではっきりとご記入ください。
- 「その他（具体的に： ）」に当てはまる場合は、お手数ですが詳細にお書きください。
- 記入後の調査票は、記入もれがないかをご確認のうえ、同封の返信用封筒で  
**7月31日（金）までにポストに投函してください。 ※切手は不要です。**

### 【 お問い合わせ先】

宇城市役所 総務部 人権啓発課・男女共生係（大和・村上）

TEL：32-1111（内線1251）

32-1708（直通）

FAX：32-0110

E-mail：jinkenkeihatsuka@city.uki.lg.jp







## 男女平等について

問2 あなたは、男性と女性は平等であると思いますか。(1)~(9)について、あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	女性の方が非平等 と感じています	どちらかといえば 女性の方が非平等 と感じています	平等である	どちらかといえば 男性の方が非平等 と感じています	男性の方が非平等 と感じています	わからない
(1) 家庭生活では	1	2	3	4	5	6
(2) 就職・採用では	1	2	3	4	5	6
(3) 職場では	1	2	3	4	5	6
(4) 学校教育の場では	1	2	3	4	5	6
(5) 地域活動・社会活動の場では	1	2	3	4	5	6
(6) 政治・政策決定の場では	1	2	3	4	5	6
(7) 法律や制度の上では	1	2	3	4	5	6
(8) 社会通念・慣習・しきたりなどでは	1	2	3	4	5	6
(9) 社会全体では	1	2	3	4	5	6



## 結婚観について

問3 次に掲げる(1)~(4)について、あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	その 思う 程度	どちらかといえば その 思う 程度	その 思う 程度	わからない
(1) 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
(2) 精神的にも経済的にも安定するから、結婚したほうがよい	1	2	3	4	5
(3) 夫婦が別々の姓(別姓)を名乗ってよい	1	2	3	4	5
(4) 結婚したら、離婚すべきでない	1	2	3	4	5



## 家庭生活全般について

問4 あなたのご家庭では、次に掲げることは、主にどなたの役割ですか。(1)～(11)について、あてはまる番号を選び、○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	主として自分	主として配偶者	自分と配偶者が同じくらい	その他※	家族全員で分担している	特に決まっていな	該当無し
(1) 家計を支えるための収入を得る	1	2	3	( 4 )	5	6	
(2) 家計の管理	1	2	3	( 4 )	5	6	
(3) 掃除	1	2	3	( 4 )	5	6	
(4) 洗濯	1	2	3	( 4 )	5	6	
(5) 食事の準備	1	2	3	( 4 )	5	6	
(6) 食事のあとかたづけ	1	2	3	( 4 )	5	6	
(7) 育児、子どものしつけ	1	2	3	( 4 )	5	6	7
(8) 子どもの教育方針の決定	1	2	3	( 4 )	5	6	7
(9) 親の世話(介護)	1	2	3	( 4 )	5	6	7
(10) 家庭の問題における最終的な決定	1	2	3	( 4 )	5	6	
(11) 地区の行事などの地域活動	1	2	3	( 4 )	5	6	

※ その他(具体的に: 例: 父、母、祖父、祖母など)

問5 あなたは、「男性は仕事、女性は家事・育児・介護」という性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。(○は1つ)

- |                  |                  |          |
|------------------|------------------|----------|
| 1. 賛成である         | 3. どちらかといえば反対である | 5. わからない |
| 2. どちらかといえば賛成である | 4. 反対である         |          |

問6 あなたが家事(育児・介護を含む)に費やす時間は1日どれくらいですか。次のA・Bについて、あてはまる番号を選び、○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	全くして いない	30分未満	30分以上 1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 3時間未満	3時間以上
A 平日	1	2	3	4	5	6
B 休日	1	2	3	4	5	6



## 子育て・教育について

問7 最近、子どもの数が減少傾向にあります。その理由は何だと思えますか。あなたの考えに近い番号を3つ選び、○で囲んでください。(○は3つまで)

1. 子育てにお金がかかるから
2. 結婚年齢が上がっているから
3. 出産や育児に対する男性(夫)の理解や協力が少ないから
4. 出産・育児には女性の肉体的・精神的な負担が大きいため
5. 女性が働きながら子どもを育てる条件が整っていないから
6. 出産すると仕事を辞めなくてはならないから
7. 生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから
8. 子どもを少なく産んで、大切に育てようとする人が増えたから
9. 子育てに望ましい環境が整備されていないから(仕事以外)
10. 雇用の不安など、将来の暮らしに希望が持てないから
11. 結婚を望んでいても、相手が見つからずに結婚できない人が増えているから
12. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)
13. わからない

問8 あなたは、子どもの育て方について、どのように思いますか。(1)~(5)について、あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	その 思う	その 思う たぶん いいかも ない	その 思う たぶん いいかも ない	その 思う たぶん いいかも ない	わ か ら な い
(1) 女の子も男の子も、経済的・精神的な自立を目指した教育が必要だ	1	2	3	4	5
(2) 女の子も男の子も、炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術が必要だ	1	2	3	4	5
(3) 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい	1	2	3	4	5
(4) 学校での出席簿など、男女混合にしたほうがよい	1	2	3	4	5
(5) 男の子も女の子も、生まれもった個性・才能を可能な限りいかして育てたほうがよい	1	2	3	4	5



## 女性の社会参画について

問 9 あなたは、女性が職業をもつことについて、どう思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。(○は1つ)

1. 経済的自立のために、職業をもっている方がよい
2. 結婚するまでは職業をもち、あとはもたない方がよい
3. 子どもができるまで職業をもち、あとはもたない方がよい
4. 子どもができたなら職業を中断し、子どもに手がかからなくなって再びもつ方がよい
5. 女性は職業をもたない方がよい
6. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)
7. わからない

問 10 女性が職業を持ち続けるうえでの問題はどのようなことだと思いますか。あなたの考えに近い番号を3つ選び、○で囲んでください。(○は3つまで)

1. 育児休業や介護休業などを取りにくい雰囲気がある
2. 育児休業や介護休業制度などが十分整備されていない
3. 男女の待遇(賃金・昇進・仕事内容)に格差がある
4. 労働時間が長い
5. 転勤がある
6. 短期契約(1年更新の嘱託契約など)等の不安定な雇用形態がある
7. 教育・訓練を受ける機会が少ない
8. 女性の能力が正当に評価されない
9. 女性が永く勤め続けにくい雰囲気がある
10. セクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)がある
11. 仕事を続けることへの家族の理解・協力が不十分である
12. 男性の側に、男女平等な立場で就労していこうとする意識が欠けている
13. 女性自身に職業を持ち続けようという意識がない
14. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)
15. 特に問題はない



ご存じですか?  
宇城の市木  
「 \_\_\_\_\_ 」



問 1 1 自治会・PTAの会長など、地域の団体の代表や政治・行政・職場等の企画立案、決定の場に女性が少ない原因は何だと思えますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。(○はいくつでも)

- |                             |                            |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1. 社会通念・しきたり・慣習から男性が選出されるため | 5. 地域において女性が代表となった前例が少ないため |
| 2. 家事が忙しく時間がないから            | 6. その他(具体的に: )             |
| 3. 家庭の支援、協力が得られないから         | 7. わからない                   |
| 4. 女性を受け入れる環境づくりが出来ていないため   |                            |



### 仕事、家庭、地域活動等の両立について

※問 12 は、現在職業をもっている人、以前職業を持っていた人におたずねします。それ以外の方は、問 13 にお進みください。

問 1 2 - ① 男女が働きやすい職場をつくるため、「育児休業」や「介護休業」という制度があります。あなたは、育児休業や介護休業を取得したことがありますか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。

- |       |                |
|-------|----------------|
| 1. ある | 2. ない ⇨ 問 13 へ |
|-------|----------------|

※問 1 2 - ①で、「1. ある」と答えた方におたずねします。

問 1 2 - ② どの制度を取られましたか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

- |         |         |       |
|---------|---------|-------|
| 1. 育児休業 | 2. 介護休業 | 3. 両方 |
|---------|---------|-------|

問 1 3 育児休業や介護休業をとる男性が少ない理由は、何だと思えますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。(○はいくつでも)

- |                     |                          |
|---------------------|--------------------------|
| 1. 昇進や昇給に影響する恐れがある  | 6. 女性の方が育児・介護に向いている      |
| 2. 育児・介護休業は女性がとるものだ | 7. 男性は仕事を優先するべきだと考えているから |
| 3. 休業補償が少なく、家計に影響する | 8. その他(具体的に: )           |
| 4. 仕事の量や責任が大きい      | 9. わからない                 |
| 5. 職場の理解が得られないと思う   |                          |



正解は…  
宇城の市木「さくら」

問 1 4 あなたは現在、地域でどのような活動に参加していますか。また、今後参加してみたい活動は何ですか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。(○はいくつでも)

	町内自治会・婦人会・老人会・消防団などの活動	PTAや子ども会などの活動	趣味・スポーツ・学習などの活動	消費生活や環境保護などの住民活動	福祉ボランティアなどの活動	審議会などの政策決定にかかわる活動	※その他の活動 ( )	参加していない・参加したくない
(1) 現在参加している	1	2	3	4	5	6	7	8
(2) 今後参加したい	1	2	3	4	5	6	7	8

問 1 5 あなたが地域活動へ参加する際に支障となること、または参加しない理由は何ですか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。(○はいくつでも)

- |                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| 1. 活動団体や活動内容を知らない | 7. 参加することに家族が協力的ではない |
| 2. 参加するきっかけがない    | 8. 経済的余裕がない          |
| 3. 仕事が忙しい         | 9. 人間関係がわずらわしい       |
| 4. 家事や育児、介護で忙しい   | 10. その他(具体的に：)       |
| 5. 健康・体力に不安がある    | 11. 特になし             |
| 6. 地域活動に関心がない     |                      |

問 1 6-① あなたが生活を送るうえで、希望に最も近い番号を選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

1. 「仕事」を優先したい
2. 「家庭生活」※1を優先したい
3. 「地域・個人の生活」※2を優先したい
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
8. わからない

※以下の用語の解説をご参照ください

※1「家庭生活」

家族と過ごすこと、家事、育児、介護など

※2「地域・個人の生活」

地域活動(ボランティア活動、社会参加活動など)、趣味・娯楽など

問16-② あなたの生活で、現実(現状)に最も近い番号を選び、○で囲んでください。  
(○は1つだけ)

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活」を優先している
3. 「地域・個人の生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
8. わからない

問17 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。(○はいくつでも)

1. 男性自身が、家事などに参加することへの抵抗感をなくすこと
2. 男性が家事などに参加することへの、女性の抵抗感をなくすこと
3. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること
4. まわりの人が、夫婦の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること
5. 社会の中で、男性が家事などに参加することへの評価を高めること
6. 労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
7. 男性自身の参加への関心が高まるよう、啓発や情報提供を進めること
8. 市が開催するセミナー等で、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
9. 男性の参加のための仲間(ネットワーク)づくりを進めること
10. その他(具体的に： )
11. 特に必要なことはない



#### 三角西港

明治の産業形成期、石炭輸送の発展を示す物証であり、三池炭鉱の良質な石炭を上海(中国)へ輸出するための輸送インフラとして、近代的な石炭産業の発展を示す実例です。「明治日本の産業革命遺産」の世界遺産の価値に貢献する構成資産として高く評価されています。





## 配偶者などからの暴力について

問 1 8 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(通称:DV防止法※)が平成13(2001)年10月に施行されましたが、あなたはこの法律を知っていますか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

- |                        |         |
|------------------------|---------|
| 1. 法律の内容まで知っている        | 3. 知らない |
| 2. 名前は聞いたことがあるが内容は知らない |         |

※以下の用語の解説をご参照ください

※ ドメスティック・バイオレンス (DV)

親しい間柄にある男女(夫婦や元夫婦、パートナー)間におきる暴力のこと。身体的、精神的、経済的、性的、子どもを利用した暴力がある。

問 1 9 - ① あなたは、これまでに恋人や配偶者(事実婚や別居中、離婚後を含む)などの親しい間柄で、次のA~Nについて、あてはまるようなことをしたりされたりしたことがありますか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

		ある されたことが	ある したことが	どちらもある	どちらもない
身体への 攻撃	A 手でたたく・突き飛ばす、足でける	1	2	3	4
	B 身体を傷つける可能性のあるもので殴る	1	2	3	4
	C 命の危険を感じるほどの暴力	1	2	3	4
威嚇・ おどし	D 暴力をふるうふりをしておどす	1	2	3	4
	E ものを投げたり壊したりしておどす	1	2	3	4
	F 大声でどなって威嚇する	1	2	3	4
精神的・ 経済的 暴力	G 何を言っても、長時間無視し続ける	1	2	3	4
	H 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をする	1	2	3	4
	I 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「安月給」「甲斐性なし」「死ね」などとののしる	1	2	3	4
	J 社会活動や就職などを許さない	1	2	3	4
	K 交友関係や電話、郵便物、お金の使い道などを細かく監視する	1	2	3	4
	L 生活費を渡さないなど、経済的に押さえつける	1	2	3	4
性的暴力	M 嫌がっているのに性的行為を強要する	1	2	3	4
	N 避妊に協力しない	1	2	3	4

※問 19-①で1つでも「されたことがある」とお答えの方にお聞きします。

(該当しない方は次ページの問 20 へお進みください)

問 19-② あなたはそのような行為を受けた時、どうしましたか。次の中で、あてはまる番号を選び、○で囲んでください。(○はいくつでも)

- |                                    |                     |
|------------------------------------|---------------------|
| 1. 警察に連絡・相談した                      | 6. 家を出た(別居した)       |
| 2. 女性相談所・役所の相談窓口・<br>人権擁護委員などに相談した | 7. 離婚した             |
| 3. 家族・親族・友人に相談した                   | 8. 我慢した             |
| 4. 民間の機関(弁護士会など)に相談した              | 9. その他(具体的に： )      |
| 5. 医師に相談した                         | 10. どこ(だれ)にも相談しなかった |

※問 19-②で「8. 我慢した」や「10. どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた方におたずねします。(該当しない方は次ページの問 20 へお進みください。)

問 19-③ それはなぜですか。次の中からあてはまる番号を選び、○で囲んでください。(○はいくつでも)

1. どこ(だれ)に相談してよいかわからなかったから
2. 恥ずかしくて、だれにも言えなかったから
3. 相談しても無駄だと思ったから
4. 相談したことが分ると、仕返しをされたり暴力がさらにひどくなると思ったから
5. 相談担当者の言動により、不快な思いをすと思ったから
6. 自分さえ我慢すれば、何とかこのままでやっていけると思ったから
7. 他人を巻き込みたくなかったから
8. 被害を受けたことを忘れたかったから
9. 自分にも悪いところがあると思ったから
10. 相談するほどのことではないと思ったから
11. その他(具体的に： )



宇城市の市花は  
「コスモス」  
市鳥は  
「うぐいす」  
です。ご存じでしたか？



## 男女間のセクハラについて

問20-① 次のような行為はセクハラ(性的嫌がらせ)ですが、あなたは職場の上司や同僚・学校・地域などで、したりされたりしたことがありますか。次の(1)～(10)について、あてはまる番号を選び、○で囲んでください。(○はいくつでも)

	されたことがある	したことがある	見たり聞いたりしたことがある	まったくない
(1) 「男のくせに・・・」「女のくせに・・・」など差別的な言葉を使う	1	2	3	4
(2) 「結婚はまだ?」「子どもはまだ?」としつこく言う	1	2	3	4
(3) 性的な冗談や質問、冷やかしの言葉を使う	1	2	3	4
(4) 異性関係が派手だなどと、性的な噂(うわさ)を流す	1	2	3	4
(5) 異性の同僚をしろしろ眺めたり、容姿を話題にしたりする	1	2	3	4
(6) ヌード写真やわいせつな本を飾ったり見せびらかしたりする	1	2	3	4
(7) 接待や宴席で、酌やデュエット、ダンスを強要する	1	2	3	4
(8) 触る、抱きつく、しつこく付きまとう	1	2	3	4
(9) 地位や権限を利用して、性的関係を迫る	1	2	3	4
(10) 携帯電話やパソコンのメール、SNS等でしつこく誘う	1	2	3	4

問20-②へ 問21へ

※問20-①で1つでも「されたことがある」と答えた方にお尋ねします。

(該当しない方は次ページの問21へお進みください)

問20-② そのことについて、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。次の中からあてはまる番号を選び、○で囲んでください。(○はいくつでも)

- |                  |                    |
|------------------|--------------------|
| 1. 上司・同僚に相談した    | 4. 家族・友人・知人に相談した   |
| 2. 職場内の相談窓口で相談した | 5. その他(具体的に: )     |
| 3. 労働局雇用均等室に相談した | 6. だれ(どこ)にも相談しなかった |



宇城市は「男女共同参画宣言都市」です

※平成19年11月21日に宣言



## 人権の尊重について

問 2 1 DVやセクハラなどの人権侵害をあらゆる分野からなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。

(○はいくつでも)

1. 相手を対等なパートナーとして見るような意識の啓発
2. 不快な言動、行動に対しはっきり意思表示ができる環境と意識づくり
3. DVやセクハラに対する罰則を強化した法律や規則などの整備
4. 苦情や悩みに的確に対応できる相談体制の充実
5. 警察や医師及び職場の役職者といった被害者を発見しやすい人たちへの研修・啓発、ネットワークの強化
6. 学校での男女平等教育の推進
7. メディアの性・暴力表現の倫理強化
8. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
9. 特に必要なものはない

問 2 2 あなたが、男性および女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。(○はいくつでも)

- |                                 |                         |
|---------------------------------|-------------------------|
| 1. 配偶者・パートナーからの暴力<br>(言葉の暴力を含む) | 6. 風俗営業                 |
| 2. セクシュアル・ハラスメント<br>(性的嫌がらせ)    | 7. 容姿を競うミスコンテストなどの開催    |
| 3. ストーカー行為(つきまとい)               | 8. ヌード写真やポルノ雑誌など        |
| 4. 売春・買春                        | 9. 職場や仲間による言葉の暴力        |
| 5. 痴漢行為や強制わいせつなどの性犯罪            | 10. 就職の機会や賃金・昇進など男性との格差 |
|                                 | 11. その他（具体的に： _____ )   |





## メディアにおける性・暴力表現に関する意識について

問 2 3 メディア(テレビや映画、出版物)における性・暴力表現について、あなたはどのように思いますか。あなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。(○はいくつでも)

1. 性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ
2. 社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている
3. 社会的弱者や女性に対する犯罪を助長するおそれがある
4. 子どもの目に触れないような配慮が足りない
5. 女性や男性のイメージに偏った表現であらわしている
6. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)
7. 特に問題とは思わない



## 男女共同参画に関するご意見やご要望

問 2 4 あなたは、男女平等や男女共同参画をテーマにする話題にどの程度関心がありますか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。(○は1つだけ)

- |              |              |            |
|--------------|--------------|------------|
| 1. 非常に関心がある  | 3. あまり関心がない  | 5. 全く関心がない |
| 2. まあまあ関心がある | 4. ほとんど関心がない |            |

問 2 5 農林漁業の分野で男女共同参画を進めていくために必要なことは何だと思えますか。あなたの考えに近い番号を3つ選び、○で囲んでください。(○は3つまで)

1. 農林漁業にたずさわる人々の男女共同参画社会づくりの意識を高めること
2. 委員や役員など、政策・意思決定の場へ女性の登用をすすめること
3. 休日の確保、重労働の解消など就業環境の改善により、男女とも家庭生活以外の活動に参加しやすくすること
4. 女性が農林漁業経営者として能力を向上させること
5. 家族経営協定等により女性が責任を持って経営に参画すること
6. 加工品製造、直売所の運営、食や地域文化の継承活動など、新たな分野で女性の活躍の場をつくること
7. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)
8. 特に必要なものはない



問26 次の言葉のうち、あなたは見たり聞いたりしたことがありますか。あてはまる番号を選び、○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	よく知っている	内容(意味)を多少は知っている	名称(言葉)は知っている	全く知らない
アンパイド・ワーク※1	1	2	3	4
ワーク・ライフ・バランス※2	1	2	3	4
マタハラ・パタハラ	1	2	3	4
ポジティブ・アクション	1	2	3	4
育児・介護休業法	1	2	3	4
家族経営協定	1	2	3	4
ジェンダー※3	1	2	3	4
LGBT※4	1	2	3	4
ダイバーシティ※5	1	2	3	4
宇城市男女共同参画推進条例	1	2	3	4
男女共同参画社会基本法	1	2	3	4
男女雇用機会均等法	1	2	3	4

※以下の用語の解説をご参照ください。

※1 アンパイド・ワーク

無償労働と訳され、賃金、報酬が支払われない労働、活動を意味します。無償労働の範囲は、サービスを提供する主体とそのサービスを受取る主体が分離可能で、かつ市場でそのサービスが提供される行動とされ、具体的には、家事、介護・看護、育児、買物、社会的行動を無償労働の範囲とされています。

※2 ワーク・ライフ・バランス

仕事と生活の調和。仕事と生活の調和が実現した社会とは、「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」とされています。

※3 ジェンダー

人間には生まれつきの生物学的性別がある一方で、社会通念や慣習の中で社会によって作りあげられた「男性像」「女性像」があります。このような男性、女性の性差を「ジェンダー（社会的性別）」といいます。

※4 LGBT

「LGBT」とは、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字をとって組み合わせたものです。「LGBT」という言葉は、性的マイノリティ（性的少数者）の総称としても使われています。

※5 ダイバーシティ

多様性のこと。性別や国籍、年齢などに関わりなく、多様な個性が力を発揮し、共存できる社会のことをダイバーシティ社会といいます。







## 熊本地震や復興関連について

問 28 平成 28 年 4 月の熊本地震発災時、男女のニーズの違いを踏まえた避難所の対応などが十分には行われず、過去の大規模な災害(阪神・淡路大震災や東日本大震災等)の教訓が一部生かされなかったという問題がありました。今後の大規模災害に備え、「性別による違い」に配慮した取り組みはどの程度必要だと思いますか。(1)～(8)についてあなたの考えに近い番号を選び、○で囲んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

	とても必要だと思います	どちらかといえば必要だと思います	どちらかといえば必要ないと思います	まったく必要はないと思います	分からない
(1) 防災計画の策定の場に男女がともに参画する	1	2	3	4	5
(2) 自治会や地域の自主防災組織の女性リーダーを増やす	1	2	3	4	5
(3) 避難所の運営マニュアルに男女双方の視点を反映させる	1	2	3	4	5
(4) 避難所運営の責任者に男女がともに加わる	1	2	3	4	5
(5) 男女のニーズの違いに応じた相談や情報提供を行う	1	2	3	4	5
(6) 男女の違いに配慮した救援医療や健康支援を行う	1	2	3	4	5
(7) 復興まちづくりの内容などを決める場に男女がともに参画する	1	2	3	4	5
(8) 発災後に増加が懸念される性暴力や DV への対策を強化する	1	2	3	4	5

男女共同参画に関するご意見やご要望をご自由にお書きください。

お手数ですが、各質問に記入漏れがないか、もう一度お確かめいただき、同封の封筒に入れて投函してください。

※ご協力いただき、誠にありがとうございました。



---

男女共同参画に関する市民意識調査

報告書

令和3年1月

発	行	宇城市 総務部 人権啓発課 男女共生係
電	話	0964-32-1111 (内線 1251)
F A X		0964-32-0110
E メール		jinkenkeihatsuka@city.uki.lg.jp